

大学院環境科学院

年 次 報 告 書

平成 26 年度

北海道大学大学院環境科学院
年次報告書 平成26年度

目次

はじめに	1
I 組織	3
1 沿革	5
2 教員組織	7
3 事務組織	9
4 各種委員会	9
II 学生の受入	11
5 入学試験	13
6 学生定員と現員の推移	14
7 留学生数の推移と支援体制	17
III 教育活動	21
8 専攻・コース編成	23
9 カリキュラム編成	24
10 公開コースの開催	27
IV 成果	31
1 1 学位取得状況	33
1 2 研究成果発表状況	40
1 3 修了後の進路	81
V 補遺	83
1 4 規程	85
1 5 予算	92
1 6 安全管理	92
1 7 協定	94

はじめに

平成 26 年度の環境科学院の年次報告書を発行致します。

第 2 期中期目標期間も残すところ平成 27 年度のみとなり、平成 26 年度には外部委員による外部評価も行いました。学部を有しない独立大学院である本学院には、少子化や経済的状況の影響も大きく、学生定員を充足できていない専攻があるなど、第 3 期中期目標期間に向けての課題も多々御座います。しかし、我々を取り巻くこの世界の成り立ちとその人為起源の変化の解明解決へ向けた研究とともに、越境汚染の問題、汚染物質の除去や自然環境の修復、さらには、経済のグローバル化に伴う大競争時代の中での環境負荷を抑えた開発など、環境科学が扱うべき課題は増えることはあっても、決して減ることはありません。本学院は、そのような環境科学の種々の側面、基礎的事項から応用・実践までの広い範囲の教育を行い、環境科学およびその基礎に関する学識ならびに応用力を備えた有為な人材を学界、産業界、教育界などに排出し、環境問題の解決に資することを目的とし、日々努力を続けております。本報告書も、26 年度に行った外部点検評価結果およびこれまで提出した報告書とともに、さらなる改善へ向けての資料と致します。

北海道大学大学院環境科学院長 久保川 厚

I 組 織

1 沿革

大学院環境科学研究科

1977（昭和 52 年）	4月 1日	大学院環境科学研究科が設置される
	4月 1日	環境計画学専攻修士課程、環境構造学専攻修士課程、社会環境学専攻修士課程、環境保全学専攻修士課程が設置される
	4月 1日	環境計画学専攻博士後期課程が設置される
	4月 1日	環境構造学専攻博士後期課程が設置される
1979（昭和 54 年）	4月 1日	社会環境学専攻博士後期課程、環境保全学専攻博士後期課程が設置される
1980（昭和 55 年）	3月 10 日	管理棟・研究棟（現在の A 棟）・実験棟（6,898 m ² ）竣工
1987（昭和 62 年）	10月 17 日	大学院環境科学研究科創立 10 周年記念式典・祝賀会を開催
1988（昭和 63 年）	2月 20 日	大学院環境科学研究科創立 10 周年記念公開シンポジウムを開催

大学院地球環境科学研究科

1993（平成 5 年）	4月 1日	大学院地球環境科学研究科が設置される
	4月 1日	地圈環境科学専攻（修士課程、博士後期課程）、生態環境科学専攻（修士課程、博士後期課程）、物質環境科学専攻（修士課程、博士後期課程）が設置される
	7月 14 日	アメリカ合衆国・イリノイ大学大学院シカゴ校と部局間交流協定を締結
1994（平成 6 年）	4月 1日	大気海洋圏環境科学専攻修士課程が設置される
1995（平成 7 年）	3月 16 日	インドネシア共和国・パランカラヤ大学と部局間交流協定を締結
1996（平成 8 年）	2月 9 日	イギリス・ノッティンガム大学と部局間交流協定（～2002（平成 14 年）2月 6 日）
	4月 1日	大気海洋圏環境科学専攻博士後期課程が設置される
	12月 2 日	研究棟（現在の B 棟）（第一期 4,580 m ² ）竣工
1997（平成 9 年）	10月 17 日	ネパール連邦民主共和国・トリブバン大学科学技術研究科と部局間交流協定を締結
	11月 17 日	中華人民共和国・蘭州大学資源環境学院と部局間交流協定を締結
1998（平成 10 年）	1月 16 日	マレーシア・サバ大学科学技術研究科と部局間交流協定（～ 2003（平成 15 年）1 月 15 日）
2000（平成 12 年）	3月 27 日	研究棟（現在の C 棟）（第二期 5,282 m ² ）竣工
2003（平成 15 年）	9月 29 日	大学院地球環境科学研究科創立 10 周年記念シンポジウム・祝賀会を開催

大学院環境科学院

2005（平成 17 年）	4月 1日	大学院地球環境科学研究院が設置される
	4月 1日	統合環境科学部門、地球圏科学部門、環境生物科学部門、物質機能科学部門が設置される
	4月 1日	大学院環境科学院が設置される
	4月 1日	環境起業専攻（修士課程、博士後期課程）、地球圏科学専攻（修士課程、博士後期課程）、生物圏科学専攻（修士課程、博士後期課程）、環境物質科学専攻（修士課程、博士後期課程）が設置される
2006（平成 18 年）	8月 26 日	インドネシア共和国・パランカラヤ大学と大学間交流協定を締結
2007（平成 19 年）	6月 13 日	イスラエル・イスラエル工科大学チューリッヒ校と大学間交流協定を締結
2009（平成 21 年）	12月 24 日	講義棟（614 m ² ）竣工
2010（平成 22 年）	9月 2 日	中華民国・国立成功大学と部局間交流協定を締結
	10月 24 日	ネパール連邦民主共和国・トリブバン大学と大学間交流協定を締結
	10月 29 日	中華人民共和国・東南大学と大学間交流協定を締結

2011（平成23年）	4月1日	大学院地球環境科学研究院の分野を一部再編、大学院環境科学院のコースを一部再編
	4月13日	(株)星野リゾート・トマムとの間で連携協定を締結
	12月15日	環境中間支援会議・北海道との間で連携協定を締結
2012（平成24年）	5月31日	ドイツ連邦民主共和国・GEOMAR Helmholtz Centre for Ocean Research Kielと部局間交流協定を締結
	6月25日	中華民国・国立東華大学環境科学院と部局間交流協定を締結
	9月21日	(株)星野リゾート・トマム及び占冠村との間で連携協定を締結
2013（平成25年）	1月22日	アメリカ合衆国・ユタ大学大学院 ナノ研究所と部局間交流協定を締結
	7月29日	北海道コカ・コーラボトリング株式会社との間で連携協定を締結
2014（平成26年）	2月5日	マレーシア・サバ大学熱帯生物保全研究所と部局間交流協定を締結
	3月20日	インドネシア共和国・バンドン工科大学と大学間交流協定を締結
	9月29日	マレーシア・マレーシア大学テレンガヌ校と部局間交流協定を締結
2015（平成27年）	2月16日	ノルウェー・オスロ大学地球科学科と部局間交流協定を締結

1-2 歴代研究科長、研究院長・学院長

職名	氏名	在任期間
大学院環境科学研究科長	関 清秀	1977（昭和52年）4月1日～1979（昭和54年）3月31日
	高桑栄松	1979（昭和54年）4月1日～1980（昭和55年）3月31日
	明道博	1980（昭和55年）4月1日～1982（昭和57年）3月31日
	太田 實	1982（昭和57年）4月1日～1986（昭和61年）3月31日
	伊藤浩司	1986（昭和61年）4月1日～1990（平成2年）3月31日
	黒柳俊雄	1990（平成2年）4月1日～1992（平成4年）3月31日
	小島 豊	1992（平成4年）4月1日～1993（平成5年）3月31日
大学院地球環境科学研究科長	堀 浩	1993（平成5年）4月1日～1995（平成7年）3月31日
	戸倉清一	1995（平成7年）4月1日～1998（平成10年）3月31日
	西則雄	1998（平成10年）4月1日～2002（平成14年）3月31日
	池田元美	2002（平成14年）4月1日～2005（平成17年）3月31日
大学院地球環境科学 研究院長・ 大学院環境科学院長	池田元美	2005（平成17年）4月1日～2007（平成19年）3月31日
	岩熊敏夫	2007（平成19年）4月1日～2009（平成21年）3月31日
	南川雅男	2009（平成21年）4月1日～2011（平成23年）3月31日
	嶋津克明	2011（平成23年）4月1日～2013（平成25年）9月30日
	久保川厚	2013（平成25年）10月1日～

2 教員組織

学院長 久保川 厚
 副学院長 田中 俊逸
 学院長補佐 大原 雅

26.4.1現在

専 攻	コ ー ス	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手
環境起学専攻 専攻長 山中 康裕	人間・生態 システム	高田 壮則 露崎 史朗 渡邊 恒二	藤井 賢彦 石川 守 白岩 孝行 佐竹 曜子 佐藤 友徳 根岸淳二郎		澤柿 教伸	
	環境適応科学	古月 文志	<u>新岡 正</u> 豊田 和弘 沖野 龍文		藏崎 正明	
	実践環境科学	山中 康裕	<u>島村 道代</u>			
	国際環境保全	田中 俊逸 田中 教幸				
地球圏科学 専攻 専攻長 大島慶一郎	大気海洋 化学・ 環境変遷学	杉本 敦子 吉川 久幸 河村 公隆	山本 正伸 鈴木 光次 山下 洋平 西岡 純 渡辺 豊 関 宰		入野 智久 亀山 宗彥 宮崎 雄三	
	雪氷・寒冷圏 科学	<u>藤吉 康志</u> 渡辺 力 グレーべ, ラフル・ギュ ンター	杉山 慎		石井 吉之 曾根 敏雄 的場 澄人 下山 宏 飯塚 芳徳	
	大気海洋物理学・気候力学	久保川 厚 長谷部文雄 谷本 陽一 大島慶一郎 江淵 直人 三寺 史夫	藤原 正智 青木 茂 堀之内 武 深町 康 吉森 正和	中村 知裕	水田 元太 豊田 威信 川島 正行 松村 義正	

専攻	コース	教授	准教授	講師	助教	助手
生物圏科学 専攻 上田 宏	生態系生物学	原 登志彦 福井 学	隅田 明洋 笠原 康裕 落合 正則		大館 智志 小野 清美 小島 久弥 長谷川成明	
	生態遺伝学	木村 正人 大原 雅	鈴木 仁 三浦 徹			吉田 磨仁
	分子生物学	森川 正章	奥山英登志 山崎 健一 三輪 京子		鷺尾 健司	
	植物生態学	甲山 隆司	工藤 岳		久保 拓弥	
	動物生態学		野田 隆史 小泉 逸郎			
	海洋圏科学	岸 道郎 門谷 茂	工藤 獻 上野 洋路			
	水圏生物学	上田 宏 本村 泰三 山羽 悅郎 仲岡 雅裕 宮下 和士	宗原 弘幸 長里千香子 四ツ倉典滋 三谷 曜子		山本 潤 傳法 隆 伊佐田智規	
	森林圏環境学	佐藤 冬樹 日浦 勉 齊藤 隆 柴田 英昭 吉田 俊也	車 柱榮 門松 昌彦 植村 滋 揚妻 直樹 高木健太郎 内海 俊介 中路 達郎 岸田 治 中村 誠宏		野村 瞳 福澤加里部 小林 真	
	耕地圏科学	荒木 肇 山田 敏彦	星野洋一郎		平田 聰之	
環境物質科学 専攻 坂入 信夫	生体物質科学	坂入 信夫 松田 冬彦	山田 幸司 梅澤 大樹			
	ナノ環境材料	中村 博 小西 克明 八木 一三	神谷 裕一 川口 俊一 廣川 淳		中田 耕 七分 勇勝 加藤 優	
	光電子科学	太田 信廣 中村 貴義	中林 孝和 野呂真一郎		久保 和也	
	環境触媒化学	大澤 雅俊 大谷 文章	叶 深 コワルスカ、 エバ・カタルツ イーナ		本林 健太 高瀬 舞	

※ 斜体は特任教員・ゴシックは再雇用教員を示す。

3 事務組織

26.4.1 現在

環境科学事務部 事務長 宮内 政幸	担当	係 長	主 任	一般職員	契約職員等
	総 務	小島 将人	佐藤 優子 千葉 修士	野崎なつみ	梅原 美佳（事務補佐員） 青木 志穂（事務補助員）
	教 務	山下 昌利 巽 貞信	伊藤 郁子	田原 啓司	有本 花澄（事務補助員） 田辺よどみ（事務補助員）
	会 計	富樫 弘	山田 瞳代	佐藤 辰紀	本多 智子（事務補助員）
	図 書	菊池 健二			

GCOE フォロー アップ 元拠点リーダー 山中 康裕

研究院長室秘書	倉品 佐千子（事務補佐員）
---------	---------------

4 各種委員会

26.4.1 現在

委員会名	環境起学	地球圏科学	生物圏科学	環境物質 科学	副学院長 学院長補佐	職指定		事務選出 委員	事務所掌	備考
専攻長 会議	山中 康裕	大島慶一郎	上田 宏	坂入 信夫	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長			総務担当
学院人事 委員会	山中 康裕	大島慶一郎	上田 宏	坂入 信夫	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長			総務担当
教務 委員会	石川 守	渡辺 豊	鈴木 仁	八木 一三	副学院長 学院長補佐	学院長	全学教 務委員 会委員			教務担当
入学試験 委員会	山中 康裕	大島慶一郎	上田 宏	坂入 信夫	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長			教務担当
点検評価 委員会	山中 康裕	大島慶一郎	上田 宏	坂入 信夫	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長	事務長	総務担当	内規 で 明記
将来計画 委員会	山中 康裕	大島慶一郎	上田 宏	坂入 信夫	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長			総務担当
安全管理 委員会	山中 康裕	大島慶一郎	上田 宏	坂入 信夫	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長	事務長	会計担当	
広報 委員会	佐藤 友徳	藤原 正智	長谷川成明	神谷 裕一					総務担当	
WEB サイト 管理 委員会	澤柿 露嶧 教伸 史朗	山下 洋平 川島 正行	吉田 磐仁 久保 拓弥	梅澤 大樹 神谷 裕一					総務担当	
学生 委員会	古月 文志	谷本 陽一	森川 正章	坂入 信夫	学院長補佐	全学学 生委員 会委員			教務担当	内規 で 明記
留学生 委員会	根岸淳二郎	長谷部文雄	甲山 隆司	小西 克明	副学院長 学院長補佐	学院長			教務担当	内規 で 明記
コース 代表教員	露崎 史朗 沖野 龍文 山中 康裕 藤井 賢彦	鈴木 光次 長谷部文雄 渡辺 力	福井 学 鈴木 仁 森川 正章 甲山 隆司 野田 勲 工藤 勲 四ツ倉 典滋 柴田 英昭 荒木 肇	松田 冬彦 小西 克明 中村 貴義 大谷 文章						

II 学生の受入

5 入学試験

平成 26 年度

秋季入試：博士後期課程

平成 25 年 8 月 26 日 (月)

27 日 (火)

修士（博士前期）課程

平成 25 年 8 月 26 日 (月)

27 日 (火)

春季入試：博士後期課程

平成 26 年 2 月 27 日 (木)

修士（博士前期）課程

平成 26 年 2 月 27 日 (木)

2 月 28 日 (金)

入試説明会 第 1 回

平成 25 年 5 月 25 日 (土)

26 日 (日)

28 日 (火)

第 2 回

平成 25 年 10 月 27 日 (日)

29 日 (火)

第 3 回

平成 25 年 12 月 10 日 (火)

6 学生定員と現員の推移

6-1 入学定員

① 博士後期課程 (単位：人)

専攻	定員数
環境起学専攻	15
地球圏科学専攻	14
生物圏科学専攻	23
環境物質科学専攻	11
計	63

② 修士課程（博士前期課程） (単位：人)

専攻	定員数
環境起学専攻	44
地球圏科学専攻	35
生物圏科学専攻	52
環境物質科学専攻	28
計	159

6-2 入学者数

① 博士後期課程 (単位：人 (%))

専攻	平成 26 年度
環境起学専攻	9 (60%)
地球圏科学専攻	7 (50%)
生物圏科学専攻	18 (78%)
環境物質科学専攻	4 (36%)
計	38 (60%)

② 修士課程（博士前期課程） (単位：人 (%))

専攻	平成 26 年度
環境起学専攻	35 (80%)
地球圏科学専攻	18 (51%)
生物圏科学専攻	48 (92%)
環境物質科学専攻	34 (121%)
計	135 (85%)

(注1) () は、入学定員に対する充足率を示す。

(注2) 10月入学者数を含む。

6-3 在籍者数

① 博士後期課程 (単位：人)

専攻	在籍者数
環境起学専攻	39
地球圏科学専攻	39
生物圏科学専攻	57
環境物質科学専攻	25
計	160

② 修士課程（博士前期課程） (単位：人)

専攻	在籍者数
環境起学専攻	58
地球圏科学専攻	47
生物圏科学専攻	88
環境物質科学専攻	79
計	272

(注) 平成26年5月1日現在の数

7 留学生数の推移と支援体制

7-1 留学生数（全体）

① 博士後期課程 (単位：人)

専攻	留学生数
環境起学専攻	17
地球圏科学専攻	16
生物圏科学専攻	9
環境物質科学専攻	9
計	51

② 修士課程（博士前期課程） (単位：人)

専攻	留学生数
環境起学専攻	18
地球圏科学専攻	0
生物圏科学専攻	7
環境物質科学専攻	7
計	32

(注) 平成26年5月1日現在の数

7-2 留学生数（国別）

(単位：人)

地域	日本語による 国名・地域名	留学生数	
		博士後期	修士
アジア	インド	3	
	インドネシア	7	2
	韓国	4	
	シンガポール		
	スリランカ		
	タイ	1	
	台湾	1	
	中国	16	22
	ネパール	3	
	バングラデシュ	4	1
	フィリピン	4	1
	ブルネイ		
	マレーシア		1
アフリカ	モンゴル	3	1
	ガーナ	1	
	ナイジェリア	1	1
	エジプト		1
北米	マダガスカル	1	
	アメリカ		1
中南米	ホンジュラス		1
	ガイアナ	1	
ヨーロッパ	フランス	1	
計		51	32

(注) 平成26年5月1日現在の数

7-3 留学生の支援体制

(1) 英語プログラム (EPEES: English Program of Environmental Earth Science for a Sustainable Society)を開設

国際環境保全コース（英語コース）をさらに充実させ、平成26年度より現地面接等による渡日前入学制度を導入した。平成26年10月に5名（修士課程3名、博士後期課程2名）が入学した。

(2) アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）「修士課程およびインターンシップ」プログラム推奨コースの設定

JICAが設定する審査様式や選考日程に沿って、留学生の募集・選考（大学情報の作成や書類審査とテレビ会議による面接）を実施し、平成26年10月に修士課程2名が入学した。

(3) 北海道大学私費外国人留学生特待プログラムによる博士後期課程学生の支援

北海道大学が入学金・学費相当額を支援、受入れ研究者が年間100万円を超える研究補助員経費を負担する制度により、8名（継続5名、新規3名）の私費留学生を受入れた。年度末に研究発表会を行った。地球環境科学研究院では、毎年2名相当分（年間600万円強）について教員共通経費を充てる制度を設けている。

(4) JASSO 海外留学支援制度による短期留学生の受入

「国際ネットワークに基づく研究受入型 統合環境科学の次世代育成プログラム」として、13名の留学生を受け入れた。

(5) 大学の世界展開力強化事業 PARE プログラムによる特別聴講学生の受入

「人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム」として環境科学院を含む複数の部局が参加し、本学院では5名の留学生を受け入れた。

(6) 留学生担当事務補助員1名の配置

英語で対応ができる事務補助員を置き、外国からの問合せ対応、入学に至る間の支援、入学後の学位取得に至る間の留学生の学業、生活全般に関わる支援を行った。

III 教育活動

8 専攻・コース編成

環境起学専攻 (4 コース)

- 人間・生態システムコース
- 環境適応科学コース
- 実践環境科学コース
- 国際環境保全コース

地球圏科学専攻 (3 コース)

- 大気海洋化学・環境変遷学コース
- 大気海洋物理学・気候力学コース
- 雪氷・寒冷圏科学コース

生物圏科学専攻 (9 コース)

- 生態系生物学コース
- 生態遺伝学コース
- 分子生物学コース
- 植物生態学コース
- 動物生態学コース
- 海洋圏科学コース
- 水圏生物学コース
- 森林圏環境学コース
- 耕地圏科学コース

環境物質科学専攻 (4 コース)

- 生体物質科学コース
- ナノ環境材料コース
- 光電子科学コース
- 環境触媒化学コース

9 カリキュラム編成

修了要件

修士課程：必修科目 12 単位を含み、合計 30 単位以上修得することを修了の要件とする。ただし、環境物質科学専攻においては、必修科目 18 単位、選択必修科目から 8 単位以上を含み、合計 30 単位以上を修得すること。なお、環境物質科学実習 I 及び環境物質科学 II の単位は、修了に必要な単位数に算入することができない。

博士後期課程：必修科目 12 単位を修得すること

環境起学専攻

修士課程

(必修科目)

- ・ 環境起学論文講読 I 4 単位
- ・ 環境起学特別研究 I 8 単位

(選択科目) ※実習・演習は 4 単位、他は 2 単位

- ・ 環境科学基礎論 地球環境科学総論
- ・ 地球温暖化総論 環境修復学総論 オゾン層破壊・紫外線影響評価総論 生態系機能学総論 水循環学総論 共生システム創成学総論
- ・ 地球温暖化メカニズム特論 地球温暖化物質科学特論 地球温暖化生態学特論 成層圏オゾン変動特論 対流圏広域汚染特論 保全生態学特論 環境保全学特論 水資源物理学特論 流域環境学特論 環境修復学特論 環境修復研究法特論 野外環境学特論 生物資源環境学特論 環境解析学特論 国際コミュニケーション法特論
- ・ 地球温暖化対策特別講義 環境国際関係論特別講義 環境社会学特別講義
- ・ 環境解析法演習 国際コミュニケーション法演習 環境保全教育法演習 統合環境観測法実習 統合環境調査法実習 環境保全教育法実習 統合環境分析法実習

博士後期課程

(必修科目)

- ・ 環境起学論文講読 II 4 単位
- ・ 環境起学特別研究 II 8 単位

地球圏科学専攻

修士課程

(必修科目)

- ・ 地球圏科学論文講読 I 4 単位
- ・ 地球圏科学特別研究 I 8 単位

(選択科目) ※実習・演習は 4 単位、他は 2 単位

- ・ 古環境学基礎論 地球雪氷学基礎論 大気海洋物理学基礎論 大気海洋化学基礎論
- ・ 第四紀環境変動特論 山岳環境科学特論 陸域環境統合システム特論 陸圏物質循環学特論 古気候変動学特論 大気圏化学特論 化学海洋学特論 海洋堆積学特論 環境分析化学特論 生物地球科学特論 氷河・氷床学特論 雪氷水文学特論 寒冷圈気象・気候学特論 応用雪氷学特論 大気環境科学特論 極域海洋学特論 大気力学特論 海洋力学特論 気候変動特論 気候動モデリング特論 地球流体力学特論 大気海洋解析法特論 惑星系物質科学特論 雪氷物性学特論 宇宙雪氷学特論 遠隔情報学特論
- ・ 地球圏科学特別講義 I 地球圏科学特別講義 II 地球圏科学特別講義 III 地球圏科学特別講義 IV
- ・ 地球圏科学演習 I 地球圏科学演習 II 地球圏科学実習 I 地球圏科学実習 II 地球雪氷学実習

博士後期課程

(必修科目)

- ・ 地球圏科学論文講読 II 4 単位
- ・ 地球圏科学特別研究 II 8 単位

生物圏科学専攻

修士課程

(必修科目)

- ・ 生物圏科学論文講読 I 4 単位
- ・ 生物圏科学特別研究 I 8 単位
- (選択科目) ※実習・演習は4単位、他は2単位
 - ・ 多様性生物学基礎論 生態学基礎論 分子生物学基礎論 海洋生物環境学基礎論 フィールド科学基礎論 生物生産学基礎論
 - ・ 多様性生物学特論 I 多様性生物学特論 II 生態遺伝学特論 I 生態遺伝学特論 II 環境分子生物学特論 I 環境分子生物学特論 II 植物生態学特論 I 植物生態学特論 II 動物生態学特論 I 動物生態学特論 II 海洋生物圏環境科学特論 I 海洋生物圏環境科学特論 II 水圏科学特論 I 水圏科学特論 II 森林圏科学特論 I 森林圏科学特論 II 森林圏科学特論 III 森林圏科学特論 IV 耕地圏科学特論 I 耕地圏科学特論 II
 - ・ 生物圏科学特別講義 I 生物圏科学特別講義 II
 - ・ 生物圏科学実習 I 生物圏科学実習 II

博士後期課程

(必修科目)

- ・ 生物圏科学論文講読 II 4 単位
- ・ 生物圏科学特別研究 II 8 単位

環境物質科学専攻

修士課程

(必修科目)

- 環境物質科学論文講読 I 4 単位
- 環境物質科学特別研究 I 8 単位
- 環境物質科学基礎論 I 環境物質科学基礎論 II 環境物質科学基礎論III 各 2 単位
(選択必修科目) 各 2 単位
- 分子環境学特論 I 資源分子化学特論 化学物質影響学特論 環境生態化学特論
環境触媒学特論 分子機能材料特論 ナノ構造制御化学特論 光分子化学特論
電子材料科学特論 光触媒化学特論 表面機能科学特論 反応制御化学特論
(選択科目) ※実習は 4 単位, 他は 2 単位
- 分子環境学特論 II 分子環境学特論III
- 環境物質科学特別講義 I 環境物質科学特別講義II
- 環境物質科学実習 I 環境物質科学実習 II

博士後期課程

(必修科目)

- 環境物質科学論文講読 II 4 単位
- 環境物質科学特別研究 II 8 単位

10 公開コースの開催

10-1 平成26年度 大学の世界展開力強化事業 PARE プログラム

本プログラムは文部科学省が行う大学の世界展開力強化事業の一つであり、北海道大学の農学院、環境科学院、工学院、水産科学院、情報科学研究科およびサステイナビリティ学教育研究センターが共同で申請・採択され、平成24年10月より開始した事業である。その目的は、アジアの発展途上国で起こっている、人口・活動・資源・環境システム（PARE : Populations – Activities – Resources – Environments）の負の連環を正に転換させ、国際的かつ分野横断的に共働できる「フロンティア人材」を育成することにある。すなわち、「フィールド研究力、多様性容認力、開拓力、課題解決力」の4つの力をもち、国際的な視野を持って活躍できるフロンティア人材育成を目指すものであり、今後3年間継続し、環境科学院では主にインドネシアのガジャマダ大学（化学、農学分野）とタイのカセサート大学（工学分野）との間で双方向交流し、年間数名の学生の受け入れと派遣を行う。

平成26年度は、6・8月にPARE基礎論が開講されるとともに、8月には、タイとインドネシアの学生も参加してサマースクールが札幌と道南で開催された。本学院からは、PARE基礎論に2名、サマースクールに3名の修士学生が参加し、単位を取得した。また、10月からはインドネシアのガジャマダ大学から2名、タイのカセサート大学から1名の学生を6か月の間受け入れた。また、3月にはインドネシアのジャワ島にてスプリングスクールが開催され、環境科学院の修士課程学生3名が参加した。

10-2 平成26年度 留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）

環境科学院が平成26年度に申請・採択された留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）プログラム（日本学生支援機構（JASSO）がサポート）「国際ネットワークにもとづく学生短期受け入れ型／派遣型フィールド環境科学の次世代育成プログラム」が実施された。このプログラムは、地球温暖化など地球規模の環境変化に対して脆弱な地域において生じている環境変化に対処しうる、高度な専門知識と観測技術や分析技術を有し、グローバル社会において活躍できる人材の育成を目的としている。

受入れ型においては、（1）北極圏大学、（2）北方圏フィールド実習等のサブプログラムを実施し、ロシア北東連邦大学、国立台湾大学、台湾東華大学、ボゴール農科大学、カセサート大学、オルデンブルグ大学、漢陽大学校、イスラムインドネシア大学より学生を受け入れた。また、派遣型においては、（1）南極大学、（2）北極圏大学等においてフィールド実習を実施し、海外の協定大学に本学院の学生を派遣した。

10-3 南極学カリキュラム

南極学カリキュラムでは、極地や寒冷圏の環境や生態系について総合的に学ぶ教育プログラムを提供している。H26年度は基幹をなすプログラム、特別講義2科目と特別実習3科目を開講し、カリキュラム修了者への修了証書（Diploma of Antarctic Science）授与を行った。環境科学院の他、学内多分野の大学院生が各プログラムを受講し、学生交流や幅広い知の獲得の機会となっている。

本カリキュラムは、極域科学教育に関する国際的な枠組みである国際南極大学（International Antarctic Institute）の一翼を成すものであり、国立極地研究所、神戸大学、ETH、ブレーメン大学、タスマニア大学など国内外の研究機関とも連携して、国際的な環境教育・研究を推進するものである。

過去3年間の各講義履修者数、および南極学修了証書の取得者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
南極学特別講義Ⅰ	61	54	49
南極学特別講義Ⅱ	17	11	8
南極学特別実習Ⅰ	11	9	9
南極学特別実習Ⅱ	実施せず	15	実施せず
南極学特別実習Ⅲ	57	31	31
南極学特別実習Ⅳ	5	8	8
南極学修了証書	10	7	5

10-4 公開ラボ実習

公開ラボ実習とは、グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」が主催して、学生や若手研究者に対して、分析技術実習および周辺学問分野の講義を行うものである。参加者は全国の大学院・大学に対して公募した。一部の実習は英語で実施され、海外からの参加者および留学生交流支援制度（ショートステイ、ショートビジット）参加者も受講した。企画実習生は、自ら提案した企画がカリキュラムの一部として採用され、運営に主体的に関わる参加者である。

平成26年度

- (1) 安定同位体実習（平成26年12月15日～12月19日、応募者：23名、参加者：企画実習生4名、受講生12名、計16名（うち環境科学院研究生2名を含む学生9名））
(北海道大学教育交流支援事業およびJASSO海外留学支援事業・短期派遣支援)
短期受け入れ事業としてのプログラムは12月13日に開始。モンゴル国立農業大学から2名、ロシア北東連邦大学から2名、アラスカ大学から1名が参加した。
- (2) 北極寒冷圏フィールド＆ラボ実習 ヤクーツクサマースクール（平成26年7月30日から8月7日、日本側応募者：2名、日本からの参加者：2名（うち環境科学院1

- 名), ロシア側参加者6名 (卓越した大学院拠点形成, 北海道大学教育交流支援事業およびJASSO海外留学支援制度・短期派遣)
- (3) 北極寒冷圏フィールド&ラボ実習 ア拉斯カ実習 (平成26年8月31日～9月15日, 応募者1名, 参加者: 環境科学院から1名, 教育交流支援事業およびJASSO海外留学支援制度, 短期派遣)

10-5 大気と海洋に関するスプリングスクール

環境科学院は母体となる学部を持たない独立大学院のため, 本学院の大学院生が学部学生とつき合う機会は限られているが, このスプリングスクールの実施を通して学部学生の研究を指導する経験を大学院生に積ませ, 将来, 研究プロジェクトを立案・遂行可能な研究者を養成することを目的とする。また, 学部学生にとっても, 地球環境科学の研究の最前線を体験し, 成果をまとめて発表する手法を学んでもらうとともに, 環境科学院を知ってもらい, 将來の環境科学研究を担う若手として成長を促すことも目的とした。

平成26年度は, 平成27年3月11日(水)から14日(土)にかけて, 「大気と海洋と雪氷に関するスプリングスクール 2015」を北海道大学札幌キャンパス・環境科学院にて開催した。参加者は新潟大学, 東京理科大学, 日本大学, 東海大学, 北海道大学, 信州大学, 富山大学の12名で, 文字通り全国の国公私立の大学から参加があった。

本スプリングスクールでは, 教員による大気と海洋と雪氷の概論に関する講義を受講したあと, 体験プログラムを実施する内容とした。体験プログラムは以下の3コースを参加者全員が受講した。

- 「雪のプロファイルを調べてみよう」
- 「雪の中の二酸化炭素を測ってみよう」
- 「低気圧とジェット気流をシミュレーションしてみよう」

どのコースにおいても, 参加者はとても積極的で, 主催者の当初の予想以上に熱心に取り組み, コース毎のグループ発表では熱心な討議が行われた。参加者の意欲が高かったことに加え, 大学院生による準備が丁寧に練り上げたものだったことが, 相乗効果として大きな盛り上がりになったと考えている。修了式において参加者全員に修了書を授与した。

10-6 平成26年度 大学の世界展開力強化事業 RJE3 プログラム

本プログラムは文部科学省が行う大学の世界展開力強化事業の一つであり, 環境科学院, 工学院, 文学研究科, 農学院, 理学院が中心となって申請し, 平成26年10月より開始した事業である。

ロシアの基幹5大学 (ウラジオストクの極東連邦大学, ヤクーツクの北東連邦大学, ユジノサハリンスクのサハリン国立大学, ハバロフスクの太平洋国立大学, イルクーツ

クのイルクーツク国立大学)と北海道大学の複数大学院、北海道や極東ロシアの自治体、産業界の代表などで構成されるコンソーシアム (East Russia-Japan Expert Education Consortium, 以下 RJE3 コンソーシアム) を構築し、極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する人材を育成することを目的としている。

平成26年度は3月16-20日に25名のロシア人学生を招聘し、北大からの参加学生とともにRJE3プログラムが提供する基礎科目の講義を受講した。

10-7 国際ウィンタースクール 2014 「変容する陸域システム：生態系モニタリング、モデリングと統合的解析のトレーニングコース」

開催日：平成 27 年 1 月 6~8 日

参加者：北海道大学留学生（学部生・大学院生）18 名

講 師：9 名（北海道大学、広島大学、酪農学園大学）

この 3 日間の集中トレーニングコースでは、陸域システムの変容を通じて生じる様々な環境問題、社会問題を取り上げ、講義、グループワークを行った。コースはすべて英語で行われた。参加者自らが主体的に研究課題を見つけ、問題解決型の研究を進めるための基礎的な知識や方法論の取得、議論する力を向上させることを目指した。本コースは北海道大学北方生物圏フィールド科学センターに置かれている Global Land Project (GLP) 札幌拠点オフィスが運営主体となって実施し、北海道大学 HUSTEP および大学院共通講義「Sustainability Science VII」として開催された。

IV 成 果

1 1 学位取得状況

1 1-1 博士論文題目一覧

環境起学専攻

北太平洋亜寒帯域縁辺海における脱窒の定量化に向けての研究 (Studies for the estimation of denitrification in the subarctic marginal seas of the North Pacific) 伊藤 昌稚 (人間・生態システム)

Characterization of the vanadium-dependent bromoperoxidase from the red alga *Laurencia nipponica* (紅藻ウラソヅ *Laurencia nipponica* 由来バナジウム依存型ブロモペルオキシダーゼの性状解析) 金子 賢介 (人間・生態システム)

Game-theoretic models of human behavior: malaria prevention and emissions trading (人間行動のゲーム理論モデル～マラリア予防と排出権取引を例として) 本城 慶多 (人間・生態システム)

Development of low-cost adsorbents based on solid waste materials to remove heavy metal ions in water (水中の重金属イオンの除去のための固形廃棄物に基づく安価な吸着剤の開発) Eko Siswoyo (環境適応科学)

Phytofiltration of arsenic and cadmium from the water environment using *Micranthemum umbrosum* (*Micranthemum umbrosum*を用いた水圈環境よりのヒ素及びカドミウムの浄化) Md. Shariful Islam (環境適応科学)

Developing and applying composite indicators for assessing and characterizing vulnerability and resilience of coastal communities to environmental and social change (環境・社会変化に対する沿岸地域社会の脆弱性と回復力の統合評価指標の開発と適用) Orencio Pedcris Miralles (国際環境保全)

”Satoyama-Satoumi” regional management: a universal cognition and practice for green economy, ecosystem health and sustainable society in indigenous communities of the world (“里山里海” 地域管理：世界の先住民族のグリーン経済、エコシステムヘルス、持続的社会に資する実践と普遍的な認識) Devon Ronald Dublin (国際環境保全)

Effect of peat fire on chemical characteristics of humic acid and fulvic acid in soil and water of peatland of Central Kalimantan, Indonesia (インドネシア中央カリマンタン泥炭地の土壤及び水中のフミン酸とフルボ酸の化学的特性への泥炭火災の影響) Yustiawati Syawal (論文博士)

地球圏科学専攻

Study of archaeal and bacterial lipids in surface sediments from the western Arctic Ocean and the Bering Sea and their application to paleoenvironmental reconstruction(西部北極海とベーリング海の表層堆積物中に含まれるアーキアおよびバクテリア起源脂質の研究とその古環境学的応用) 朴 惟 賢 (大気海洋化学・環境変遷学)

Study on the ground thermal regimes under a forest-steppe mosaic in the area of discontinuous permafrost, Mongolia (モンゴル不連続永久凍土帯の草原森林混在域における地温動態に関する研究) Avirmed Dashtseren (大気海洋化学・環境変遷学)

Studies on ice core records of dicarboxylic acids, ω -oxocarboxylic acids, pyruvic acid, α -dicarbonyls and fatty acids from southern Alaska since 1665 AD: A link to climate change in the Northern Hemisphere(南アラスカにおけるジカルボン酸, ω -オキソカルボン酸, ピルビン酸, α -ジカルボニルおよび脂肪酸の1665年以降のアイスコア記録に関する研究：北半球における気候変動とのリンク) Ambarish Pokhrel (大気海洋化学・環境変遷学)

Provenance and depositional variability in response to climate and sea level changes in the subaqueous Yangtze delta and the inner shelf of the East China Sea during the middle and late Holocene (中期一後期完新世における気候および海水準変動に応答した揚子江デルタおよび東シナ海陸棚の堆積物供給源および堆積様式の変化) 王 可 (大気海洋化学・環境変遷学)

Chemical compositions of past soluble aerosols reconstructed from Greenland and Antarctic ice cores (南極及びグリーンランド氷床コアから復元した過去の水溶性エアロゾルの化学組成) 大藪 幾美 (雪氷・寒冷圏科学)

山岳アイスコアを用いた北部北太平洋域の古環境復元に関する研究 (A study on reconstruction of paleo-environmental changes in the northern North Pacific region from an alpine ice core) 對馬 あかね (雪氷・寒冷圏科学)

Controlling factors on larch growth in taiga-tundra boundary ecosystem in northeastern Siberia(北東シベリアタ
イガーツンドラ境界生態系のカラマツの成長量規定因子に関する研究) 梁 茂 厦 (大気海洋物理学・気候力学)

Overturning circulation that ventilates the intermediate layer of the Sea of Okhotsk and the North Pacific (オホ
ーツク海と北太平洋の中層を通氣するオーバーターン循環) 松田 淳二 (大気海洋物理学・気候力学)

Effect of ice-ocean albedo feedback on summer retreat of Arctic sea ice cover (北極海の海水融解期における海水
-海洋アルベドフィードバック効果) 柏瀬 陽彦 (大気海洋物理学・気候力学)

Distribution of glycerol dialkyl glycerol tetraethers in Lake Biwa basin and the reconstruction of lake water pH
during the last 300,000 years (琵琶湖集水域におけるGDGTの分布と過去30万年間の湖水pHの復元) 味岡
拓 (論文博士)

A study on the latitude of a western boundary current extension jet (西岸境界流続流ジェットの形成緯度に関する
研究) 陶 泰典 (論文博士)

生物圏科学専攻

Multilocus phylogeography of northeastern Asian hares (*Leporidae, Lepus*)(複数遺伝子座を用いた北東アジア産ノ
ウサギ属の系統地理学的研究) 木下 豪太 (生態遺伝学)

トイレ便器内の初期バイオフィルム形成とその制御に関する研究 (Studies on the early biofilm formation in toilet
bowls and its control) 深野 透 (分子生物学)

Carbon allocation strategies for reproduction and growth in spring ephemeral plants (春植物における繁殖と成長
への炭素分配戦略) Sunmonu Azizat Idowu (植物生態学)

Ultrastructural study of extracellular matrix of brown algae (褐藻の細胞外マトリクスにおける微細構造学的研究)
寺内 真 (水圏生物学)

Larval dispersal patterns and their effects on population structures of two anemonefishes (*Amphiprion frenatus*
and *Amphiprion perideraion*) in the Philippines (フィリピンにおけるクマノミ属魚類の幼生分散と個体群構造
に関する研究) 佐藤 允昭 (水圏生物学)

Studies on spatial and temporal analysis of hydrological ecosystem services in watershed (流域における水文学的
生態系サービスの時空間解析に関する研究) 樊 敏 (森林圏環境学)

亜寒帯汽水湖の生物生産過程における微細藻類 (植物プランクトン, 付着微細藻, 底生微細藻) の役割の評価
(Evaluation of the role of microalgae (phytoplankton, periphytic microalgae, and benthic microalgae) in
biological production processes at subarctic coastal lagoon) 寺崎 恵未 (論文博士)

日本産寒海性コンブ科植物 *Saccharina japonica* の遺伝的多様性の保全に関する研究 (Conservation research on
genetic diversity in *Saccharina japonica* growing in northern part of Japan) 前田 高志 (論文博士)

Use of genetic diversity on DNA markers to increase forage yield in timothy (*Phleum pratense L.*) (チモシーにお
ける収量性改良のためのDNA多型の利用) 田中 常喜 (論文博士)

環境物質科学専攻

Development of surface plasmon resonance biosensor using self-assembled monolayer(自己組織化单分子層を用い
た表面プラズモン共鳴バイオセンサの開発) Suherman (ナノ環境材料)

Structure and stability studies on the lipid monolayers exposed to low-level ozone (低濃度オゾンに曝露した脂質
单分子膜の構造と安定性に関する研究) 喬 琳 (環境触媒化学)

Study on synthesis of β -cyclodextrin linked chitosan derivatives with different linkers and removal of dyes(リン
カ一鎖長の異なる β -シクロデキストリン結合キトサン誘導体の合成と色素の除去に関する研究) Wanvisa
Buranaboripan (論文博士)

1 1 - 2 修士論文題目一覧

環境起学専攻

砂礫性昆虫によって維持される森と川のつながり～礫河原への植生侵入による影響の検証～ 植村 郁彦（人間・生態システム）

小水力発電の導入拡大に向けた小水力エネルギー・ポテンシャルの見積もり 田邊 創一郎（人間・生態システム）

地球温暖化による気温上昇の不確実性を考慮した北海道産てん菜の糖量予測 友貞 俊成（人間・生態システム）

北海道東部、十勝地方における漁港造成前後の海岸地形変化 成田 祐也（人間・生態システム）

石狩川氾濫原水域におけるカモ類の渡り中継地利用と保全優先度 傅 嘉琪（人間・生態システム）

Effects of gunetum gnemon extracts on the metabolism ability of the offspring of fructose-treated pregnant rats(フルクトース投与妊娠ラットからの新生仔における代謝能へのグネツム・グネモンの影響) Rachael Acuram Uson (環境適応科学)

ササの葉を活用した吸着剤による水中における重金属汚染の除去 遠藤 のぞみ (環境適応科学)

紅藻マギレソヅ (*Laurencia saitoi*) のプロモペルオキシダーゼのクローニングと性状解析 小林 大毅 (環境適応科学)

植物機能を模倣した汚染物質の除去システムの開発 吳 為 (環境適応科学)

Inhibitory effect of grape skin extracts on production of ultraviolet radiation-induced cyclobutane pyrimidine dimer in normal human epidermal keratinocytes(正常ヒト表皮角化細胞における紫外線照射により誘導されるシクロブタン型ピリミジン二量体産生のブドウ果皮抽出物による抑制効果) 宋 雨桐 (環境適応科学)

フジツボ付着阻害物質ローレンシンの蛍光プローブの合成研究 瀧澤 愛美 (環境適応科学)

Apoptosis induced by resveratrol in PC12 cells(PC12細胞にレスベラトロールによって誘導されたアポトーシス) 能登 公輝 (環境適応科学)

ニホンウナギ産卵海域海水の化学成分分析 丸山 奏子 (環境適応科学)

「自然観光地で科学的情報が人々の感情・行動に与える影響」に関する質的研究－星野リゾート・トマムの雲海テラスを事例として－ 古家 衣梨 (実践環境科学)

持続的な地下水の利活用に向けた涵養起源の推定と環境教育の実践及び評価－北海道札幌市を事例に－ 松原 一平 (実践環境科学)

地域に関わるファシリテーターの現状と彼らが考える課題 吉田 侑矢 (実践環境科学)

Assessment of air pollution and prevention in Urumqi, China (中国・ウルムチにおける大気汚染とその防止に関する評価) Zulayati Kuerban (国際環境保全)

Study on public involvement in social impact assessments in relation to the mining projects, Mongolia(モンゴル鉱山開発プロジェクトにおける社会アセスメントへの住民参加に関する研究) Dagvadorj Lavdmaa (国際環境保全)

Evaluation of effects of tide on recreational activities in coral reefs (潮汐がサンゴ礁におけるリクリエーション活動に及ぼす影響評価) 高 渕 (国際環境保全)

Study on the possibility of changing travel behavior for shopping in Sapporo City(札幌における買い物時の交通行動変容に関する研究) 角井 愛子 (国際環境保全)

シラスバルーン表面にマグネタイトとブルシアンブルーを修飾したセシウム吸着材の開発と性能評価 森谷 友郎 (国際環境保全)

地球圏科学専攻

光合成色素19'-hexanoyloxyfucoxanthinを持つハプト藻類の西部北太平洋域における分子系統地理学的研究 田中 祐太 (大気海洋化学・環境変遷学)

海洋細菌単離株による溶存有機物の生成に関する研究 後藤 周史 (大気海洋化学・環境変遷学)

夏季北極海の植物プランクトン栄養環境と淡水流入に伴う鉄の供給 武居 信行 (大気海洋化学・環境変遷学)

チャクチ海・ベーリング海における溶存有機物の動態 田中 和樹 (大気海洋化学・環境変遷学)

ラン藻 *Synechococcus* の系統型による北太平洋とその縁辺海域の海洋区系 中村 翠珠 (大気海洋化学・環境変遷学)

東シベリアにおけるタイガーツンドラ境界のメタン放出量推定に向けた植生図の作成 両角 友喜 (大気海洋化学・環境変遷学)

Estimates of new production and its contributors in surface waters of the Bering and Chukchi Seas during summer (夏期のベーリング海およびチャクチ海表層における新生産とその寄与者の評価) 吉野 勇太 (大気海洋化学・環境変遷学)

グリーンランド氷床北西部における高濁度海水域の変動 大橋 良彦 (雪氷・寒冷圏科学)

グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化 斎藤 潤 (雪氷・寒冷圏科学)

グリーンランド北西部カナック氷帽における表面高度変化、質量収支、流動速度 丸山 未妃呂 (雪氷・寒冷圏科学)

Amundsen海における暖水流入がもたらす活発な棚氷底面融解について 加藤 義仁 (大気海洋物理学・気候力学)

東京に降雪をもたらす低気圧の活動と黒潮流路変動の関係についての統計解析 天澤 俊行 (大気海洋物理学・気候力学)

風強制に対する宗谷暖流の応答 小野 祐嗣 (大気海洋物理学・気候力学)

2013年8月27日の苫小牧における局地的大雨の研究 小西 慶 (大気海洋物理学・気候力学)

再解析データを用いた台風の解析 瀬崎 歩美 (大気海洋物理学・気候力学)

旅客機の観測データを用いた航空乱気流の研究 添田 雅規 (大気海洋物理学・気候力学)

水温フロントが雲の形成に与える影響及び放射を介した海洋へのフィードバック 谷平 洋介 (大気海洋物理学・気候力学)

冬季日本海における低気圧活動の年々変動と海面水温の関係 中村 誠吾 (大気海洋物理学・気候力学)

熱帶対流圏界層内脱水過程に関するラグランジュ的考察 納口 泰輔 (大気海洋物理学・気候力学)

東アジア・北西太平洋における夏の上層渦位と降水の関係性 林 歩夢 (大気海洋物理学・気候力学)

大気陸面間の熱輸送に対する森林キャノピーの効果 平沢 陽子 (大気海洋物理学・気候力学)

熱帶対流圏界層における氷晶生成過程 三村 慧 (大気海洋物理学・気候力学)

北太平洋移行領域のフロント形成と変動メカニズム 森江 亮介 (大気海洋物理学・気候力学)

係留観測による北極チャクチ海沿岸域の海氷厚に関する研究 守家 衣利加 (大気海洋物理学・気候力学)

風で強制した千島列島交換流の理想化実験 山下 慎司 (大気海洋物理学・気候力学)

生物圏科学専攻

カイコのフェノール酸化酵素前駆体活性化酵素に関する研究 加藤 巧 (生態系生物学)

Patterns of branch growth and death in the crowns of Sakhalin spruce, *Picea glehnii* (F. Schmidt) Mast. (アカエゾマツ (*Picea glehnii* (F. Schmidt) Mast.) 樹冠の枝の成長と枯死のパターン) 陳 磊 (生態系生物学)

淡水湖沼における好気的メタン生成微生物の探索 増田 慎司 (生態系生物学)

Evolutionary dynamics of 5S rDNA inferred from copy number variation, inter-cluster recombination and selective sweep analysis in house mice (*Mus musculus*) (マウスの5S rDNAのコピー数変異と組換えの動態および自然選択の把握) 磯部 美優 (生態遺伝学)

Transdifferentiation of the salivary gland in termite soldiers (シロアリの兵隊分化に伴う唾液腺の分化転換) 箕浦 るん (生態遺伝学)

高度好熱菌 *Geobacillus thermoleovorans* B23 由来新規アルカン分解遺伝子の機能解析 及び重油汚染土壤浄化へ

の利用 大日向 佑介 (分子生物学)

環境中における微生物作用分子の単離と同定 折山 徹郎 (分子生物学)

新規大腸菌ツーハイブリッドシステム構築のための人工リプレッサーの開発 小林 鷹生 (分子生物学)

Studies on improvement of plant tolerance to boron deficiency and toxicity (植物におけるホウ素欠乏・過剰耐性付与の研究) 船川 寛矢 (分子生物学)

Revegetation patterns after experimental tephra disturbances on a mire with special reference to effects of shrub (湿原における実験的テフラ搅乱後の植生回復様式とその要因特に低木の影響について) 釜野 靖子 (植物生態学)

Leaf-trait variation across and within tree species in peat swamp and heath forest in Kalimantan (カリマンタンの泥炭湿地林とヒース林における葉形質の種間および種内変異) Doddy Juli Irawan (植物生態学)

Comparisons of seasonal pattern of floral visits by bees and flies, and fruit-set success in alpine-plant communities (高山植物群落におけるハチ類とハエ類の季節的訪花パターン、ならびに結実成功の比較) 水永 優紀 (植物生態学)

Urbanization decreases seasonality in vigilance behavior: flight responses of red squirrels to human approach (都市化が警戒心の季節性を減少させる: エゾリスでの逃避距離を用いた検証) 内田 健太 (動物生態学)

Transition in population dynamics after invasion for an intertidal barnacle *Balanus glandula*: cause and consequence of change in larval supply (外来種キタアメリカフジツボの侵入後の個体群動態の変化: 幼生供給量の変化の原因と帰結) 大平 昌史 (動物生態学)

Differences in seasonality of community dynamics along vertical gradient in rocky intertidal sessile assemblages (岩礁潮間帯の固着生物群集における季節動態の潮位による違い) 金森 由妃 (動物生態学)

Are introduced brook trout replacing white-spotted charr through inter-specific hybridization in the Sorachi River? (異種間交雑によって在来アメマスは外来カワマスに置き換わっているのか) 福井 翔 (動物生態学)

亜寒帯沿岸域における基礎生産に占める暗所炭素取り込みと硝化活性 足立 敏成 (海洋圏科学)

Interannual variation of solar heating in the Chukchi Sea, Arctic Ocean (チャクチ海における太陽放射加熱の経年変動) 太田 直紀 (海洋圏科学)

亜寒帯汽水湖においてアマモ場の存在が底生生物群集に与える影響 上條 明日菜 (海洋圏科学)

Functional evaluation of Amphipods as a nutrients regenerator in brackish waters (汽水域におけるヨコエビの栄養塩再生者としての機能評価) 檀 功助 (海洋圏科学)

必須アミノ酸指数と炭素・窒素安定同位体比を用いた亜寒帯汽水湖における食物網構造の推定と被食-捕食関係の評価 福田 将吾 (海洋圏科学)

Biological studies on the dissolved free amino acids of the Ishikari River Watershed as potential homing cues for adult chum salmon (シロザケ親魚の母川回帰指標としての石狩川水系の溶存遊離アミノ酸に関する生物学的研究) Ernest Yat Chen (水圏生物学)

キマダラヤセカジカの卵巣内精子競争における交尾のタイミングが卵の父性決定に与える影響 大吉 徹 (水圏生物学)

キタゾウアザラシ成獣メスの摂餌回遊期における分布と餌環境 西條 大輔 (水圏生物学)

Study on the swimming behavior of ribbonfish *Trichiurus japonicus* using bio-logging method (バイオロギング手法を用いたタチウオの遊泳行動に関する研究) 富安 信 (水圏生物学)

Molecular biological studies on the role of N-methyl-D-aspartate receptor in sockeye salmon (ベニザケのN-methyl-D-aspartate型グルタミン酸受容体の役割に関する分子生物学的研究) 中村 慎吾 (水圏生物学)

ロシア極東域におけるコンブ類の多様性研究 - サハリンおよびカムチャツカ沿岸を中心に - 永井 野風 (水圏生物学)

ヒゲの安定同位体比を用いたゼニガタアザラシの食性履歴の推定 白曼 大翔 (水圏生物学)

Molecular biological studies on the imprinting of natal stream in Pacific salmon (太平洋サケの母川記録に関する分子生物学的研究) 古川 直大 (水圏生物学)

Endocrinological studies on gonadal maturation and memory retrieval during homing migration in Pacific salmon (太平洋サケの母川回帰時の性成熟および母川想起に関する内分泌学的研究) 村上 玲一 (水圏生物学)

Interspecific variation in acclimation ability of acorn tannin resistance between three sympatric rodent species (同所的に生息する3種の野ネズミにおけるドングリ中のタンニンに対する耐性を獲得するための馴化能力の変異) 小野寺 緑也 (森林圏環境学)

天然生混交林において択伐施業が鳥類の棲息に関わる林分構造の特性に与える影響 兵頭 夏海 (森林圏環境学)

エゾシカ個体群の遺伝的な空間構造に見られる境界をつくりだす要因を探る: 地理的な障壁によってつくられるのか、距離による隔離なのか 三澤 桃 (森林圏環境学)

林床植生ササが森林の細根動態及び養分吸収に果たす役割 梁川 紗奈江 (森林圏環境学)

ウダイカンバの発生・定着状況からみた表土を残す天然更新補助作業の評価 山崎 遥 (森林圏環境学)

AFLP法を用いたキイチゴ属植物の系統解析および新規ラズベリーの育成に関する研究 宮下 智弥 (耕地圏科学)

環境物質科学専攻

チオフェンとピリジン環を有する蛍光ソルバトクロミック色素の構造と光物性 櫻井 祥平 (生体物質科学)

[3+2]Huisgen環化反応による天然二糖の環状二量化に関する研究 石崎 光輝 (生体物質科学)

回収機能を付与したアルギン酸ゲルビーズによる吸着剤の開発 稲場 優飛 (生体物質科学)

合成最終段階での認識部位の組み換えが可能な蛍光変色型ボロンジピロメテンインジケーターの開発 岸 和樹 (生体物質科学)

粘土鉱物とセシウムイオンとの相互作用に与える土壤有機物の影響 北川 知尋 (生体物質科学)

Dolastatin 16の合成研究 佐藤 彰則 (生体物質科学)

クリックケミストリーを利用したキトサンアミノ基のオリゴ糖修飾 佐藤 飛鳥 (生体物質科学)

イモ貝毒 κ -conotoxin類に含まれるO結合型5糖構造の合成研究 武田 勇希 (生体物質科学)

DNA修飾磁性粒子の調製とその吸着剤への応用 成田 康行 (生体物質科学)

Danicalipin A誘導体の合成研究 前田 武志 (生体物質科学)

Hachijojimallene Aの合成研究 増田 大海 (生体物質科学)

界面動電学的手法を用いる土壤水中セシウムイオンの除去に関する研究 宮村 良輔 (生体物質科学)

ニヨウ化サマリウムによる中員環閉環反応 村山 駿 (生体物質科学)

Vinigrolの合成研究 吉田 俊 (生体物質科学)

ラン藻由来の細胞毒性物質の探索 渡邊 えりか (生体物質科学)

金クラスターとポリ酸からなる複合固体の液相からの有機物吸着活性 阿部 秀伸 (ナノ環境材料)

可視領域蛍光発色団を修飾したシクロデキストリンによる界面活性剤検出試薬の合成および環境分析への応用 足立 美佳 (ナノ環境材料)

機能性官能基によるシクロデキストリン混合单分子層の包接特性制御 伊藤 翼 (ナノ環境材料)

Au電極表面におけるCu複核錯体の構築とその酸素還元活性の評価 小柳津 暢久 (ナノ環境材料)

濡れ壁型流通反応管を用いた海塩粒子不均一反応の研究 合田 元清 (ナノ環境材料)

N,N-ジメチルアニリン誘導体のTICT挙動を利用した蛍光試薬の開発 澤尻 誠也 (ナノ環境材料)

サブナノ金クラスターの固相での分子間相互作用と光機能特性 杉内 瑞穂 (ナノ環境材料)

異方的な骨格構造を有するサブナノ金クラスターの光特性 張 明皓 (ナノ環境材料)

界面振動分光法によるアイオノマー/Pt界面構造のin situ計測 波田野 智章 (ナノ環境材料)

水中アニリンのオゾン酸化分解に高い触媒性能を発揮する酸化物触媒の探索 福西 康平（ナノ環境材料）

シクロヘキセンのオゾン分解からの二次粒子生成過程の研究 矢嶋 亮次（ナノ環境材料）

酸素共存下での亜硝酸イオン水素化分解を選択的に促進する担持金属触媒の探索 安田 佳一郎（ナノ環境材料）

12-モリブドリン酸触媒上のメタクロレイン選択酸化反応における水蒸気の役割 保田 修平（ナノ環境材料）

金属間相互作用を駆動力とするメタロ環状化合物の包接機能 吉田 圭佑（ナノ環境材料）

光励起により電子移動・電荷移動を示す有機分子の電場発光測定 大越 謙児（光電子科学）

アリール基のハロゲン置換による超分子ローター結晶の構造・物性制御 中川 翔太（光電子科学）

複雑な分子の電場吸収測定とスペクトル解析 向井 樹（光電子科学）

複数の水素結合部位を有する超分子カチオン結晶の構造と誘電性 山田 晃弘（光電子科学）

2つのプロトン受容部位をもつ有機カチオンとキラルクラウンエーテルからなる超分子結晶の構造と誘電性 渡辺 大樹（光電子科学）

**Study on photocatalytic activity of anatase - rutile mixed titania particles based on isolation of each component
(結晶分離によるアナタース ルチル混合チタニア粒子の光触媒活性に関する研究) Wang Kun Lei (環境触媒化学)**

キラル分子で安定化させた貴金属コロイドの調製と触媒反応への応用 木村 駿介（環境触媒化学）

磨碎-焼成により表面・結晶構造を変化させた酸化チタンの光触媒活性 黄 越鑑（環境触媒化学）

光強度依存性解析にもとづく多光子光触媒酸素発生反応機構の解析 竹内 健悟（環境触媒化学）

逆二重励起光音響分光法による粉末光触媒中の電子トラップ密度解析法の開発 新田 明央（環境触媒化学）

気相合成十面体形状アナタース酸化チタン光触媒の構造-活性関係の解析 松井 計樹（環境触媒化学）

Photocatalysis by titania particles modified with ruthenium complexes and plasmonic nanoparticles under UV and visible-light irradiation (プラスモンナノ粒子およびルテニウム錯体を担持させた酸化チタンによる紫外・可視光照射下の光触媒反応) 義煎 健太（環境触媒化学）

1 1-3 修業年限修業学位取得率

博士後期課程

	入学者数	平成26年度までの修了者	
		標準年限内 修了者数	取得率 (%)
平成24年4月 入学者	26	12	46.2

※ 修士（博士前期）課程は省略（概ね年限内で取得している）

1 2 研究成果発表状況

1 2-1 査読有り論文

平成 26 年度に受理された査読有り論文を専攻毎にまとめる。下線の氏名は環境科学院学生（修了者も学院所属時の発表ならば含む），イタリックの氏名は学院教員，括弧内は受理日（年／月／日）を表しており、受理された年度（4 月 1 日～3 月 31 日）で分けています。なお、教員のみの業績については各部局の報告等に所載するため掲載していない。

環境起学専攻

- Dashtseren, A., *Ishikawa, M.*, Iijima, Y., Jambaljav, Y. (2014) Temperature regimes of the active layer and seasonally frozen ground under a forest-steppe mosaic, Mongolia. *Permafrost and Periglacial Processes* 25(4): 295-306. (2014/10/5)
- Egawa, C., *Tsuyuzaki, S.* (2015) Occurrence patterns of facilitation by shade along a water gradient are mediated by species traits. *Acta Oecologica* 62: 45-52. (2014/12/9)
- Fukuda, T., *Sugiyama, S.*, *Sawagaki, T.*, Nakamura, K. (2014) Recent variations in the terminus position, ice velocity and surface elevation of Langhovde Glacier, East Antarctica. *Antarctic Science* 26(06): 636-645. (2014/5/1)
- Hoyo, Y., *Tsuyuzaki, S.* (2014) Habitat differentiation between *Drosera anglica* and *D. rotundifolia* in a post-mined peatland, northern Japan. *Wetlands* 34(5): 943-953. (2014/6/5)
- Hoyo, Y., *Tsuyuzaki, S.* (2015) Sexual and vegetative reproduction of the sympatric congeners *Drosera anglica* and *Drosera rotundifolia*. *Flora* 210: 60-65. (2014/10/8)
- Islam, M. S., Saito, T., *Kurasaki, M.* (2015) Phytofiltration of arsenic and cadmium by using an aquatic plant, *Micranthemum umbrosum*: phytotoxicity, uptake kinetics, and mechanism. *Ecotoxicology and Environmental Safety* 112: 193-200. (2014/11/11)
- Ito, M., *Watanabe, Y. W.*, *Shigemitsu, M.*, *Tanaka, S. S.*, *Nishioka, J.* (2014) Application of chemical tracers to an estimate of benthic denitrification in the Okhotsk Sea. *Journal of Oceanography* 70(5): 415-424. (2014/8/7)
- Komatsu, T., *Tsukamoto, S.* (2015) Late Glacial lake-level changes in the Lake Karakul basin (a closed glacierized-basin), eastern Pamirs, Tajikistan. *Quaternary Research* 83(1): 137-149. (2014/11/29)
- Lamsal, D., *Sawagaki, T.*, *Watanabe, T.*, *Byers, A. C.* (2014) Assessment of glacial lake development and prospects of outburst susceptibility: Chamlang South Glacier, eastern Nepal Himalaya. *Geomatics, Natural Hazards and Risk*. (2014/6/2)
- Liu, C., Sun, Y., Song, Y., Saito, T., *Kurasaki, M.* (2015) Nonylphenol diethoxylate inhibits apoptosis induced in PC12 cells. *Environmental Toxicology*. (2015/3/18)
- Minowa, M., *Sugiyama, S.*, Sakakibara, D., *Sawagaki, T.* (2015) Contrasting glacier variations of Glaciar Perito Moreno and Glaciar Ameghino, Southern Patagonia Icefield. *Annals of Glaciology* 56(70): 26-32. (2014/11/29)
- Mori, K., *Sato, T.* (2014) Spatio-temporal variation of high-temperature events in Hokkaido, north Japan. *Journal of the Meteorological Society of Japan* 92(4): 327-346. (2014/4/18)
- Nomura, N., *Tsuyuzaki, S.* (2015) Hares promote seed dispersal and seedling establishment after volcanic eruptions. *Acta Oecologica* 63: 22-27. (2015/2/2)
- Nuryono, N., Muliaty, E., Rusdiarso, B., Wibawa Sakti, S. C. W., *Tanaka, S.* (2014) Adsorption of Au(III), Cu(II) and Ni(II) on magnetite coated with mercapto groups modified rice hull ash silica. *Journal of Ion Exchange* 25(4): 114-121. (2014/7/25)
- Nuryono, N., Mutia Rosiati, N., Rusdiarso, B., Sakti, S. C. W., *Tanaka, S.* (2014) Coating of magnetite with mercapto modified rice hull ash silica in a one-pot process. *SpringerPlus* 3: 515. (2014/8/20)
- Pokhrel, A., *Kawamura, K.*, *Seki, O.*, *Matoba, S.*, *Shiraiwa, T.* (2015) Ice core profiles of saturated fatty acids ($C_{12:0}$ - $C_{30:0}$) and oleic acid ($C_{18:1}$) from southern Alaska since 1734 AD: A link to climate change in the Northern Hemisphere. *Atmospheric Environment* 100: 202-209. (2014/11/4)*
- Shibata, M., Onodera, K., Kumagai, M., Shah, A. K. M. A., Ogasawara, M., Kurihara, H., *Okino, T.*, Takahashi, K. (2014) Supercritical fluid extraction of “koku” enhancing compounds from fish and fishery by-products. *Food Science and Technology Research* 20(6): 1199-1205. (2014/7/2)
- Siswoyo, E., Mihara, Y., *Tanaka, S.* (2014) Determination of key components and adsorption capacity of a low cost adsorbent based on sludge of drinking water treatment plant to adsorb cadmium

- ion in water. Applied Clay Science 97-98: 146-152. (2014/5/26)
- Sugiyama, S., Sakakibara, D., Tsutaki, S., Maruyama, M., Sawagaki, T. (2015) Glacier dynamics near the calving front of Bowdoin Glacier, northwestern Greenland. Journal of Glaciology 61(226): 223-232. (2015/1/21)
- Tsushima, A., Matoba, S., Shiraiwa, T., Okamoto, S., Sasaki, H., Solie, D. J., Yoshikawa, K. (2015) Reconstruction of recent climate change in Alaska from the Aurora Peak ice core, central Alaska. Climate of the Past 11(2): 217-226. (2014/12/11)
- Yustiawati, Kihara, Y., Sazawa, K., Kuramitz, H., Kurasaki, M., Saito, T., Hosokawa, T., Syawal, M. S., Wulandari, L., Hendri, I., Tanaka, S. (2015) Effects of peat fires on the characteristics of humic acid extracted from peat soil in Central Kalimantan, Indonesia. Environmental Science and Pollution Research 22(4): 2384-2395. (2014/4/15)
- 田中俊逸, 明本靖広 (2015) 土壤と界面電気現象(6)エレクトロカイネティック法による汚染土壤の修復. 日本土壤肥料科学雑誌 86(1): 48-53. (2014/12/8)

<平成 25 年度報告書以前の記載漏れ>

- Araki, H., Fujiwara, S., Jishi, T., Fujii, M., Yokota, T., Nishida, T. (2014) Winter production of green asparagus by using surplus heat from machinery room and used hot water from hotel's spa. Acta Horticulturae 1037: 155-161. (2013/10/6)*
- Magdaong, E. T., Yamano, H., Fujii, M. (2014) Development of a large-scale, long-term coral cover and disturbance database in the Philippines. Integrative Observations and Assessments. Nakano, S., Yahara, T., Nakashizuka, T., Springer Japan: 83-109. (2013/10/30)
- Negishi, J. N., Tamaoki, H., Watanabe, N., Nagayama, S., Kume, M., Kayaba, Y., Kawase, M. (2014) Imperiled freshwater mussels in drainage channels associated with rare agricultural landscape and diverse fish communities. Limnology 15(3): 237-247. (2014/3/27)
- Yamano, H., Hongo, C., Sugihara, K., Yara, Y., Nakao, Y., Fujii, M. (2014) Current status of the national coral database in Japan: Dataset development, applications, and future directions. Integrative Observations and Assessments. Nakano, S., Yahara, T., Nakashizuka, T., Springer Japan: 65-81. (2013/10/31)
- 佐藤志穂, 山中康裕, 敷田麻実 (2014) 農村地域の創造的地域資源利用におけるリゾート企業と地域農家の新たな関係性 : 北海道占冠村星野リゾート・トマムと農家との連携から. 日本地域政策研究 12: 9-17. (2014/2/7)

地球圏科学専攻

- Ajioka, T., Yamamoto, M., Murase, J. (2014) Branched and isoprenoid glycerol dialkyl glycerol tetraethers in soils and lake/river sediments in Lake Biwa basin and implications for MBT/CBT proxies. Organic Geochemistry 73: 70-82. (2014/5/20)
- Ajioka, T., Yamamoto, M., Takemura, K., Hayashida, A., Kitagawa, H. (2014) Water pH and temperature in Lake Biwa from MBT/CBT indices during the last 280 000 years. Climate of the Past 10(5): 1843-1855.
- Endo, H., Sugie, K., Yoshimura, T., Suzuki, K. (2015) Effects of CO₂ and iron availability on *rbcL* gene expression in Bering Sea diatoms. Biogeosciences 12(7): 2247-2259. (2015/3/22)
- Fu, P., Kawamura, K., Chen, J., Qin, M., Ren, L., Sun, Y., Wang, Z., Barrie, L. A., Tachibana, E., Ding, A., Yamashita, Y. (2015) Fluorescent water-soluble organic aerosols in the High Arctic atmosphere. Scientific Reports 5: 9845. (2015/3/20)
- Fujiwara, C., Fujiyoshi, Y. (2014) Detection of “invisible waterspout” using 3D scanning Doppler lidar. SOLA 10: 127-130. (2014/7/31)
- Fukuda, T., Sugiyama, S., Sawagaki, T., Nakamura, K. (2014) Recent variations in the terminus position, ice velocity and surface elevation of Langhovde Glacier, East Antarctica. Antarctic Science 26(06): 636-645. (2014/5/1)
- He, N., Kawamura, K., Okuzawa, K., Pochanart, P., Liu, Y., Kanaya, Y., Wang, Z. F. (2014) Diurnal and temporal variations of water-soluble dicarboxylic acids and related compounds in aerosols from the northern vicinity of Beijing: implication for photochemical aging during atmospheric transport. Science of the Total Environment 499: 154-165. (2014/8/18)
- Hirata, T., Hirawake, T., Sakaida, F., Yamaguchi, H., Suzuki, K., Murakami, H., Ishizaka, J., Kobayashi, H., Fujiwara, A., Toratani, M., Saitoh, S.-i. (2014) Development and verification of SGII/GCOM-C1 ocean algorithms. Journal of The Remote Sensing Society of Japan 34(4): 278-285. (2014/8/11)
- Hoque, M., Kawamura, K., Seki, O., Hoshi, N. (2015) Spatial distributions of dicarboxylic acids,

- ω -oxoacids, pyruvic acid and α -dicarbonyls in the remote marine aerosols over the North Pacific. *Marine Chemistry* 172: 1-11. (2015/3/3)
- Isada, T., Hirawake, T., Kobayashi, T., Nosaka, Y., Natsuike, M., Imai, I., Suzuki, K., Saitoh, S.-I. (2015) Hyperspectral optical discrimination of phytoplankton community structure in Funka Bay and its implications for ocean color remote sensing of diatoms. *Remote Sensing of Environment* 159: 134-151. (2014/12/8)*
- Ito, M., Ohshima, K. I., Fukamachi, Y., Simizu, D., Iwamoto, K., Matsumura, Y., Mahoney, A. R., Eicken, H. (2015) Observations of supercooled water and frazil ice formation in an Arctic coastal polynya from moorings and satellite imagery. *Annals of Glaciology* 56(69): 307-314. (2015/2/6)
- Ito, M., Watanabe, Y. W., Shigemitsu, M., Tanaka, S. S., Nishioka, J. (2014) Application of chemical tracers to an estimate of benthic denitrification in the Okhotsk Sea. *Journal of Oceanography* 70(5): 415-424. (2014/8/7)
- Iwamoto, K., Ohshima, K. I., Tamura, T. (2014) Improved mapping of sea ice production in the Arctic Ocean using AMSR-E thin ice thickness algorithm. *Journal of Geophysical Research: Oceans* 119(6): 3574-3594. (2014/5/12)
- Kamae, Y., Watanabe, M., Ogura, T., Yoshimori, M., Shiogama, H. (2015) Rapid adjustments of cloud and hydrological cycle to increasing CO₂: a review. *Current Climate Change Reports* 1(2): 103-113. (2015/2/14)
- Kanna, N., Toyota, T., Nishioka, J. (2014) Iron and macro-nutrient concentrations in sea ice and their impact on the nutritional status of surface waters in the southern Okhotsk Sea. *Progress in Oceanography* 126: 44-57.
- Kashiwase, H., Ohshima, K. I., Nihashi, S. (2014) Long-term variation in sea ice production and its relation to the intermediate water in the Sea of Okhotsk. *Progress in Oceanography* 126: 21-32. (2014/5/7)
- Kida, S., Mitsudera, H., Aoki, S., Guo, X., Ito, S., Kobashi, F., Komori, N., Kubokawa, A., Miyama, T., Morie, R., Nakamura, H., Nakamura, T., Nakano, H., Nishigaki, H., Nonaka, M., Sasaki, H., Sasaki, Y. N., Suga, T., Sugimoto, S., Taguchi, B., Takaya, K., Tozuka, T., Tsujino, H., Usui, N. (2015) Oceanic fronts and jets around Japan: a review. *Journal of Oceanography*. (2015/3/9)
- Kitade, Y., Shimada, K., Tamura, T., Williams, G. D., Aoki, S., Fukamachi, Y., Roquet, F., Hindell, M., Ushio, S., Ohshima, K. I. (2014) Antarctic Bottom Water production from the Vincennes Bay Polynya, East Antarctica. *Geophysical Research Letters* 41(10): 3528-3534. (2014/5/11)
- Kusahara, K., Ohshima, K. I. (2014) Kelvin Waves around Antarctica. *Journal of Physical Oceanography* 44(11): 2909-2920. (2014/8/11)
- Kusahara, K., Sato, T., Oka, A., Obase, T., Greve, R., Abe-Ouchi, A., Hasumi, H. (2015) Modelling the Antarctic marine cryosphere at the Last Glacial Maximum. *Annals of Glaciology* 56(69): 425-435. (2015/3/21)
- Liang, M., Sugimoto, A., Tei, S., Bragin, I. V., Takano, S., Morozumi, T., Shingubara, R., Maximov, T. C., Kiyashko, S. I., Velivetskaya, T. A., Ignatiev, A. V. (2014) Importance of soil moisture and N availability to larch growth and distribution in the Arctic taiga-tundra boundary ecosystem, northeastern Siberia. *Polar Science* 8(4): 327-341. (2014/7/24)
- Matsuda, J., Mitsudera, H., Nakamura, T., Sasajima, Y., Hasumi, H., Wakatsuchi, M. (2015) Overturning circulation that ventilates the intermediate layer of the Sea of Okhotsk and the North Pacific: The role of salinity advection. *Journal of Geophysical Research: Oceans* 120(3): 1462-1489. (2015/1/13)
- Minowa, M., Sugiyama, S., Sakakibara, D., Sawagaki, T. (2015) Contrasting glacier variations of Glaciar Perito Moreno and Glaciar Ameghino, Southern Patagonia Icefield. *Annals of Glaciology* 56(70): 26-32. (2014/11/29)
- Mitchell, D. M., Gray, L. J., Fujiwara, M., Hibino, T., Anstey, J. A., Ebisuzaki, W., Harada, Y., Long, C., Misios, S., Stott, P. A., Tan, D. (2015) Signatures of naturally induced variability in the atmosphere using multiple reanalysis datasets. *Quarterly Journal of the Royal Meteorological Society*. (2014/10/24)
- Miyazaki, Y., Sawano, M., Kawamura, K. (2014) Low-molecular-weight hydroxyacids in marine atmospheric aerosol: evidence of a marine microbial origin. *Biogeosciences* 11(16): 4407-4414. (2014/7/11)
- Nakayama, M., Zhu, C., Hirokawa, J., Irino, T., Yoshikawa-Inoue, H. (2015) Ozone depletion in the interstitial air of the seasonal snowpack in northern Japan. *Tellus B* 67: 24934. (2014/12/10)
- Nakayama, Y., Ohshima, K. I., Matsumura, Y., Fukamachi, Y., Hasumi, H. (2014) A numerical investigation of formation and variability of Antarctic Bottom Water off Cape Darnley, East Antarctica. *Journal of Physical Oceanography* 44(11): 2921-2937. (2014/8/22)
- Nomura, D., Yoshikawa-Inoue, H., Kobayashi, S., Nakaoka, S., Nakata, K., Hashida, G. (2014)

- Winter-to-summer evolution of $p\text{CO}_2$ in surface water and air-sea CO_2 flux in the seasonal ice zone of the Southern Ocean. *Biogeosciences* 11(20): 5749-5761. (2014/9/11)
- Ohira, F., Yamamoto, M., Takemura, K., Hayashida, A. (2014) Response of vegetation in central Japan to precession during the last 147,000 years: A lignin record from Lake Biwa core BIW08-B. *Quaternary International* 349: 59-67.
- Oyabu, I., Iizuka, Y., Uemura, R., Miyake, T., Hirabayashi, M., Motoyama, H., Sakurai, T., Suzuki, T., Hondoh, T. (2014) Chemical compositions of sulfate and chloride salts over the last termination reconstructed from the Dome Fuji ice core, inland Antarctica. *Journal of Geophysical Research: Atmospheres* 119(24): 14,045-014,058. (2014/10/26)
- Park, Y.-H., Yamamoto, M., Nam, S.-I., Irino, T., Polyak, L., Harada, N., Nagashima, K., Khim, B.-K., Chikita, K., Saitoh, S.-I. (2014) Distribution, source and transportation of glycerol dialkyl glycerol tetraethers in surface sediments from the western Arctic Ocean and the northern Bering Sea. *Marine Chemistry* 165: 10-24. (2014/7/3)
- Pokhrel, A., Kawamura, K., Seki, O., Matoba, S., Shiraiwa, T. (2015) Ice core profiles of saturated fatty acids ($\text{C}_{12:0}$ - $\text{C}_{30:0}$) and oleic acid ($\text{C}_{18:1}$) from southern Alaska since 1734 AD: A link to climate change in the Northern Hemisphere. *Atmospheric Environment* 100: 202-209. (2014/11/4)*
- Sakakibara, D., Sugiyama, S. (2014) Ice-front variations and speed changes of calving glaciers in the Southern Patagonia Icefield from 1984 to 2011. *Journal of Geophysical Research: Earth Surface* 119(11): 2541-2554. (2014/10/26)
- Simizu, D., Ohshima, K. I., Ono, J., Fukamachi, Y., Mizuta, G. (2014) What drives the southward drift of sea ice in the Sea of Okhotsk? *Progress in Oceanography* 126: 33-43. (2014/5/26)
- Sue, Y., Kubokawa, A. (2015) Latitude of eastward jet prematurely separated from the western boundary in a two-layer quasigeostrophic model. *Journal of Physical Oceanography* 45(3): 737-754. (2014/12/7)
- Sugiyama, S., Sakakibara, D., Tsutaki, S., Maruyama, M., Sawagaki, T. (2015) Glacier dynamics near the calving front of Bowdoin Glacier, northwestern Greenland. *Journal of Glaciology* 61(226): 223-232. (2015/1/21)
- Sugiyama, S., Sawagaki, T., Fukuda, T., Aoki, S. (2014) Active water exchange and life near the grounding line of an Antarctic outlet glacier. *Earth and Planetary Science Letters* 399: 52-60. (2014/5/3)
- Takao, S., Hirawake, T., Hashida, G., Sasaki, H., Hattori, H., Suzuki, K. (2014) Phytoplankton community composition and photosynthetic physiology in the Australian sector of the Southern Ocean during the austral summer of 2010/2011. *Polar Biology* 37(11): 1563-1578. (2014/7/1)
- Takao, S., Iida, T., Isada, T., Saitoh, S.-I., Hirata, T., Suzuki, K. (2014) Bio-optical properties during the summer season in the Sea of Okhotsk. *Progress in Oceanography* 126: 233-241. (2014/5/4)
- Tanaka, K., Kuma, K., Hamasaki, K., Yamashita, Y. (2014) Accumulation of humic-like fluorescent dissolved organic matter in the Japan Sea. *Scientific Reports* 4: 5292. (2014/5/27)
- Tei, S., Yonenobu, H., Sugimoto, A., Ohta, T., Maximov, T. C. (2015) Reconstructed summer Palmer Drought Severity Index since 1850 AD based on $\delta^{13}\text{C}$ of larch tree rings in eastern Siberia. *Journal of Hydrology*. (2015/1/13)
- Tsushima, A., Matoba, S., Shiraiwa, T., Okamoto, S., Sasaki, H., Solie, D. J., Yoshikawa, K. (2015) Reconstruction of recent climate change in Alaska from the Aurora Peak ice core, central Alaska. *Climate of the Past* 11(2): 217-226. (2014/12/11)
- Wang, K., Zheng, H., Tada, R., Irino, T., Zheng, Y., Saito, K., Karasuda, A. (2014) Millennial-scale East Asian Summer Monsoon variability recorded in grain size and provenance of mud belt sediments on the inner shelf of the East China Sea during mid-to late Holocene. *Quaternary International* 349: 79-89. (2014/10/6)
- Yakkala, Y. R., Nakamura, T., Mitsudera, H., Kawashima, M. (2014) Formation and maintenance mechanisms of a thick snow band along the Okhotsk Sea coast of Hokkaido Island, Japan. *Hydrological Research Letters* 8(2): 84-89. (2014/5/26)
- Yamaguchi, S., Matoba, S., Yamazaki, T., Tsushima, A., Niwano, M., Tanikawa, T., Aoki, T. (2014) Glaciological observations in 2012 and 2013 at SIGMA-A site, Northwest Greenland. *Bulletin of Glaciological Research* 32: 95-105. (2014/7/17)
- Yamamoto, M., Kobayashi, D. (2015) Surface ocean cooling in the subarctic North Pacific during the late Pliocene suggests an atmospheric reorganization prior to extensive Northern Hemisphere glaciation. *Deep Sea Research Part II: Topical Studies in Oceanography*.
- Yamamoto, Y., Ajioka, T., Yamamoto, M. (2015) Climate reconstruction based on GDGT-based proxies in a paleosol sequence in Japan: Postdepositional effect on the estimation of air temperature. *Quaternary International*.

- Yoshimori, M., Abe-Ouchi, A., Watanabe, M., Oka, A., Ogura, T. (2014) Robust seasonality of Arctic warming processes in two different versions of the MIROC GCM. *Journal of Climate* 27(16): 6358-6375. (2014/5/16)
- Yoshimura, T., Sugie, K., Endo, H., Suzuki, K., Nishioka, J., Ono, T. (2014) Organic matter production response to CO₂ increase in open subarctic plankton communities: Comparison of six microcosm experiments under iron-limited and -enriched bloom conditions. *Deep Sea Research Part I: Oceanographic Research Papers* 94: 1-14. (2014/8/11)
- Zhu, C., Yoshikawa-Inoue, H., Tohjima, Y., Irino, T. (2015) Temporal variations in black carbon recorded on Rishiri Island, northern Japan. *Geochemical Journal* 49(3): 283-294. (2014/12/3)

<平成 25 年度報告書以前の記載漏れ>

- Iwahana, G., Takano, S., Petrov, R. E., Tei, S., Shingubara, R., Maximov, T. C., Fedorov, A. N., Desyatkin, A. R., Nikolaev, A. N., Desyatkin, R. V., Sugimoto, A. (2014) Geocryological characteristics of the upper permafrost in a tundra-forest transition of the Indigirka River Valley, Russia. *Polar Science* 8(2): 96-113. (2014/1/24)

生物圏科学専攻

- Agboola, J. I., Kudo, I. (2014) Different contributions of riverine and oceanic nutrient fluxes supporting primary production in Ishikari Bay. *Continental Shelf Research* 88: 140-150. (2014/7/25)
- Aguilos, M., Takagi, K., Liang, N., Ueyama, M., Fukuzawa, K., Nomura, M., Kishida, O., Fukazawa, T., Takahashi, H., Kotsuka, C., Sakai, R., Ito, K., Watanabe, Y., Fujinuma, Y., Takahashi, Y., Murayama, T., Saigusa, N., Sasa, K. (2014) Dynamics of ecosystem carbon balance recovering from a clear-cutting in a cool-temperate forest. *Agricultural and Forest Meteorology* 197: 26-39. (2014/6/4)
- Aibara, I., Miwa, K. (2014) Strategies for optimization of mineral nutrient transport in plants: multilevel regulation of nutrient-dependent dynamics of root architecture and transporter activity. *Plant and Cell Physiology* 55(12): 2027-2036. (2014/10/24)
- Anzoua, K. G., Suzuki, K., Fujita, S., Toma, Y., Yamada, T. (2015) Evaluation of morphological traits, winter survival and biomass potential in wild Japanese *Miscanthus sinensis* Anderss. populations in northern Japan. *Grassland Science* 61(2): 83-91. (2014/12/9)
- Bontempo e Silva, E. A., Ono, K., Sumida, A., Uemura, S., Hara, T. (2015) Contrasting traits, contrasting environments, and considerations on population dynamics under a changing climate: an ecophysiological field study of two co-dominant tree species. *Plant Species Biology*. (2014/10/31)
- Fan, M., Shibata, H. (2014) Spatial and temporal analysis of hydrological provision ecosystem services for watershed conservation planning of water resources. *Water Resources Management* 28(11): 3619-3636. (2014/5/22)
- Fan, M., Shibata, H. (2015) Simulation of watershed hydrology and stream water quality under land use and climate change scenarios in Teshio River watershed, northern Japan. *Ecological Indicators* 50: 79-89. (2014/11/3)
- Fan, M., Shibata, H. (2015) Water yield, nitrogen and sediment retentions in Northern Japan (Teshio river watershed): land use change scenario analysis. *Mitigation and Adaptation Strategies for Global Change*. (2014/5/7)
- Fu, G., Nagasato, C., Oka, S., Cock, J. M., Motomura, T. (2014) Proteomics analysis of heterogeneous flagella in brown algae (stramenopiles). *Protist* 165(5): 662-675. (2014/7/22)
- Fukano, T., Gomi, M., Osaki, Y., Morikawa, M. (2015) Isolation and characterization of an early colonizing *Rhizobium* sp. R8 from a household toilet bowl. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*. (2015/1/14)
- Fukaya, K., Okuda, T., Nakaoka, M., Noda, T. (2014) Effects of spatial structure of population size on the population dynamics of barnacles across their elevational range. *Journal of Animal Ecology* 83: 1334-1343. (2014/4/10)
- Funakawa, H., Miwa, K. (2015) Synthesis of borate cross-linked rhamnogalacturonan II. *Frontiers in Plant Science* 6: 223. (2015/3/21)
- Hashimoto, M., Orikasa, Y., Hayashi, H., Watanabe, K., Yoshida, K., Okuyama, H. (2015) Occurrence of *trans* monounsaturated and polyunsaturated fatty acids in *Colwellia psychrerythraea* strain 34H. *Journal of Basic Microbiology*. (2015/1/27)
- Hill, D. A., Fukui, D., Agetsuma, N., Macintosh, A. J. J. (2014) Influence of trap environment on the effectiveness of an acoustic lure for capturing vespertilionid bats in two temperate forest zones

- in Japan. Mammal Study 39(4): 229-236. (2014/11/6)
- Hirao, A. S., Watanabe, M., Liu, Q.-J., Li, X., Masuzawa, T., Ohara, M., Wada, N. (2015) Low genetic diversity and high genetic divergence in southern rear edge populations of *Dryas octopetala* in the high mountains of Far East Asia. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 66(1): 11-22. (2014/11/11)
- Hosokawa, S., Nakaoka, M., Miyoshi, E., Kuwae, T. (2015) Seed dispersal in the seagrass *Zostera marina* is mostly within the parent bed in a protected bay. Marine Ecology Progress Series 523: 41-56. (2014/11/28)
- Hu, X., Makita, S., Schelbert, S., Sano, S., Ochiai, M., Tsuchiya, T., Hasegawa, S. F., Hortensteiner, S., Tanaka, A., Tanaka, R. (2015) Reexamination of chlorophyllase function implies its involvement in defense against chewing herbivores. Plant Physiology 167(3): 660-670. (2015/1/8)
- Isada, T., Hirawake, T., Kobayashi, T., Nosaka, Y., Natsuike, M., Imai, I., Suzuki, K., Saitoh, S.-I. (2015) Hyperspectral optical discrimination of phytoplankton community structure in Funka Bay and its implications for ocean color remote sensing of diatoms. Remote Sensing of Environment 159: 134-151. (2014/12/8)*
- Ishii, H., Homma, K., Dolezal, J., Hara, T., Sumida, A., Vetrova, V., Vyatkina, M., Hotta, K. (2015) Spatial pattern of post-fire forest succession in Central Kamchatka, Russia. Low Temperature Science 73: 1-6. (2014/12/25)
- Kinoshita, G., Sato, J. J., Meschersky, I. G., Pishchulina, S. L., Simakin, L. V., Rozhnov, V. V., Malyarchuk, B. A., Derenko, M. V., Denisova, G. A., Frisman, L. V., Kryukov, A. P., Hosoda, T., Suzuki, H. (2015) Colonization history of the sable *Martes zibellina* (Mammalia, Carnivora) on the marginal peninsula and islands of northeastern Eurasia. Journal of Mammalogy 96(1): 172-184. (2014/9/6)
- Kishida, O., Tezuka, A., Ikeda, A., Takatsu, K., Michimae, H. (2015) Adaptive acceleration in growth and development of salamander hatchlings in cannibalistic situations. Functional Ecology 29(4): 469-478. (2014/10/15)
- Kojima, H., Ogura, Y., Yamamoto, N., Togashi, T., Mori, H., Watanabe, T., Nemoto, F., Kurokawa, K., Hayashi, T., Fukui, M. (2015) Ecophysiology of *Thioploca ingrica* as revealed by the complete genome sequence supplemented with proteomic evidence. The ISME Journal 9(5): 1166-1176. (2014/9/22)
- Leopardas, V., Uy, W., Nakaoka, M. (2014) Benthic macrofaunal assemblages in multispecific seagrass meadows of the southern Philippines: Variation among vegetation dominated by different seagrass species. Journal of Experimental Marine Biology and Ecology 457: 71-80. (2014/4/5)
- Li, A., Munehara, H. (2015) Complete mitochondrial genome of the Antlered sculpin *Enophrys diceraus* (Scorpaeniformes, Cottidae). Mitochondrial DNA 26(1): 125-126.
- Mitani, Y., Iwahara, Y., Otsuki, M., Nishizawa, B., Mizuguchi, D., Haba, S., Sekiguchi, K., Mizuno, H., Sakurai, Y. (2014) Marine debris observed in the North Pacific during Oshoro-maru cruise in 2012. Bulletin of Fisheries Sciences, Hokkaido University 64(1): 25-29. (2014/01/6)
- Mori, T., Yanagisawa, Y., Kitani, Y., Sugiyama, M., Kishida, O., Nishimura, K. (2015) Gene expression profiles in *Rana pirica* tadpoles following exposure to a predation threat. BMC Genomics 16: 258. (2015/2/24)
- Nikaido, K., Jishi, T., Maeda, T., Suzuki, T., Araki, H. (2014) Quality change of asparagus spears stored with snow cooling. Journal of the Japanese Society for Horticultural Science 83(4): 327-334. (2014/6/22)
- Nosaka, M., Katayama, N., Kishida, O. (2015) Feedback between size balance and consumption strongly affects the consequences of hatching phenology in size-dependent predator-prey interactions. Oikos 124(2): 225-234. (2014/5/21)
- Sahashi, G. (2015) High frequency of deformations in Dolly Varden charr (*Salvelinus malma*, Walbaum, 1792), an introduced population. Journal of Applied Ichthyology (2015/1/21)
- Sunmonu, N., Kudo, G. (2014) How do sink and source activities influence the reproduction and vegetative growth of spring ephemeral herbs under different light conditions? Journal of Plant Research 127(4): 503-511. (2014/4/3)
- Takagi, K., Hirata, R., Ide, R., Ueyama, M., Ichii, K., Saigusa, N., Hirano, T., Asanuma, J., Li, S.-G., Machimura, T., Nakai, Y., Ohta, T., Takahashi, Y. (2015) Spatial and seasonal variations of CO₂ flux and photosynthetic and respiratory parameters of larch forests in East Asia. Soil Science and Plant Nutrition 61(1): 61-75. (2014/11/17)
- Takatsu, K., Kishida, O. (2015) Allometric equations for estimation of energy contents from body length for common amphibians (*Hynobius retardatus* and *Rana pirica*) in Hokkaido, Japan. Herpetology Notes 8: 187-191. (2015/1/26)

- Takatsu, K., Kishida, O. (2015) Predator cannibalism can intensify negative impacts on heterospecific prey. *Ecology*. (2015/1/26)
- Takigahira, T., Suwito, A., Kimura, M. T. (2014) Assessment of fitness costs of resistance against the parasitoid *Leptopilina victoriae* in *Drosophila bipectinata*. *Ecological Research* 29(6): 1033-1041. (2014/7/28)
- Terauchi, M., Nagasato, C., Motomura, T. (2015) Plasmodesmata of brown algae. *Journal of Plant Research* 128(1): 7-15. (2014/10/14)
- Watanabe, M., Kojima, H., Fukui, M. (2014) Proposal of *Effusibacillus lacus* gen. nov., sp. nov., and reclassification of *Alicyclobacillus pohliae* as *Effusibacillus pohliae* comb. nov. and *Alicyclobacillus consociatus* as *Effusibacillus consociatus* comb. nov. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology* 64: 2770-2774. (2014/5/23)
- Watanabe, T., Kojima, H., Fukui, M. (2014) Complete genomes of freshwater sulfur oxidizers *Sulfuricella denitrificans* skB26 and *Sulfuritalea hydrogenivorans* sk43H: Genetic insights into the sulfur oxidation pathway of betaproteobacteria. *Systematic and Applied Microbiology* 37(6): 387-395. (2014/5/13)
- Yamaguchi, H., Goto, Y., Hoshino, N., Miyashita, K. (2014) Growth and age composition of northern shrimp *Pandalus eous* estimated by multiple length frequency analysis. *Fisheries Science* 80(4): 665-678. (2014/5/7)
- Yamakita, T., Yamamoto, H., Nakaoka, M., Yamano, H., Fujikura, K., Hidaka, K., Hirota, Y., Ichikawa, T., Kakehi, S., Kameda, T., Kitajima, S., Kogure, K., Komatsu, T., Kumagai, N. H., Miyamoto, H., Miyashita, K., Morimoto, H., Nakajima, R., Nishida, S., Nishiuchi, K., Sakamoto, S., Sano, M., Sudo, K., Sugisaki, H., Tadokoro, K., Tanaka, K., Jintsu-Uchifune, Y., Watanabe, K., Watanabe, H., Yara, Y., Yotsukura, N., Shirayama, Y. (2015) Identification of important marine areas around the Japanese Archipelago: Establishment of a protocol for evaluating a broad area using ecologically and biologically significant areas selection criteria. *Marine Policy* 51: 136-147. (2014/7/8)
- Yamamoto, Y., Hoshino, Y., Masago, H., Kawano, T. (2014) Attempt for postharvest ripening of immature fruits of Haskap (*Lonicera caerulea* L. var. *emphyllocalyx* Nakai), an emerging fruit in Northern Japan. *Advances in Horticultural Science* 28(4): 244-250. (2014/11/20)
- 栗林貴範, 阿部剛史, 門谷茂 (2014) 北海道日本海沿岸における栄養塩濃度の長期トレンドと海藻藻場. 沿岸海洋研究 52(1): 75-81. (2014/5/12)
- 工藤勲, 吉村真理, 橋岡香織, 足立敏成, 磯田豊 (2014) 陸奥湾における貧栄養化と二枚貝養殖の関連性. 沿岸海洋研究 52(1): 83-92. (2014/05/14)
- 寺田千里, 齊藤隆 (2014) 島嶼ルールと局所適応：ヤクシカを中心に島の面積と地形の関係について考える（特集 哺乳動物の「島嶼効果」：日本列島からの証拠）. 生物科学 66(1): 24-29. (2014/6/11)
- 長谷川成明, 藤部拓己 (2015) ダケカンバ二次林における下層ササの除去が樹木の空間分布に与える影響. 低温科学 73: 73-80. (2015/1/28)
- 津田元, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦 (2015) ミズナラ実生の初期成長における生育条件の影響と葉の生理的応答. 低温科学 73: 57-64. (2015/1/28)
- 田畑あづさ, 原登志彦 (2015) 異なる土壤水分条件下でのカバノキ属ダケカンバとシラカンバの個体生長と水分生理特性. 低温科学 73: 115-123. (2015/2/6)
- 林田寿文, 新居久也, 渡邊和好, 宮崎俊行, 上田宏 (2015) サクラマススモルトの降下時における美利河ダム分水施設の評価. 水工学論文集 59: I_943-948. (2014/12/14)

<平成 25 年度報告書以前の記載漏れ>

- Araki, H., Fujiwara, S., Jishi, T., Fujii, M., Yokota, T., Nishida, T. (2014) Winter production of green asparagus by using surplus heat from machinery room and used hot water from hotel's spa. *Acta Horticulturae* 1037: 155-161. (2013/10/6)*
- Kimura-Kawaguchi, M. R., Horita, M., Abe, S., Arai, K., Kawata, M., Munehara, H. (2014) Identification of hemicleonal reproduction in three species of *Hexagrammos* marine reef fishes. *Journal of Fish Biology* 85(2): 189-209. (2014/3/11)
- Miyoshi, K., Hayashida, K., Sakashita, T., Fujii, M., Nii, H., Nakao, K., Ueda, H., Tierney, K. (2014) Comparison of the swimming ability and upstream-migration behavior between chum salmon and masu salmon. *Canadian Journal of Fisheries and Aquatic Sciences* 71(2): 217-225. (2013/10/29)
- Moharekar, S. L., Moharekar, S., Kobayashi, T., Ishii, H., Sumida, A., Hara, T. (2014) Phenotypic plasticity and ecotypic variations in growth and flowering time of *Arabidopsis thaliana* (L.) under different light and temperature conditions. *Indian Journal of Experimental Biology* 52:

344-351. (2013/10/28)

- Mori, T., Saitoh, T. (2014) Flood disturbance and predator–prey effects on regional gradients in species diversity. *Ecology* 95(1): 132-141. (2013/6/11)
- Ou, W., Takekawa, S., Yamada, T., Terada, C., Uno, H., Nagata, J., Masuda, R., Kaji, K., Saitoh, T. (2014) Temporal change in the spatial genetic structure of a sika deer population with an expanding distribution range over a 15-year period. *Population Ecology* 56(2): 311-325. (2013/11/25)
- Sato, N., Kasugai, T., Munehara, H. (2014) Female pygmy squid cryptically favour small males and fast copulation as observed by removal of spermatangia. *Evolutionary Biology* 41(2): 221-228. (2013/10/30)
- Sato, N., Kasugai, T., Munehara, H. (2014) Spermatangium formation and sperm discharge in the Japanese pygmy squid *Idiosepius paradoxus*. *Zoology* 117(3): 192-199. (2014/2/7)
- Soga, M., Ishiyama, N., Sueyoshi, M., Yamaura, Y., Hayashida, K., Koizumi, I., Negishi, J. (2014) Interaction between patch area and shape: lakes with different formation processes have contrasting area and shape effects on macrophyte diversity. *Landscape and Ecological Engineering* 10(1): 55-64. (2013/2/19)
- Tokoro, T., Hosokawa, S., Miyoshi, E., Tada, K., Watanabe, K., Montani, S., Kayanne, H., Kuwae, T. (2014) Net uptake of atmospheric CO₂ by coastal submerged aquatic vegetation. *Global Change Biology* 20(6): 1873-1884. (2013/12/30)
- Wachi, N., Nomano, F. Y., Mitsui, H., Kasuya, N., Kimura, M. T. (2015) Taxonomy and evolution of putative thelytokous species of *Leptopilina* (Hymenoptera: Figitidae) from Japan, with description of two new species. *Entomological Science* 18(1): 41-54. (2014/1/20)
- Yamakawa, R., Kumano, T., Yokota, T., Araki, H. (2014) Chicory (*Cichorium intybus*) production of using local snow and terrestrial heat energy in mid-summer. *Acta Horticulturae* 1037: 255-258. (2013/10/6)
- 前田高志, 勝山吉徳, 川井唯史, 四ツ倉典滋 (2014) *Saccharina japonica* の遺伝的多様性の保全に関する研究. 水産工学 51(1): 59-64. (2014/3/10)

環境物質科学専攻

- Awasthi, K., Hsu, H.-Y., Chiang, H.-C., Mai, C.-L., Yeh, C.-Y., Diau, E. W.-G., Ohta, N. (2015) Electroabsorption spectra of push–pull porphyrins in solution and in solid films. *Journal of Porphyrins and Phthalocyanines* 19(01-03): 527-534. (2015/1/8)
- Buranaboripan, W., Lang, W., Motomura, E., Sakairi, N. (2014) Preparation and characterization of polymeric host molecules, β-cyclodextrin linked chitosan derivatives having different linkers. *International Journal of Biological Macromolecules* 69: 27-34. (2014/5/4)
- Endo, T., Kubo, K., Yoshitake, M., Noro, S.-i., Hoshino, N., Akutagawa, T., Nakamura, T. (2015) Three-dimensional architectures of [Mn^{II}Cr^{III}(oxalate)₃]⁻complexes with cage-type networks surrounding supramolecular cations. *Crystal Growth & Design* 15(3): 1186-1193. (2015/1/21)
- Hirakawa, H., Katayama, M., Shiraishi, Y., Sakamoto, H., Wang, K., Ohtani, B., Ichikawa, S., Tanaka, S., Hirai, T. (2015) One-pot synthesis of imines from nitroaromatics and alcohols by tandem photocatalytic and catalytic reactions on Degussa (Evonik) P25 titanium dioxide. *ACS Applied Materials and Interfaces* 7(6): 3797-3806. (2015/1/26)
- Hirayama, J., Kamiya, Y. (2014) Combining the photocatalyst Pt/TiO₂ and the nonphotocatalyst SnPd/Al₂O₃ for effective photocatalytic purification of groundwater polluted with nitrate. *ACS Catalysis* 4(7): 2207-2215. (2014/5/28)
- Homura, H., Ohtani, B., Abe, R. (2014) Facile fabrication of photoanodes of tungsten(VI) oxide on carbon microfiber felts for efficient water oxidation under visible light. *Chemistry Letters* 43(8): 1195-1197. (2014/4/20)
- Iwase, Y., Sano, S., Mahardiani, L., Abe, R., Kamiya, Y. (2014) Bimodal cesium hydrogen salts of 12-tungstosilicic acid, Cs_xH_{4-x}SiW₁₂O₄₀, as highly active solid acid catalysts for transesterification of glycerol tributyrate with methanol. *Journal of Catalysis* 318: 34-42. (2014/7/13)
- Kamei, Y., Robertson, N., Shichibu, Y., Konishi, K. (2015) Impact of skeletal isomerization of ultrasmall gold clusters on electrochemical properties: Voltammetric profiles of nonspoked octanuclear clusters. *The Journal of Physical Chemistry C* 119(20): 10995-10999. (2014/12/29)
- Kato, M., Kimijima, K., Shibata, M., Notsu, H., Ogino, K., Inokuma, K., Ohta, N., Uehara, H., Uemura, Y., Oyaizu, N., Ohba, T., Takakusagi, S., Asakura, K., Yagi, I. (2015) Deprotonation of a dinuclear copper complex of 3,5-diamino-1,2,4-triazole for high oxygen reduction activity. *Physical Chemistry Chemical Physics* 17(14): 8638-8641. (2015/3/2)

- Kowalska, E., Wei, Z., Karabiyik, B., Herissan, A., Janczarek, M., Endo, M., Markowska-Szczupak, A., Remita, H., Ohtani, B.* (2015) Silver-modified titania with enhanced photocatalytic and antimicrobial properties under UV and visible light irradiation. *Catalysis Today* 252: 136-142. (2014/10/29)
- Kowalska, E., Wei, Z. S., Karabiyik, B., Janczarek, M., Endo, M., Wang, K. L., Rokicka, P., Markowska-Szczupak, A., Ohtani, B.* (2014) Development of plasmonic photocatalysts for environmental application. *Advances in Science and Technology, Trans Tech Publ.* (2014/7/10)
- Kowalska, E., Yoshiiri, K., Wei, Z., Zheng, S., Kastl, E., Remita, H., Ohtani, B., Rau, S.* (2015) Hybrid photocatalysts composed of titania modified with plasmonic nanoparticles and ruthenium complexes for decomposition of organic compounds. *Applied Catalysis B: Environmental.* (2014/10/2)
- Lang, W., Kumagai, Y., Sadahiro, J., Maneesan, J., Okuyama, M., Mori, H., Sakairi, N., Kimura, A.* (2014) Different molecular complexity of linear-isomaltose-malosaccharides and beta-cyclodextrin on enhancing solubility of azo dye ethyl red: towards dye biodegradation. *Bioresource Technology* 169: 518-524. (2014/7/4)
- Motobayashi, K., Tomioka, R., Uchida, T., Osawa, M.* (2015) Effect of hydrogen on the orientation of cinchonidine adsorbed on platinum: An ATR-SEIRAS study. *Chemistry Letters* 44(6): 770-772. (2015/3/6)
- Sabeth, F., Islam, M. S., Endo, T., Ohta, N.* (2015) Time-resolved photoexcitation dynamics of electrical conductivity of magnetic organic superconductor λ -(BETS)₂Fe_{0.45}Ga_{0.55}Cl₄. *Rapid Communication in Photoscience* 4(1): 25-28. (2015/3/27)
- Sato, Y., Kawaguchi, T.* (2014) Patterning of alkylamine molecules on highly oriented pyrolytic graphite surfaces via deep UV light irradiation. *Chemistry Letters* 43(10): 1542-1544. (2014/6/25)
- Shichibu, Y., Zhang, M., Kamei, Y., Konishi, K.* (2014) [Au₇]³⁺: a missing link in the four-electron gold cluster family. *Journal of the American Chemical Society* 136(37): 12892-12895. (2014/9/3)
- Suherman, Morita, K., Kawaguchi, T.* (2015) Effect of alkanethiol molecular structure on sensitivity of surface plasmon resonance sensor. *Sensors and Actuators B: Chemical* 210: 768-775. (2015/1/7)
- Suherman, Morita, K., Kawaguchi, T.* (2015) Highly selective and sensitive detection of beta-agonists using a surface plasmon resonance sensor based on an alkanethiol monolayer functionalized on a Au surface. *Biosensors and Bioelectronics* 67: 356-363. (2014/8/22)
- Suherman, Morita, K., Kawaguchi, T.* (2015) Surface plasmon resonance for detecting clenbuterol: Influence of monolayer structure. *Applied Surface Science* 332: 229-236. (2015/1/22)
- Tomita, O., Ohtani, B., Abe, R.* (2014) Highly selective phenol production from benzene on a platinum-loaded tungsten oxide photocatalyst with water and molecular oxygen: selective oxidation of water by holes for generating hydroxyl radical as the predominant source of the hydroxyl group. *Catalysis Science and Technology* 4(11): 3850-3860. (2014/4/30)
- Umezawa, T., Sato, A., Ameda, Y., Casalme, L. O., Matsuda, F.* (2015) Synthetic study on dolastatin 16: concise and scalable synthesis of two unusual amino acid units. *Tetrahedron Letters* 56(1): 168-171. (2014/11/13)
- Wei, Z., Kowalska, E., Ohtani, B.* (2014) Influence of post-treatment operations on structural properties and photocatalytic activity of octahedral anatase titania particles prepared by an ultrasonication-hydrothermal reaction. *Molecules* 19(12): 19573-11987. (2014/11/17)
- Xiong, J., Kubo, K., Noro, S., Akutagawa, T., Nakamura, T.* (2015) Supramolecular cations of (*m*-halogenated-anilinium)(dibenzo[18]crown-6) in Keggin [SMo₁₂O₄₀²⁻] polyoxometallates. *CrystEngComm* 17(4): 856-861. (2014/11/21)
- Yamamoto, H., Ohnuma, A., Ohtani, B., Kozawa, T.* (2014) Position control of metal nanoparticles by self-assembly. *Journal of Photopolymer Science and Technology* 27(2): 243-247. (2014/6/20)
- 小西克明, 福永直人 (2014) 銀ナノクラスターの新展開—タマネギ型構造が織りなす興味深い特性. *化学* 69(5): 66-67.
- 杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明 (2014) 非球状型サブナノ金クラスターの合成と光機能創出 ナノ学会会報 13(1): 25-28. 2014/9/3

1 2-2 査読無し論文

平成 26 年度に発表された査読無し論文を専攻毎にまとめる。下線の氏名は環境科学院学生（修了者も学院所属時の発表ならば含む）、イタリックの氏名は学院教員を示す。なお、教員のみの業績については、各部局の報告等に所載するため掲載していない。

環境起学専攻

- Islam Md. Shariful, *Kurasaki, M.* (2014) Phytofiltration mechanism of arsenic from drinking water using *Micranthemum umbrosum*. One century of the discovery of arsenicosis in Latin America (1914-2014). M.I. Litter, H.B. Nicoll, M. Meichtry, N. Quici, J. Bundschuh, Bhattacharya, P., Naidu, R. London, UK, CRC Press.
- Song, Y., Tajima, H., Ito, K., Okuno, T., *Kurasaki, M.* (2014) Inhibitory effect of extracts from grape skin on production of ultraviolet radiation-induced cyclobutane pyrimidine dimer in normal human epidermal keratinocytes. Photomedicine and Photobiology **36**: 35-37.

地球圏科学専攻

- Endo, H., Sugie, K., Yoshimura, T., *Suzuki, K.* (2014) Effects of CO₂ and iron availability on *rbcL* gene expression in Bering Sea diatoms. Biogeosciences Discussions **11**(12): 18105-18143. (2014/12/2)
- Ito, M., *Ohshima, K. I.*, *Nishioka, J.*, Kusumoto, Y., Mizuta, G., *Fukamachi, Y.* (2015) Sediment upward dispersion and frazil ice formation by strong windy events in the Sea of Okhotsk observed with ADCP.—A possible mechanism of iron supply to sea ice—. Proceedings of the 30th International Symposium on Okhotsk Sea & Sea Ice: 183-186. (2015/1/-)
- Zhang, W., *Ebuchi, N.*, Emery, B., *Abe, H.* (2015) Drift ice detection by HF ocean radar off Mombetsu. Proceedings of 30th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice: 95-98. (2015/1/15)
- Zhang, W., *Ebuchi, N.*, *Fukamachi, Y.*, Yoshikawa, Y. (2014) Estimation of wind drift current in the Soya Strait. Proceedings of 2nd Ocean Radar Conference for Asia-Pacific: 68-71. (2014/4/2)
- Zhu, C., *Yoshikawa-Inoue, H.* (2014) Temporal variations in atmospheric CO₂ on Rishiri Island in 2006–2013: responses of the interannual variation in amplitude to climate and the terrestrial sink in East Asia. Earth System Dynamics Discussion **5**(1): 809-848. (2014/6/27)
- 丸山未妃呂, 津滝俊, 榊原大貴, 澤柿教伸, 杉山慎 (2014) グリーンランド北西部カナック氷帽における質量収支・流動速度・表面高度変化の観測. 北海道の雪氷 **33**: 81-84. (2014/6/27)
- 佐伯立, 三寺史夫, 馬目歩美, 豊田威信, 木村聰明, 浮田甚郎 (2014) 海洋海氷間の共鳴相互作用によるアイスバンドパターンの形成（非線形波動現象の数理と応用）. 数理解析研究所講究録 **1890**: 106-112.
- 杉山慎, 津滝俊, 榊原大貴, 斎藤潤, 丸山未妃呂, 澤柿教伸(2015) グリーンランド北西部における氷帽およびカービング氷河の変動（総特集 地球温暖化とグリーンランドの氷河氷床変動(1)). 月刊地球 **37**(2): 9-18. (2015/01/10)
- 杉山慎, 澤柿教伸, 津滝俊, 榊原大貴, 丸山未妃呂 (2014) グリーンランド北西部における氷床・氷帽・カービング氷河の変動. 北海道の雪氷 **33**: 73-76. (2014/6/27)
- 斎藤潤, 津滝俊, 澤柿教伸, 杉山慎 (2014) グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化. 北海道の雪氷 **33**: 77-80. (2014/6/27)
- 大橋良彦, 飯田高大, 杉山慎 (2014) グリーンランド北西部沿岸の海洋環境. 北海道の雪氷 **33**: 85-88. (2014/6/27)

生物圏科学専攻

- Fu, G., *Kinoshita, N.*, *Nagasato, C.*, *Motomura, T.* (2014) Fertilization of brown algae: Flagellar function in phototaxis and chemotaxis. Sexual Reproduction in Animals and Plants. Sawada, H., Inoue, N., Iwano, M., Springer Japan: 359-367.
- Sekiguchi, K., Jefferson, T. A., Iwahara, Y., Yoshioka, M., Mori, K., Ford, J. K. B., *Mitani, Y.*, Gorter, U. (2014) An infrequently-occurring anomalous color pattern on Pacific white-sided dolphins, *Lagenorhynchus obliquidens*. Dolphins: Ecology, Behavior and Conservation Strategies. Joshua, B. S., Nova Science Pub Inc.
- 間宮涉, 金子潔, 揚妻直樹, 芦谷大太郎, 久保田省悟, 鈴木清士, 前田昌作, 土井一夫, 大西一弘, 前田純 (2015) 和歌山研究林における長期観察林の現況とこれから. 北方森林保全技術(32): 20-27.
- 間宮涉, 中村誠宏, 小林真 (2015) 冬の温暖化が北方林の炭素固定と生物多様性へ及ぼす影響の解明へ向けた国際的な研究連携の設立へ向けて：ボストン大学訪問. 北方森林保全技術(32): 53-57.

杉目康広, 渡邊大, 三浦徹 (2014) オオシロアリの兵隊特異的な形態形成における前兵隊クチクラの役割.
しろあり(162): 29-32.

藤田弥生, 大槻真友子, 宮下和士, 三谷曜子, 北夕紀 (2014) 根室海峡羅臼沖における鯨類目視調査. 東海大学紀要. 生物学部 **3**: 11-17.

環境物質科学専攻

Suherman, Morita, K., Kawaguchi, T. (2014) Surface plasmon resonance immunosensor using functionalized alkanethiol monolayers. Proceedings of the Chemical Sensor Symposium **57**: 73-75. (2014/6/10)

1 2-3 学会発表

環境起学専攻

- Akemoto, Y., Kitagawa, C., Miyamura, R., Kan, M., Tanaka, S., 2014年9月7日, Study on removal behavior of cesium ion in clay minerals (kaolin and vermiculite) by using electrokinetic process, 13th International Symposium on Electrokinetic Remediation, スペイン・マラガ, ポスター
- Dagvadorj, L., Ishikawa, M., 2014年11月30日, Social Impact Assessment in mining projects in Mongolia, 国際開発学会第25回全国大会, 千葉, 口頭
- Erdenebat, E., Sato T., 2014年12月18日, Long-term statistical analysis on hot days and heat wave in Mongolia, AGU fall meeting 2014, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Erdenebat, E., Sato T., 2014年7月31日, Hot days and predictability of summer heat wave in Mongolia, AOGS 11th Annual Meeting, 札幌, ポスター
- Fukuda, Y., Fujii, M., 2014年7月27日-8月1日, Biomass resource mapping and potential evaluation in Hokkaido, Japan, Grand Renewable Energy 2014 International Conference and Exhibition, 東京, ポスター
- Islam Md. S., Kurasaki, M., 2014年5月12日-16日, Phytofiltration mechanism of arsenic from drinking water using Micranthemum Umbrosum, The 5th International Congress on Arsenic in the Environment, アルゼンチン・ブエノスアイレス, ポスター
- Kwon, T., Tsuyuzaki S., 2015年3月19日, Seasonal and elevational variations of mycorrhizal symbiosis of woody plants on Mt. Koma, northern Japan, 日本生態学会, 鹿児島, ポスター
- Liu, J., 2014年9月24日-26日, Study on the changes of the vegetation cover by satellite imageries in the Alai valley, Kyrgyzstan, 2014 Asia Global Land Project conference: sustainable land use and ecosystem management, 台湾・台北, 口頭
- Watanabe, T., Shirasaka, S., Song, F., Liu, J., 2014年9月24日-26日, Kezüü: Adapting livestock grazing in the changing Kyrgyz Pamir, 2014 Asia Global Land Project conference: sustainable land use and ecosystem management, 台湾・台北, 口頭
- Lopez, J. A. V., Al-Lihabi, S. S., Okino, T., 2015年3月26日, A wewakazole-related cyclic peptide from the marine cyanobacterium Moorea producens, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭
- Maruyama, M., Tsutaki, S., Sugiyama, S., Sawagaki, T., Sakakibara, D., Saito, J., Katayama, N., Fujita, K., Aoki, T., 2014年12月5日, Field measurements of mass balance, elevation change and ice speed on Qaanaaq Ice Cap, northwestern Greenland, The 5th Symposium on Polar Science – NIPR, Tokyo, 東京, ポスター
- Mori, K., Sato, T., 2014年7月31日, Analysis of high-temperature event in the spring morning around Okhotsk area in Hokkaido, North Japan, AOGS 11th Annual Meeting, 札幌, ポスター
- Saito, J., Tsutaki, S., Sawagaki, T., Sugiyama, S., 2014年12月5日, Surface elevation change on ice caps in northwestern Greenland, The 5th Symposium on Polar Science – NIPR, Tokyo, 東京, ポスター
- Sakti, S. C. W., Tanaka, S., 2014年5月24日, Removal of Chromium(VI) ion from aqueous solution by pyridinium functionalized magnetic chitosan, Annual meeting of Japan analytical chemistry society, 郡山, ポスター
- Sato, T., Sugimoto, S., Sasaki, T., 2014年12月15日, Seasonally and diurnally different response of surface air temperature to historical urbanization in Sapporo, AGU fall meeting 2014, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Sawagaki, T., Komazawa, K., Miura, H., 2014年12月5日, Evaluation of public geospatial data around Syowa Station in detection of ice sheet fluctuation, The 5th Symposium on Polar Science – NIPR, Tokyo, 東京, 口頭
- Sugimoto, S., Sato, T. and Sasaki, T., 2014年6月18日, Regional climate change during winter caused by the historical land-cover change in Hokkaido Island, Japan, 3rd Lund Regional-scale Climate Modelling Workshop 21st Century Challenges in Regional Climate Modelling (RCM2014), スウェーデン・ルンド, ポスター
- Sugimoto, S., Sato, T., Sasaki, T., 2014年7月16日, Regional climate change during winter caused by the historical land-cover change in Hokkaido Island, Japan, 7th International Scientific Conference on the Global Water and Energy Cycle (GEWEX), オランダ・ハーグ, 口頭
- Sugiyama, S., Minowa, M., Sakakibara, D., Ohhashi, Y., Skvarka, P., Sawagaki, T., Naito, N., 2014年5月27日, Thermal structures in proglacial lakes in the Southern Patagonia Icefield,

- International Symposium on Contribution of Glaciers and Ice Sheets to Sea-Level Change, フランス, 口頭
- Sugiyama, S., Tsutaki, S., Sakakibara, D., Saito, J., Katayama, N., Sawagaki, T., Funk, M., Bauder, A., 2014年12月5日, Dynamics of Bowdoin Glacier, a marine-terminating outlet glacier in northwestern Greenland, The 5th Symposium on Polar Science – NIPR, Tokyo, 東京, 口頭
- Tanabe, S., Fujii, M., Yamada, M., 2014年9月4日, Energy-water nexus relevant to baseload electricity source including mini/micro hydropower generation, World Water Week 2014, スウェーデン・ストックホルム, 口頭
- Tsutaki, S., Sugiyama, S., Sakakibara, D., Sawagaki, T., Maruyama, M., Saito, J., Katayama, N., 2014年12月5日, Recent thinning of Bowdoin Glacier, a marine-terminating outlet glacier in northwestern Greenland, The 5th Symposium on Polar Science – NIPR, Tokyo, 東京, 口頭
- Uson R. A., 田中將登, 斎藤健, 細川敏幸, 藏崎正明, 2014年5月26日-27日, フルクトース投与妊娠ラットの新生仔の糖代謝へのメリソニジン抽出物の及ぼす影響, 第84回日本衛生学会, 岡山, 口頭
- 奥野勉, 宋雨桐, 藏崎正明, 2014年5月26日-27日, 培養ヒト表皮角化細胞のDNAにおけるピリミジンダイマー生成の紫外放射の作用スペクトル, 第36回日本光医学・光生物学会, 吹田, 口頭
- 沖野龍文, Anas, A. R. J., 2014年9月11日, アオコがつくる2次代謝産物の構造多様性, 日本陸水学会第79回大会, つくば, 口頭
- 釜野靖子, Stefan, H., 露崎史朗, 2014年9月13日, 北海道サロベツ湿原における搅乱13年後のミズゴケ回復状況, 日本植物学会, 神奈川, ポスター
- 丸山未妃呂, 津滝俊, 榊原大貴, 澤祐教伸, 杉山慎, 2014年5月9日, 現地観測データに基づいたカナック氷帽の変動解析, 雪氷学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭*
- 丸山未妃呂, 津滝俊, 杉山慎, 澤祐教伸, 榊原大貴, 2014年9月20日, グリーンランド北西部カナック氷帽における質量収支・流動速度・表面高度変化の観測, 雪氷研究大会2014, 八戸, 口頭*
- 久保木芳徳, 古澤利武, 鵜沼英郎, 八上公利, 滝田裕子, 劉闖, 藏崎正明, 2014年9月25日-27日, チタンが骨内定着する生化学的機構:チタン結合リン蛋白質の骨増生機能について, 第56回歯科基礎学会, 福岡, 口頭
- 久保木芳徳, 古澤利武, 鵜沼英郎, 八上公利, 劉闖, 藏崎正明, 戸倉清一, 2015年3月19日-21日, チタン・インプラント蛋白質の発見とその後の展開, 第14回日本再生医療学会, 横浜, 口頭
- 久保木芳徳, 戸倉清一, 劉闖, 藏崎正明, 古澤利武, 鵜沼英郎, 八上公利, Sammons, R., 2015年2月28日, インプラント蛋白(チタン結合骨造成蛋白)の発見とその後の発展:キチンと不溶性コラーゲンをリン酸化した素材による新型骨再建材の創出, 第27回代用臓器・再生医学研究会, 札幌, 口頭
- 金子賢介, 小林大毅, 鶩尾健司, 森川正章, 沖野龍文, 2015年3月28日, 紅藻ソゾ属3種のプロモペルオキシダーゼの活性評価, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭
- 金子賢介, 鶩尾健司, 小林大毅, 湯曉蓉, 梅澤大樹, 松田冬彦, 森川正章, 沖野龍文, 2014年10月15日, Laurnecia属紅藻のプロモペルオキシダーゼ, 第56回天然有機化合物討論会, 高知, ポスター
- 今井悠, 根岸淳二郎, 植村郁彦, 三浦一輝, 照井慧, 赤坂卓美, 2015年3月19日, 砂州生態系の洪水搅乱への短期的応答:フラッシュ放流でゴミムシは減るか?, 生態学会, 鹿児島, ポスター
- 根岸淳二郎, 植村郁彦, 渡辺のぞみ, 照井慧, 中村太士, 2015年3月22日, 陸域への資源パルスの時空間変異:河川羽化昆虫量および群集構造における河川・生息場タイプの影響, 生態学会, 鹿児島, 口頭
- 榊原大貴, 箕輪昌紘, 杉山慎, 澤祐教伸, 内藤望, ペドロスクヴァルカ, 2014年9月20日, 南パタゴニア氷原ウブサラ氷河の後退および流動加速に底面地形が与える影響, 雪氷研究大会2014, 八戸, 口頭*
- 酒井佑楨, 2014年7月29日, Analysis of effect of local and global density on reproductive pattern of clonal plant, JSMB/SMB 2014, Joint Annual Meeting, 大阪, 口頭
- 酒井佑楨, 2014年9月17日, 植物での病気伝播モデルの解析, 第11回「生物数学の理論とその応用」シンポジウム, 京都, 口頭
- 高木俊甫, 2015年3月19日, 森林伐採が里山に与える影響の数理的研究~陽樹陰樹ダイナミクスの応用~, 第62回日本生態学会, 鹿児島, ポスター
- 三浦一輝, 渡辺のぞみ, 植村郁彦, 根岸淳二郎, 2015年3月19日, 河川希少種の陸への波及効果:カワシンジュガイ属はエゾアカガエルの越冬地を提供するか?, 生態学会, 鹿児島, ポスター
- 山下綾乃, 佐々木隆浩, 田中俊逸, 2014年10月15日, プルシアンブルー・ポリアニリン修飾炭素繊維によるセシウム吸着挙動に関する検討, 日本化学会秋季事業 第4回CSJ化学フェスタ2014, 東京, ポスター

- 小栗祐子, 松浦裕志, 吉村えり奈, 野方靖行, 沖野龍文, 2014年7月12日, 八丈島産ソゾ属海藻より得られたタテジマフジツボ幼生付着阻害物質 hachijojimallene AおよびBの構造, 日本化学会北海道支部 2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭
- 松原一平, 根岸淳二郎, 岩井尚人, 宇井雅彦, 2015年3月20日, 持続的な地下水の利活用に向けた地下水の起源推定と環境教育の場の創出—北海道札幌市を事例に—, 生態学会, 鹿児島, 口頭
- 植村郁彦, 根岸淳二郎, 照井慧, 中村太士, 2015年3月21日, 砂礫性昆虫によって維持される森と川のつながり～礫河原への植生侵入の影響に注目して～, 生態学会, 鹿児島, 口頭
- 植村郁彦, 根岸淳二郎, 照井慧, 中村太士, 2014年9月20日, 矶河原の樹林化は砂礫性昆虫を介した陸域と水域のつながりを変化させるか?, 応用生態工学会, 東京, 口頭
- 森佳祐, 佐藤友徳, 2014年10月21日-23日, 積雪被覆を考慮した都市キャノピーモデルによる冬季札幌の気温の再現性評価, 日本気象学会 2014年度秋季大会, 1021-1023, ポスター
- 森佳祐, 佐藤友徳, 2015年1月20日, 積雪被覆が札幌市の冬季ヒートアイランドへ及ぼす影響の評価, 日本気象学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭
- 杉山慎, 箕輪昌紘, 榎原大貴, 大橋良彦, ペドロスクヴァルカ, 澤柿教伸, 内藤望, 知北和久, 2014年9月20日, 南パタゴニア氷原におけるカービング氷河前縁湖の水温構造, 雪氷研究大会 2014, 八戸, 口頭*
- 杉本志織, 佐藤友徳, 佐々木智規, 2014年10月21日-23日, 北海道の農地化に伴う冬季の気候変化, 日本気象学会 2014年度秋季大会, 1021-1023, 口頭
- 杉本志織, 佐藤友徳, 佐々木智規, 2014年5月21日-24日, 北海道の土地利用改変に伴う都市域の気温変化, 日本気象学会 2014年度春季大会, 0521-0524, 口頭
- 斉藤潤, 津滝俊, 澤柿教伸, 杉山慎, 2014年5月9日, グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化, 雪氷学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭*
- 斉藤潤, 津滝俊, 澤柿教伸, 杉山慎, 2014年9月20日, グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化, 雪氷研究大会 2014, 八戸, 口頭*
- 宋雨桐, 田島大敬, 伊藤敬三, 奥野勉, 蔵崎正明, 2014年7月25日-26日, ブドウ果皮抽出物のUV照射によるシクロブタン型ピリミジン二量体産生抑制効果, 第36回日本光医学・光生物学会, 吹田, 口頭
- 蔵崎正明, Islam Md. S., 細川敏幸, 齋藤健, 2015年3月27日-28日, *Micranthemum umbrosum* を用いた水圈環境中よりのヒ素及びカドミウムの浄化, 第85回日本衛生学会, 和歌山, ポスター
- 津滝俊, 杉山慎, 榎原大貴, 澤柿教伸, 丸山未妃呂, 2014年9月20日, グリーンランド北西部 Bowdoin,Tugto 氷河の氷厚変化, 雪氷研究大会 2014, 八戸, 口頭
- 津滝俊, 杉山慎, 榎原大貴, 澤柿教伸, 丸山未妃呂, 2014年4月30日, グリーンランド北西部ボードイン氷河における氷厚変化, 日本地球惑星連合 2014大会, 横浜, 口頭
- 天澤俊行, 佐藤友徳, 2015年1月20日, 東京の降雪と低気圧経路の関係に関する統計的解析, 日本気象学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭
- 内藤望, 箕輪昌紘, 榎原大貴, 大橋良彦, 澤柿教伸, 杉山慎, ペドロスクヴァルカ, 2014年9月20日, 2013年12月南パタゴニア氷原ペリート・モレノ氷河における表面測量, 雪氷研究大会 2014, 八戸, ポスター
- 福田陽一朗, 藤井賢彦, 丹羽忍, 小野理, 2014年5月23日, 地理情報システムを活用したバイオマスエネルギー利用の最適化, 平成26年度 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 調査研究成果発表会, 札幌, ポスター
- 箕輪昌紘, 杉山慎, ペドロ スクヴァルカ, 榎原大貴, 大橋良彦, 澤柿教伸, 内藤望, 2014年9月20日, 南パタゴニア氷原ペリート・モレノ氷河における末端変動メカニズムの解明, 雪氷研究大会 2014, 八戸, 口頭*
- 友貞俊成, 佐藤友徳, 2014年12月5日, 複数の将来気候データを用いたてん菜糖量の解析, 日本農業気象学会北海道支部大会, 札幌, 口頭
- 友貞俊成, 佐藤友徳, 2015年3月19日, マルチ GCM×マルチ RAM の気候データを用いたてん菜糖量の将来変化予測, 日本農業気象学会全国大会, つくば, 口頭
- 劉闡, 田中将登, 齋藤健, 蔵崎正明, 2014年5月26日-27日, PC12細胞に誘導されたアポトーシスに及ぼすノニルフェノールエソキシレート類の影響, 第84回日本衛生学会, 岡山, 口頭
- 澤柿教伸, 駒澤皓, 三浦英樹, 2014年9月20日, 公開された南極・昭和基地周辺の各種地理空間データとステレオペア画像を用いた氷床表面標高変化の検出, 雪氷研究大会 2014, 八戸, 口頭
- 宮崎紀子, 2015年3月21日, 泥炭採掘地におけるヌマガヤ草地へのミズゴケの侵入と定着, 日本生態学会, 鹿児島, ポスター

地球圈科学専攻

- Abe, S., Nakamura, T., Mitsudera H., 2014年7月28日, Unstable Modes of Jets on the Bottom, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2014, 札幌, 口頭
- Abe, S., Nakamura, T., Mitsudera, H., 2014年12月18日, An Unstable Mode Formed by Combination of Kelvin-Helmholtz Waves and Tollmien-Schlichting Waves in Jets on the Bottom, AGU Fall Meeting, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Mroiya, E., Fukamachi, Y., Simizu, D., Ohshima, K. I., Takatsuka, T., Iwamoto K., Mahoney, A. R., Jones, J., Eicken, H., 2014年12月5日, Mooring measurements of sea-ice thickness in the Chukchi Sea off Barrow, Alaska, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- Fujiwara, M., Hibino, T., Mehta, S. K., Gray, L., Mitchell, D., Anstey, J., 2014年7月28日-8月1日, Global Response to the Major Volcanic Eruptions in 9 Reanalysis Datasets, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2014 meeting, 札幌, 口頭
- Fujiyoshi, R., Uchino, Y., Tsukuura, A., Tsujimura, M., Lopez, C. M. L., Sugimoto, A., 2014年12月9日, Spatial variations in larch and soil δ15N reflecting N dynamics along forest-grassland gradient in northern Mongolia, "Present Forestry, Agriculture and Husbandry conditions in Mongolia", 岩手, 口頭
- Greve R., Sato T., Galton-Fenzi B., 2014年6月23日, A simple parameterization of ice-shelf basal melting and its implementation in the ice sheet model SICOPOLIS, 28th International Forum for Research into Ice Shelf Processes (FRISP), ドイツ・ケルン, 口頭
- Harada, K., Hamada, N., Ujiie, Y., 2014年9月29日-10月1日, Relationship between reflectance and color of vitrinite grains under a microscope, The society for organic petrology, 2014 Meeting, オーストラリア・シドニー, ポスター
- Hirano, D., Fukamachi, Y., Watanabe, E., Iwamoto, K., Mahoney, A., Eicken, H., Shimizu, D., Ohshima, K. I., Tamura, T., 2014年11月15日, A wind-driven, hybrid latent and sensible heat coastal polynya at Barrow, Alaska, AGU Fall Meeting 2014, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Hirawake, T., Futsuk, R., Shinmyo, K., Takao, S., Fujiwara, A., Suzuki, K., Isada, T., Nosaka, Y., Watanabe, Y., Saitoh, S.-I., 2014年10月26日-31日, Absorption-based primary production algorithm for the GCOM-C1/SGLI, Ocean Optics XXII, ポートランド・アメリカ, ポスター
- Hirawake, T., Futsuk, R., Shinmyo, K., Takao, S., Fujiwara, A., Suzuki, K., Isada, T., Nosaka, Y., Watanabe, Y., Saitoh, S.-I., 2014年7月28日-8月1日, Absorption-based primary production algorithm for the GCOM-C1/SGLI, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2014, 札幌, 口頭
- Hirawake, T., Yamashita, Y., Hirata, T., Fujiwara, A., Tanaka, K., Waga, H., Futsuki, R., Mizuno, Y., Teramoto, N., 2014年11月11日-12日, Comparison of techniques to measure CDOM absorption spectra, The 11th Japan-Korea Workshop on Ocean Color Remote Sensing, 韓国・仁川, 口頭
- Ito, M., Ohshima, K. I., Nishioka, J., Kusumoto, Y., Mizuta, G., Fukamachi, Y., 2015年2月16日-18日, Sediment upward dispersion and frazil ice formation by strong windy events in the Sea of Okhotsk observed with ADCP –A possible mechanism of iron supply to sea ice–, The 30th International Symposium on Okhotsk Sea & Sea Ice, 紋別, ポスター
- Kanna, N., Toyota, T., Nishioka, J., 2014年8月1日, Iron and macro-nutrient concentrations in sea ice and their impact on the nutritional status of surface waters in the southern Okhotsk Sea, Asia Oceania Geoscience Society 2014 Annual Meeting, 札幌, ポスター
- Kashiwase, H., Ohshima, K. I., Nihashi, S., 2014年11月2日, Effect of ice-ocean albedo feedback on summer retreat of Arctic sea ice cover, Hokkaido University-University of Bremen Joint Seminar "New Frontiers in Cryosphere Science: Biology, Glaciology and Oceanography", ドイツ・ブレーメン, 口頭
- Kitayama, A., Sugimoto, A., 2014年12月9日, Environmental variability analysis of Mongolian larch forest using tree-ring carbon isotope ratio, "Present Forestry, Agriculture and Husbandry conditions in Mongolia", 岩手, 口頭
- Kunwar, B., Kawamura, K., Pokhrel, A., 2014年7月28日-8月1日, Low molecular weight dicarboxylic acids, w-oxocarboxylic acids, pyruvic acid and α-dicarbonyls, and fatty acids in ambient aerosols from subtropical Okinawa, Japan: Seasonal variations at an outflow region of Asian dusts, 11th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society, 札幌, 口頭
- Matsuda, J., Mitsudera, H., Nakamura, T., Hasumi, H., Wakatsuchi, M., 2014年7月28日, Overturning circulation ventilating the intermediate layer of the Sea of Okhotsk and the North

Pacific: the role of salinity advection, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2014, 札幌, 口頭

Minowa, M., Sakakibara, D., Sugiyama, S., 2014年7月28日-8月1日, Seasonal variations in the terminus position and frontal ablation rate of Glacier Perito Moreno, a freshwater calving glacier in the Southern Patagonia Icefield, アジア・オセアニア地球物理連合大会, 札幌, ポスター

Minowa, M., Sakakibara, D., Sugiyama, S., Skvaraca, P., 2014年12月15日-19日, Seasonal variations in the terminus position and frontal ablation rate of Glacier Perito Moreno, a freshwater calving glacier in the Southern Patagonia Icefield, 全米地球物理連合大会, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター

Morozumi, T., Bragin, I., Shingubara, R., Takano, S., Tei, S., Maximov, T. C., Sugimoto, A., 2014年11月10日-12日, Vegetation mapping for estimation of regional CH₅ emission for Taiga-Tundra boundary in east Siberia, 8th annual international symposium on “C/H₂O/Energy balance and climate over boreal and arctic regions with special emphasis on Eurasia”, オランダ・エデ・ワーゲニングセン, 口頭

Morozumi, T., Bragin, I., Shingubara, R., Takano, S., Tei, S., Maximov, T. C., Sugimoto, A., 2014年11月12日-14日, Vegetation mapping for estimation of regional CH₄ emission for Taiga-Tundra boundary in east Siberia, PAGE21 General Assembly 2014, オランダ・トウエンテ, ポスター

Morozumi, T., Bragin, I., Shingubara, R., Takano, S., Tei, S., Maximov, T. C., Sugimoto, A., 2014年8月5日-8日, Vegetation mapping for estimating greenhouse gases emission, 4th international conference “The role of permafrost ecosystems in a changing climate”, ロシア・ヤクーツク, 口頭

Mozammal, H. M. Md., Kawamura, K., Seki, O., 2014年8月28日-9月2日, Spatial distributions of dicarboxylic acids, ketoacids and α-dicarbonyls in the marine aerosols from the North Pacific, 2014 Internatioanl Aerosol Conference, 韓国・釜山, ポスター

Divyavani, Kawamura, K., 2014年7月28日-8月1日, Identification of keto- and hydroxy-dicarboxylic acids using Gas Chromatography - Mass Spectrometry, 11th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society, 札幌, ポスター

Divyavani, Kawamura, K., 2014年8月28日-9月2日, Identification of keto- and hydroxy-dicarboxylic acids using Gas Chromatography - Mass Spectrometry, 2014 Internatioanl Aerosol Conference, 韓国・釜山, ポスター

Nakai, Y., Irino, T., Yamamoto, M., Miyazaki, Y., Kawamura, K., Yamada, K., Yonenobu, H., 2014年7月31日, Variation of Very Fine Grained Elemental Carbon Deposition to the Rebun Island, Hokkaido, During the Last 5 Ky, 11th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society (AOGS), 札幌, ポスター

Nakamura, S., Endo, H., Sugie, K., Saito, H., Suzuki, K., 2014年7月28日-8月1日, Characteristics of picocyanobacteria Synechococcus phylotypes in the North Pacific and its adjacent waters, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2014, 札幌, ポスター

Ohshima, K. I., Fukamachi, Y., Williams, G. D., Nihashi, S., Tamura, T., Kitade, Y., Hirano, D., Aoki, S., Wakatsuchi, M., 2014年8月1日, Antarctic Bottom Water production from intense sea-ice formation in the Cape Darnley Polynya, 11th Annual Meeting, Asia Oceania Geosciences Society, 札幌, 口頭

Oyabu, I., Iizuka, Y., Fukui, M., Hansson, M., 2014年12月1日, Chemical compositions of past soluble aerosols over a glacial-interglacial cycle reconstructed from Greenland NEEM ice core, Hokkaido University – University of Bremen Joint Seminar, ドイツ・ブレーメン, 口頭

Oyabu, I., Iizuka, Y., Fukui, M., Hansson, M., 2014年4月24日-25日, Chemical compositions of non-volatile particles in NEEM ice core over the last 120,000 years, NEEM Symposium 2014, デンマーク・コペンハーゲン, 口頭

Pokhrel A., Kawamura K., Seki O., Matoba S., Shiraiwa, T., 2015年1月4日-8日, Ice core records of dicarboxylic acids, w-oxocarboxylic acids, pyruvic acid and α-dicarbonyls from south Alaska: Implications for climate change in the Northern Hemisphere since 1734–2008, 95th Americal Meteorogical Society Annual Meeting/17th Conference of Atmospheric Chemistry, アメリカ・フェニックス, ポスター

Pokhrel A., Kawamura K., Seki O., Shiraiwa T., Matoba, S., 2015年1月4日-8日, Ice core climate signals recorded in dicarboxylic acids, ketocarboxylic acids and α-dicarbonyls in the Kamchatka-Peninsula (1500–1997) and short chain low molecular weight fatty acids from the

- Alaskan Aurora Peak (1734–2008), 95th Americal Meteorological Society Annual Meeting/17th Conference of Atmospheric Chemistry, アメリカ・フェニックス, ポスター
- Pokhrel, A., Kawamura, K., Seki, O., Matoba, S., Shiraiwa, T., Kunwar, B., 2014年7月28日-8月1日, Ice Core Records of Saturated (C12 - C30) and Unsaturated (C18:1) Fatty Acids from Aurora Peak in Southern Alaska Since 1732: Implications for Climate Change in the Northern Hemisphere, 11th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society, 札幌, ポスター
- Sakakibara, D., Sugiyama, S., 2014年12月15日-19日, Ice-front variations and speed changes of calving glaciers in the Southern Patagonia Icefield from 1984 to 2011, 全米地球物理連合大会, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Saiki, R., Mitsudera, H., Manome, A., Toyota, T., Kimura, N., Ukita, J., 2014年8月1日, A formation mechanism of ice band by the interaction between sea-ice and internal wave, Asia Oceania Geoscience Society, 札幌, 口頭
- Saiki, R., Mitsudera, H., Manome, A., Toyota, T., Kimura, N., Ukita, J., Nakamura, T., 2015年2月17日, A mechanism of ice-band pattern formation due to resonant interaction between sea ice and internal waves, The 30th International Symposium on Okhotsk Sea & Sea Ice, 紋別, 口頭
- Sato, T., Kusahara, K., Greve, R., 2014年12月5日, 棚氷融解量変動による南極氷床変動, Fifth NIPR Symposium on Polar Science, 立川, 口頭
- Shunsuke, T., Sugimoto, A., Liang, M., Matsuura, Y., Osawa, A., Yonenobu, H., Maximov, T. C., 2014年11月10日-12日, Spatial and temporal patterns on tree-ring delta-13C and tree growth over the past 100 years in circum-Arctic ecosystems, 8th annual international symposium on “C/H₂O/Energy balance and climate over boreal and arctic regions with special emphasis on Eurasia”, オランダ・エデ・ワーゲニングセン, 口頭
- Shunsuke, T., Sugimoto, A., Liang, M., Matsuura, Y., Osawa, A., Yonenobu, H., Maximov, T. C., 2014年11月12日-14日, Spatial and temporal patterns on tree-ring delta-13C and tree growth over the past 100 years in circum-Arctic ecosystems, PAGE21 General Assembly 2014, オランダ・トゥエンテ, ポスター
- Shunsuke, T., Sugimoto, A., Liang, M., Matsuura, Y., Osawa, A., Yonenobu, H., Maximov, T. C., 2014年12月2日-5日, Spatial and temporal patterns on tree-ring delta-13C and tree growth over the past 100 years in circum-Arctic ecosystems, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- Sugimoto, A., Maximov, T., Liang, M., Tei, S., Shingubara, R., Iwahana, G., Takano, S., Morozumi, T., Bragin, I., Miyazaki, S., Murase, J., Suzuki, R., Pedrov, R., Starostin, E., 2014年11月10日-12日, Results on GRENE-TEA observations in taiga-tundra boundary ecosystem in eastern Siberia, 8th annual international symposium on “C/H₂O/Energy balance and climate over boreal and arctic regions with special emphasis on Eurasia”, オランダ・エデ・ワーゲニングセン, 口頭
- Sugiyama, S., Minowa, M., Sakakibara, D., Ohashi, Y., Skvarca, P., Sawagaki, T., Naito, N., 2014年5月26日-30日, Thermal structures of proglacial lakes in the southern Patagonia Icefield, 国際雪氷学会, フランス・シャモニ, 口頭
- Sugiyama, S., Tsutaki, S., Sakakibara, D., Saito, J., Katayama, N., Sawagaki, T., Funk, M., Bauder, A., 2014年12月2日-5日, Dynamics of Bowdoin Glacier, a marine-terminating outlet glacier in northwestern Greenland, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- Takao, S., Iida, T., Isada, T., Saitoh, S.-I., Hirata, T., Suzuki, K., 2014年7月28日-8月1日, Bio-optical properties during the summer season in the Sea of Okhotsk, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2014, 札幌, 口頭
- Toyota, T., Kimura, N., 2014年10月15日, On the validity of Hibler's sea ice rheology for the seasonal sea ice, The Climate Symposium 2014, ドイツ・ダルムシュタット, ポスター
- Toyota, T., Massom, R., Lecomte, O., Nomura, D., Tamura, T., 2014年12月2日, What caused the significant snow depth observed off east Antarctica in late winter 2012?, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- Tyagi, P., Kawamura, K., 2014年7月28日-8月1日, Determination of Beta-hydroxy Fatty Acids as Biomarkers of Gram-negative Bacteria in Aerosol by Gas Chromatography-mass Spectrometry, 11th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society, 札幌, 口頭
- Wang, K., Tada, R., Irino, T., Zheng, H., Sugisaki, S., Saito, K., Kuboki, Y., 2014年4月30日, Provenance changes of Yangtze Delta core sediments and their implications for precipitation changes during the Holocene, 日本地球惑星科学連合 2014年大会, 横浜, 口頭

- Wang, K., Tada, R., Irino, T., Zheng, H., Sugisaki, S., Saito, K., Kuboki, Y., 2014年7月30日, Provenance changes of the Yangtze Delta core sediments and their implications for precipitation changes in the Yangtze River drainage during the Holocene, 11th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society (AOGS), 札幌, 口頭
- Yamamoto, M., Kuwae, M., Abe, M., Ichikawa, N., Moriya, K., Yoshimori, M., Abe-Ouchi, A., Takemurae, K., Ikebara, K., Kobashi, T., 2014年7月28日, Reconstruction of the Pacific Decadal Oscillation during the last 2900 years, Asia Oceanica Geoscience Society 2014, 札幌, 口頭
- Yamamoto, M., Ohira, F., Yamashita, Y., Nam, S. I., 2014年4月24日, Fate of GDGTs in the marine water column, GDGT 2014 workshop, オランダ・テサル, 口頭
- Zhang, W., Ebuchi, N., 2014年12月10日, Drift Ice Detection by HF radar off Mombetsu, 研究集会「海洋レーダーを用いた海況監視システムの開発と応用」, 春日, 口頭
- Zhang, W., Ebuchi, N., Emery, B., Abe, H., 2015年2月17日, Drift ice detection by HF ocean radar off Mombetsu, The 30th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice, 紋別, 口頭
- Zhang, W., Ebuchi, N., Emery, B., Abe, H., 2015年3月22日, HF ocean radar applied in drift ice remote sensing, 日本海洋学会, 東京, 口頭
- Zhang, W., Ebuchi, N., Fukamachi, Y., Yoshikawa, Y., 2014年4月2日, Estimation of wind drift current in the Soya Strait, The second Ocean Radar Conference for Asia-Pacific, 台湾・高雄, 口頭
- Zhang, W., Ebuchi, N., Fukamachi, Y., Yoshikawa, Y., 2014年8月1日, Estimation of wind drift current in the Soya Strait, AOGS 2014, 札幌, 口頭
- Zhang, W., Ebuchi, N., Fukamachi, Y., Yoshikawa, Y., 2014年9月14日, Estimation of wind drift current in the Soya Strait (II), 日本海洋学会, 長崎, 口頭
- 伊藤優人, 大島慶一郎, 西岡純, 楠本仁美, 水田元太, 深町康, 2015年3月24日, 強風イベントによる海底堆積物の上方輸送とフラジルアイス生成・海氷への鉄供給メカニズム-, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 井上貴央, 柴田英昭, 角皆潤, 中川書子, 福澤加里部, 山下洋平, 吉田俊哉, 2015年3月26日-29日, 植生の違いが表層土壤浸透水中の溶存窒素濃度に及ぼす影響, 第126回日本森林学会, 札幌, ポスター
遠藤寿, 鈴木光次, 杉江恒二, 芳村毅, 2015年3月22日-24日, 二酸化炭素分圧の変化が春季親潮域における珪藻 rbcL 遺伝子の発現と系統組成に与える影響, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 横畠徳太, 仁科一哉, 木口雅司, 井芹慶彦, 末吉哲雄, 吉森正和, 山本彬友, 本田靖, 花崎直太, 伊藤昭彦, 真崎良光, 重光雅仁, 飯泉仁之直, 櫻井玄, 岩瀬健太, 高橋潔, 江守正多, 沖大幹, 2014年5月2日, 気候変化によって生じるリスク連鎖の評価, 日本地球惑星科学連合大会, 横浜, 口頭
- 加藤義仁, 草原和弥, 松村義正, 2014年9月20日, Pine Island Glacier における活発な底面融解に関する数値モデリング, 2014年度雪氷学会雪氷研究大会, 八戸, 口頭
- 漢那直也, 西岡純, 豊田威信, 村山愛子, 武居信行, 2015年3月24日, オホーツク海の表層鉄濃度を高める海水融解プロセス, 日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 丸山未妃呂, 津滝俊, 榊原大貴, 澤祐教伸, 杉山慎, 2014年5月9日-10日, 現地観測データに基づいたカナック氷帽の変動解析, 日本雪氷学会 北海道支部 研究発表会, 札幌, 口頭*
- 丸山未妃呂, 津滝俊, 杉山慎, 澤祐教伸, 榊原大貴, 2014年9月20日-23日, グリーンランド北西部カナック氷帽における質量収支・流動速度・表面高度変化の観測, 日本国雪氷学会全国大会, 八戸, 口頭*
- 丸山未妃呂, 津滝俊, 杉山慎, 澤祐教伸, 榊原大貴, 斎藤潤, 片山直紀, 藤田耕史, 青木輝夫, 2014年12月2日-5日, グリーンランド北西部カナック氷帽における流動速度・質量収支・表面高度変化の観測, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- 吉川久幸, 遠嶋康徳, 朱春茂, 入野智久, 2014年12月5日, 北海道利尻島で観測された大気中の Black Carbon 質量濃度について, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, 口頭
- 吉野勇太, 鈴木光次, 野坂裕一, 平譯享, 2015年3月22日-24日, 夏季のベーリング海およびチャクチ海表層における新生産とそれに寄与する植物プランクトングループの同定, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 後藤周史, 多田雄哉, 鈴木光次, 山下洋平, 2015年3月22日-24日, 海洋細菌単離株による溶存有機物の生成に関する研究, 日本海洋学会 2015年度春季大会, 東京, 口頭
- 幸田笙佳, 豊田威信, 2014年9月16日, 室内実験における粒状海氷の生成過程について, 日本海洋学会秋季大会, 長崎, 口頭
- 榊原大貴, 杉山慎, 2014年12月2日-5日, グリーンランド北西部 Prudhoe Land 沿岸における溢流水河の末端変動と流動変化, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

- 榎原大貴, 杉山慎, 2014年9月20日-23日, グリーンランド北西部 Prudhoe Land 沿岸における溢流氷河の末端変動と流動変化, 日本雪氷学会 雪氷研究大会, 八戸, ポスター
- 榎原大貴, 箕輪昌紘, 杉山慎, 澤柿教伸, 内藤望, ペドロスクヴァルカ, 2014年9月20日, 南パタゴニア氷原ウプサラ氷河の後退および流動加速に底面地形が与える影響, 雪氷研究大会2014, 八戸, 口頭*
- 三村慧, 長谷部文雄, 2015年1月20日, ATTREX 観測データを用いた TTL 内の氷晶形成過程についての研究, 日本気象学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭
- 山本正伸, 加三千宣, 守屋和佳, 安部雅人, 市川記央, 吉森正和, 阿部彩子, 竹村恵二, 池原研, 小端拓郎, 2014年9月6日, 別府湾堆積物コアの古水温 解析にもとづく過去2900年間の太平洋十年規模変動の復元, 第四紀学会シンポジウム「東アジア～北西太平洋域における第四紀の気候と環境変動」, 柏, 口頭
- 山本正伸, 大平深史, 山下洋平, 2014年11月7日, 海洋水柱懸濁粒子中のインタクト GDGT : TEX86 は何を示しているのか, 第32回日本有機地球化学シンポジウム, 湯河原, 口頭
- 山本正伸, 南承一, Polyak, L., 小林大祐, 入野智久, 島田浩二, 2015年3月25日, 完新世の西部北極海, 極地研研究集会「北極における過去の気候・環境変動」, 立川, 口頭
- 守家衣利加, 深町康, 清水大輔, 大島慶一郎, 高塚徹, 岩本勉之, Mahoney, A. R., Jones, J., Eicken, H., 2014年12月5日, チャクチ海アラスカバロー沖における海氷厚の係留観測, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- 守家衣利加, 深町康, 清水大輔, 大島慶一郎, 高塚徹, 岩本勉之, Mahoney, A. R., Jones, J., Eicken, H., 2015年3月23日, 係留観測による北極チャクチ海沿岸域の海氷厚に関する研究, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 小西慶, 川島正行, 西川将典, 藤吉康志, 2015年1月20日, 2013年8月27日の苔小牧における局地的大雨の研究, 日本気象学会北海道支部研究発表会支部研究発表会, 札幌, 口頭
- 小林慈英, 久保川厚, 2015年3月24日, 1.5層B平面モデルにおける閉じた領域での渦の軌道, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, ポスター
- 新宮原諒, 杉本敦子, 鄭峻介, 両角友喜, 鷹野真也, 村瀬潤, 宮崎真, Trofim, C. M., 2014年12月5日, 東シベリアタイガ-ツンドラ境界域におけるメタン放出フラックスおよび土壤呼吸の時間変動, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- 新宮原諒, 杉本敦子, 両角友喜, 鄭峻介, 鷹野真也, Trofim, C. M., 2014年10月21日, 東シベリアタイガ-ツンドラ境界域におけるメタン放出フラックスの観測, 極域・寒冷域研究連絡会(日本気象学会秋季大会), 福岡, 口頭
- 新宮原諒, 田辺真一, 鷹野真也, Bragin, I. V., 村瀬潤, 鄭峻介, Maximov, T. C., 杉本敦子, 2014年4月30日, 北東シベリアインディギルカ川低地における土壤有機炭素の無機化速度, 日本地球惑星科学連合連合大会, 横浜, ポスター
- 森文洋, 下山宏, 渡辺力, 2015年3月19日, PIV 観測による地表面近傍における乱流構造の検討, 日本農業気象学会2015年全国大会, つくば, 口頭
- 杉山慎, 箕輪昌紘, 榎原大貴, 大橋良彦, スクヴァルカペドロ, 澤柿教伸, 内藤望, 知北和久, 2014年9月20日-23日, 南パタゴニア氷原におけるカービング氷河前縁湖の水温構造, 日本雪氷学会全国大会, 八戸, 口頭*
- 杉山慎, 澤柿教伸, 津滝俊, 榎原大貴, 丸山未妃呂, 2014年5月9日-10日, グリーンランド北西部における氷床・氷帽・カービング氷河の変動調査, 日本雪氷学会 北海道支部 研究発表会, 札幌, 口頭
- 杉本風子, 大島慶一郎, 田村岳史, 宇都正太郎, 下田春人, 清水大輔, 館山一孝, 星野聖太, 深町康, 尾関俊浩, 牛尾収輝, 2015年3月22日, リュツオ・ホルム湾定着氷域での海氷厚の分布と変動, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, ポスター
- 瀬崎歩美, 藤原正智, 2014年12月15日-16日, 過去100年間の台風とその背景場の解析, 2014年度台風セミナー, 東京, 口頭
- 青木茂, 田村岳史, 2014年9月9日, 海洋-海水-氷床システムの相互作用と変動, 第5回南極観測シンポジウム, 立川, 口頭
- 青木茂, 田村岳史, 2015年3月21日, 南極沿岸海洋における日本の物理観測の近未来, 2015年度海洋学会春季大会, 東京, 口頭
- 斎藤潤, 津滝俊, 澤柿教伸, 杉山慎, 2014年12月2日-5日, グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- 斎藤潤, 津滝俊, 澤柿教伸, 杉山慎, 2014年5月9日-10日, グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化, 日本雪氷学会 北海道支部 研究発表会, 札幌, 口頭*

斎藤潤, 津滝俊, 澤柿教伸, 杉山慎, 2014年9月20日-23日, グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化, 日本雪氷学会全国大会, 八戸, 口頭*

草原和弥, 羽角博康, Fraser., D. A., 田村岳史, 青木茂, 2014年12月2日, 東ウィルクスランド沖の雪氷-海洋相互作用に関する数値モデリング, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, 口頭

大橋良彦, 飯田高大, 杉山慎, 2014年12月2日-5日, グリーンランド北西部沿岸における高濁度海域の時空間変動, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

大橋良彦, 飯田高大, 杉山慎, 2014年5月9日-10日, グリーンランド氷床沿岸の海洋環境変動, 日本雪氷学会 北海道支部 研究発表会, 札幌, 口頭

大橋良彦, 飯田高大, 杉山慎, 2014年9月20日-23日, グリーンランド北西部沿岸における SST, Chl-a濃度, 海水密接度, Rrs555, 日本雪氷学会全国大会, 八戸, 口頭

大島慶一郎, 深町康, Williams, G. D., 二橋創平, 田村岳史, 北出裕二郎, 平野大輔, 青木茂, 若土正暁, 2014年5月2日, 第4の南極底層水:ケープダンレー底層水, 日本地球惑星科学連合 2014年大会, 横浜, 口頭

大畑有, 白岩孝行, 豊田威信, 2014年12月2日, 網走湖における湖氷形成過程と氷厚推移, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

大畑有, 白岩孝行, 豊田威信, 2014年9月21日, 網走湖における氷厚推移 湖水熱フラックスの推定, 雪氷研究大会, 八戸, ポスター

谷平洋介, 2014年12月7日, 水温フロントが雲の形成に与える影響及び放射を介した海洋へのフィードバック, 2014年大気海洋相互作用に関する研究会, 京都, 口頭

谷平洋介, 谷本陽一, 2015年3月5日-6日, 水温フロントが雲の形成に与える影響及び放射を介した海洋へのフィードバック, 2014年度新学術領域「中緯度海洋と気候」全体会議, 東京, ポスター

谷平洋介, 谷本陽一, 山田恭平, 早坂忠裕, 小橋史明, 2015年3月23日, 水温フロントが雲の形成に与える影響及び放射を介した海洋へのフィードバック, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭

池川慎二, 堀之内武, 2014年5月1日, 金星雲頂における風速の推定 – 続報 – , 日本地球惑星科学連合 2014年大会, 横浜, 口頭

中井淑恵, 入野智久, 山本正伸, 宮崎雄三, 河村公隆, 山田和芳, 米延仁志, 2014年4月28日, 北海道礼文島における過去5000年間の極細粒元素状炭素堆積量の変動, 日本地球惑星科学連合 2014年大会, 横浜, 口頭

中田和輝, 松村義正, 大島慶一郎, 2015年3月22日, フラジルアイス粒子追跡モデルのポリニヤモデルへの応用, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, ポスター

中野渡拓也, 吉成浩志, 内本圭亮, 松田淳二, 三寺史夫, 中村知裕, 西岡純, 津旨大輔, 三角和弘, 羽角博康, 若土正暁, 2014年9月16日, 北太平洋物質循環モデルの結合~鉄・栄養塩実験~, 2014年度日本海洋学会 秋季大会, 長崎, 口頭

長谷部文雄, 稲飯洋一, 柴田隆, 林政彦, 塩谷雅人, 西憲敬, 藤原正智, 宮崎和幸, 萩野慎也, 鈴木順子, 清水健作, 杉立卓治, 三村慧, 高島久洋, 澤田岳彦, 2014年11月6日, 热帶対流圏界層における力学・化学過程の解明 -2014年 Biak 観測-, 2014 大気球シンポジウム, 相模原, 口頭

的場澄人, 本山秀明, 藤田耕史, 山崎哲秀, 大沼友貴彦, 箕輪昌紘, 小室悠紀, 門田萌, 山口悟, 青木輝夫, 2014年12月2日, グリーンランド北西氷床 (SIGMA-D) アイスコアの解析速報, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, 口頭

田村岳史, 大島慶一郎, Lieser, J. L., 豊田威信, 館山一孝, 野村大樹, 中田和輝, Fraser, A. D., Jansen, P. W., Newberry, K. B., Massom, R. A., 牛尾収輝, 2014年4月29日, 南極海とオホーツク海におけるヘリ搭載型マイクロ波放射計による観測, 日本地球惑星科学連合 2014年大会, 横浜, 口頭

田中和樹, 久万健志, 浜崎恒二, 山下洋平, 2014年4月28日-5月2日, 日本海内部における腐植様蛍光物質の蓄積, 日本地球惑星科学連合 2014年度連合大会, 横浜, ポスター

唐木達郎, 三寺史夫, 2014年9月16日, 海底混合層に着目した宗谷暖流の傾圧構造について, 2014年度日本海洋学会秋季大会, 長崎, ポスター

唐木達郎, 三寺史夫, 黒田寛, 2015年3月22日, 流下方向に変化する夏季の宗谷暖流の構造と Buoyancy Arrest, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭

藤原正智, 日比野敬司, Mehta, S. K., Gray, L., Mitchell, D., Anstey J., 2014年4月30日, 9種の再解析データにおける大規模火山噴火に対する全球気候応答, 日本地球惑星科学連合 2014年大会, 横浜, 口頭

入野智久, 王可, 斎藤京太, 多田隆治, 鈴木克明, 久保木結, 杉崎彩子, Zheng, H., 2014年4月30日, YD13-G2 堆積物コアの自然ガンマ線スペクトルから見た最近の揚子江デルタの堆積環境, 日本地球惑星科学連合 2014年大会, 横浜, 口頭

入野智久, 中井淑恵, 山本正伸, 宮崎雄三, 河村公隆, 山田和芳, 米延仁志, 2014年9月18日, 礼文島久種湖堆積物中の極細粒元素状炭素量の過去3千年間の時代変化, 2014年度日本地球化学会第61回年会, 富山, ポスター

納口泰輔, 三村慧, 長谷部文雄, 2014年10月23日, 2000年-2001年に観測された成層圏水蒸気減少に関する考察, 日本気象学会2014年秋季大会, 福岡, ポスター

納口泰輔, 長谷部文雄, 2015年1月20日, 2000年-2001年に観測された成層圏水蒸気減少に関する考察, 日本気象学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭

柏瀬陽彦, 大島慶一郎, 二橋創平, 2014年12月5日, 夏季北極海における海氷・海洋アルベドフィードバック効果に関する研究, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

柏瀬陽彦, 大島慶一郎, 二橋創平, 2015年3月23日, 夏季北極海における海氷・海洋アルベドフィードバック効果, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭

平野大輔, 深町康, 渡邊英嗣, 岩本勉之, Mahoney, A., Eicken, H., 清水大輔, 大島慶一郎, 田村岳史, 2014年12月5日, ア拉斯カ沖バロー沿岸ポリニヤの特徴, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

平野大輔, 深町康, 渡邊英嗣, 岩本勉之, Mahoney, A., Eicken, H., 清水大輔, 大島慶一郎, 田村岳史, 2014年9月16日, ア拉斯カ沖バロー沿岸ポリニヤの特徴(I), 2014年度日本海洋学会秋季大会, 長崎, 口頭

平野大輔, 深町康, 渡邊英嗣, 岩本勉之, Mahoney, A., Eicken, H., 清水大輔, 大島慶一郎, 田村岳史, 2015年3月22日, ア拉斯カ沖バロー沿岸ポリニヤの特徴(II), 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭

豊田威信, Massom, R., Lecomte, O., 野村大樹, 田村岳史, 2015年3月22日, 2012年晚冬季に東南極域海氷上で観測された異常積雪深の要因について, 日本海洋学会春季大会, 東京, ポスター

豊田威信, 田村岳史, 2014年12月19日, 航空機を用いた海氷観測の紹介, 「航空機観測による大気科学・気候システム研究」研究集会, 東京, 口頭

北出裕二郎, 嶋田啓資, 白井優, 青木茂, 深町康, 田村岳史, 牛尾収輝, 大島慶一郎, 2015年3月23日, ピンセネス湾沖における南極底層水の特性, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭

北出裕二郎, 嶋田啓資, 白井優, 青木茂, 田村岳史, 深町康, 牛尾収輝, 大島慶一郎, 2014年12月2日, ピンセネス湾沖南極底層水の特性, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, 口頭

箕輪昌紘, 杉山慎, スクヴァルカペドロ, 柳原大貴, 大橋良彦, 澤祐教伸, 内藤望, 2014年9月20日-23日, 南パタゴニア氷原ペリート・モレノ氷河における末端変動メカニズムの解明, 日本雪氷学会雪氷研究大会, 八戸, 口頭*

林歩夢, 堀之内武, 2014年10月23日, 夏季の東アジア・北西太平洋上の降水と水輸送の総観的な変動に対する上部対流圏の影響, 日本気象学会, 福岡, 口頭

鈴木健太, 山本正伸, 入野智久, 朴惟賢, 南承一, 2015年3月25日, 最終氷期以降の西部北極海の堆積物運搬変遷史, 極地研研究集会「北極における過去の気候・環境変動」, 立川, 口頭

鈴木健太, 朴惟賢, 山本正伸, 南承一, 2014年11月7日, 北極海堆積物コア中のGDGT組成変動: 7万年前以降の堆積物運搬変遷史の復元., 第32回有機地球科学シンポジウム., 湯河原, 口頭

對馬あかね, 的場澄人, 白岩孝行, 2014年9月22日, アイスコアを用いたアラスカの近年の気候変動復元, 雪氷研究大会, 八戸, 口頭

両角友喜, Bragin, I., 新宮原諒, 鷹野真也, Tei, S., Maximov, T. C., 杉本敦子, 2014年12月2日-5日, 東シベリアタイガ-ツンドラ境界の物質循環研究のための植生分布図, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

両角友喜, Bragin, I., Starostin, E., 新宮原諒, Tei, S., 鷹野真也, Maximov, T. C., 杉本敦子, 2014年4月28日-5月2日, 東シベリアタイガ-ツンドラ境界の植生リモートセンシングと地上観測, 日本地球惑星科学連合大会, 横浜, ポスター

両角友喜, Liang, M., 新宮原諒, 鷹野真也, Tei, S., Maximov, T. C., 杉本敦子, 2014年9月10日-13日, 北東シベリア北極圏における湿地生態系の水分環境と窒素動態, 日本陸水学会大会, つくば, 口頭

生物圏科学専攻

Aguilos, M., Takagi, K., Liang, N., Fukuzawa, K., Nomura, M., Fujinuma, Y., Murayama, T., Saigusa, N., Sasa, K., 2014年8月21日, Dynamics of ecosystem carbon balance recovering from clearcutting in a cool-temperate forest, 12th AsiaFlux Workshop, フィリピン・ロスバニヨス, 口頭

- Aibara, I., Hirai, T., Miwa, K., 2014 年 9 月 9 日-11 日, Boron-dependent translation of a boron transporter is regulated by upstream open reading frames in 5'UTR, 日本土壤肥料学会 2014 年度東京大会, 東京, 口頭
- Bin Haji Mohd Taha, AI., Ando, H., Perveen, Z., Yoshida, K., Sato, M., Tojo, M., Kogame, K., Nagamine, T., Okuyama, H., 2014 年 7 月 29 日, Identification of thraustochytrid strain 12B as a new species of *Aurantiochytrium*, XIVth International Congress of Bacteriology and Applied Microbiology, カナダ・モントリオール, ポスター
- Chen, GW., Ohtsuka, H., Yamada, T., 2015 年 3 月 25 日-27 日, Basic study on characteristics of *Elymus repens* and *Phalaris arundinacea* to establish a management for weed control in grassland., 日本草地学会, 南箕輪, ポスター
- Chen, L., Sumida, A., 2015 年 2 月 20 日, Patterns of branch growth and death in the crowns of Sakhalin Spruce, *Picea glehnii* (F.Schmidt) Mast., 日本生態学会北海道地区大会, 札幌, 口頭
- Chen, L., Sumida, A., 2015 年 3 月 28 日, Patterns of branch growth and death in the crowns of *Picea glehnii* (F.Schmidt) Mast., 第 126 回日本森林学会大会, 札幌, 口頭
- Chen, EY., Ueda, H., 2014 年 10 月 2 日, Biological studies on the dissolved free amino acids of the Ishikari River watershed as potential homing cues for adult chum salmon (*Oncorhynchus keta*), 日本味と匂学会第 48 回大会, Asian Symposium on Chemoreception, 静岡, 口頭
- Fan, M., Shibata, H., 2014 年 4 月 28 日, Spatial modelling of water, nitrogen and sediment for systematic conservation of multiple ecosystem services, 日本地球惑星科学連合大会 2014 年大会, 横浜, ポスター
- Fortes, M. D., Go, G. A., Pacienza, Jr. F., Blanco, A., Tamondong, A., Tanaka, Y., Honda, K., Nakaoka, M., Nakamura, Y., Uy, W. H., Leopardas, V., Pantallano, A., Campos, W. L., Lian, C., Nakajima, Y., Matsuki, Y., Kurokochi, H., Arriesgado, D., San-Diego-McGlone, M.L., Miyajima, T., Herrera, E., Nadaoka, K., Yamamoto, T., Tsuchiya, T., Tomoling, E. C. M., Sugimoto, A., Shinbo, T., 2015 年 1 月 29 日, The seagrass factor in CECAM: Scaling-up MPA or ICRM initiatives in the Philippines, 2nd Asia-Pacific Regional Symposium on Coastal Ecosystem Conservation and Adaptive Management, フィリピン・ケソン, 口頭
- Fukano, T., Gomi, M., Osaki, Y., Morikawa, M., 2014 年 9 月 10 日-12 日, The molecular mechanisms of multi-species biofilm formation in urine conditions, IWA conference -The Perfect Slime-Nature, Properties, Regulation and Dynamics of EPS, ドイツ・エッセン, ポスター
- Fukuma, K., Fujiwara, T., Miwa, K., 2014 年 10 月 7 日-10 日, A novel strategy to identify a gene to regulate nutrient requirement in plants, The 38th Naito Conference, Molecule-based biological systems, 札幌, 口頭, ポスター
- Fukuma, K., Fujiwara, T., Miwa, K., 2014 年 7 月 27 日-31 日, Identification of a novel gene to determine boron requirement for pectin, 5th International Conference on Plant Cell Wall Biology (PCWB2014), オーストラリア, ポスター
- Go, G. A., Fortes, M. D., San Diego-McGlone, M.L., Escobar, M.T., Nakaoka, M., Leopardas, V., Lopez, R., Uy, W. H., Bolisay, K., 2014 年 11 月 7 日, Structural responses of seagrasses along nutrient and turbidity gradients in a mariculture site in Bolinao, Pangasinan, The 11th International Seagrass Biology Workshop, 中国・三亜, ポスター
- Hashimoto, M., 2015 年 2 月 25 日, A possibility of the distribution of long-chain polyunsaturated fatty acid (LC-PUFA) in Gram-positive bacteria isolated from Antarctic samples, 平成 26 年度国立極地研究所学生発表会, 立川, ポスター
- Hashimoto, M., Horiuchi, A., Yoshida, K., Okuyama, H., Hanagata, H., Mizukami, M., Miyauchi, A., Orikasa, Y., 2014 年 9 月 9 日, Expression of docosahexaenoic acid synthesis genes using a *Brevibacillus* expression system, 第 66 回日本生物工学会大会, 札幌, ポスター
- Hashimoto, M., Nunome, H., Okuyama, H., de Carvalho, CCR., Hanagata, H., Mizukami, M., Miyauchi, A., Sato, M., Imura, S., Watanabe, K., Yoshida, K., 2014 年 12 月 3 日, Are long-chain polyunsaturated fatty acids distributed in Gram-positive bacteria?, The 5th Symposium on Polar Science, Tokyo, Japan, 立川, ポスター
- Hashimoto, M., Okuyama, H., Yoshida, K., Orikasa, Y., 2014 年 7 月 30 日, Biosynthesis of unusually long chain fatty acids by uncontrolled expression of *pfa* genes responsible for biosynthesis of docosahexaenoic acid in *Escherichia coli* recombinants, XIVth International Congress of Bacteriology and Applied Microbiology, カナダ・モントリオール, ポスター
- Hashimoto, M., Orikasa, Y., Yoshida, K., Hayashi, H., Okuyama, H., 2014 年 12 月 3 日, Fatty acids of the extremely psychrophilic bacterium *Colwellia psychrerythraea* strain 34H, The 5th Symposium on Polar Science, Tokyo, Japan, 立川, 口頭

- Ishiyama, H., Ueno, H., Inatsu, M., Itoh, S., 2014年12月15日-19日, Global distribution of merger and split of oceanic mesoscale eddies, 2014 AGU Fall Meeting, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Ito, M., Nakaoka, M., 2015年3月19日, Effects of CO₂ enrichment on calcareous sessile epifauna on seagrass bed in Akkeshi-ko estuary, Hokkaido, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, 口頭
- Kao, W-Y., Tomiyasu, M., Abe, K., Minami, K., Miyashita, K., 2014年11月18日, Target strength measurement of hair tail (*Trichiurus lepturus*) using the controlled method, AFAS2014, 台湾・高雄, 口頭
- Kawai, T., Galanin, D., Tskhay, Z., Latokovskaya, E., Nagai, N., Yotsukura, N., 2014年5月31日, Relationship between occurrence of kelp species and water temperature in northern Hokkaido, Japan and southern Sakhalin, Russia, 日本応用藻類学会第13回大会, 東京, 口頭
- Kita, C., Minami, K., Tomiyasu, M., Miyashita, K., 2014年11月18日, Spatial and biomass estimations of *Sargassum horneri* during flourishing season in Yamada bay, Japan, AFAS2014, 台湾・高雄, 口頭
- Kumano, T., Araki, H., 2014年8月19日, Absorption of Potassium Accumulated in Soil by Chicory (*Cichorium intybus L.*), 第24回国際園芸学会議, オーストラリア・ブリスベン, 口頭
- Lee, J., Nakamura, M., Hiura, T., 2015年3月19日, The effects of N addition on the interaction between trees and herbivore insects, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, 口頭
- Leopardas, V., Nakaoka, M., Fortes, M. D., Uy, W. H., Go G. A., Bolisay, K. O., Pantallano, A. D., Lopez, R., Lerorato, J., Honda, K., Pacencia, Jr. F., 2014年6月17日, Variation of macrofauna in mariculture-impacted seagrass meadows of Bolinao, northwestern Philippines: Does patterns exist?, 2nd National Conference/Workshop of CECAM, フィリピン・ケソン, ポスター
- Leopardas, V., Nakaoka, M., Hori, M., Tanaka, Y., Mukai, H., Aoki, M., Sato, N., 2014年10月14日, Regional variation in benthic macrofaunal assemblages in seagrass beds of Japan, World Conference of Marine Biodiversity 2014, 中国・青島, 口頭
- Leopardas, V., Nakaoka, M., Uy, W. H., Fortes, M. D., Go, G. A., Pantallano, A. D., Bolisay, K. O., Lopez, R., Lerorato, J., Honda, K., Sarceda, M., Genovia, T.G., 2015年1月29日, Species variability decreases with pollution: A case of seagrass benthic macrofauna in Bolinao, northwestern Philippines, 2nd Asia-Pacific Regional Symposium on Coastal Ecosystem Conservation and Adaptive Management, フィリピン・ケソン, ポスター
- Mitani, Y., Mizuguchi, D., Otsuki, M., Iwahara, Y., Sekiguchi, K., 2014年10月29日-31日, Acoustic monitoring and visual survey of marine mammals in the Chukchi Sea and Barrow Canyon, 2nd DBO DATA WORKSHOP, アメリカ・シアトル, 口頭
- Miyakoshi, Y., Aoyama, T., Shinohara, A., Miyashita, K., 2015年2月16日, Migration and homing behavior of chum salmon tagged in the Okhotsk Sea, eastern Hokkaido, The 30th International Symposium On Okhotsk Sea & Sea Ice, 紋別, 口頭
- Momota, K., Kitamura, T., Hamaoka, H., Isada, T., Nakaoka, M., 2014年11月14日, Seasonal Change of Plant-animal interaction in eelgrass beds of Akkeshi, northern Japan, Western Society of Naturalists Annual Meeting 2014, アメリカ・タコマ,
- Nakaoka, M., Honda K., Sato, M., Yorisue, T., Nakamura, Y., Watai, M., Tanaka, Y., Nakajima, Y., Lian, C., Go, G. A., Bolisay, K. O., Leopardas, V., Pantallano, A., Uy, W. H., Malingin, M. A. C. L., Pepino, M. M., Campos, W. L., Nadaoka, K., Fortes M. D., 2014年4月24日, Responses of biological communities to various environmental stressors in tropical coastal ecosystem: A broad-scale comparative study of seagrass beds in the Philippines, WESTPAC 9th International Scientific Conference, ベトナム・ナトラン, 口頭
- Nakaoka, M., Tanaka, Y., Nakamura, Y., Honda, K., Yorisue, T., Sato, M., Leopardas, V., Campos, W. L., Uy, W. H., Go, G. A., Bolisay, K. O., Lerorato, R.L.J., Pacencia, Jr. F., Malingin, M. A. C. L., Pepino, M. C., Pantallano, A. D., Genovia, T.G., Baslot, D., Fortes, M. D., 2014年6月17日, Variation of biological communities along multiple environmental gradients of the Philippine coastal areas, 2nd National Conference/Workshop of CECAM, フィリピン・ケソン, 口頭
- Nishizawa, B., Yamamoto, T., Labunski, E., Kuletz, K., Meathrel, C., Phillips, RA., Iwahara, Y., Mitani, Y., Matsuno, K., Yamaguchi, A., Watanuki, Y., 2014年8月23日, Wintering hotspots of short-tailed shearwaters and their prey distributions in the Bering and Arctic Seas, The 26th International Ornithological Congress, 東京, 口頭
- Nomi, D., Yuta, T., Koizumi I., 2014年8月18日-24日, Differences in breeding ecology of Great Tits between Japanese and European populations, 26th International Ornithological Congress, 東京, ポスター

- Oe, M., Ueno, H., 2014年12月15日-19日, Interannual variability of intermediate-water circulation in the northern North Pacific, 2014 AGU Fall Meeting, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Ohta, N., Ueno H., Itoh M., Kikuchi, T., Mizobata, K., Watanabe, E., Nishino, S., 2014年12月15日-19日, Heat balance in the Chukchi Sea, 2014 AGU Fall Meeting, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Onodera, H., Utsumi, S., 2015年3月19日, The impact of genetic variation in adaptive traits on population dynamics of a leaf beetle: An experimental test in a tree canopy, 日本生態学会, 鹿児島, ポスター
- Saito, R., Yasuda, I., Komatsu, K., Ishiyama, H., Ueno, H., Onishi, H., Yamaguchi, A., Setou, T., Shimizu, M., 2014年10月16日-26日, Hydrography of an Aleutian eddy in the developing phase and the potential influence to lower trophic level ecosystems, North Pacific Marine Science Organization (PICES) 2014 Annual Meeting, 韓国・麗水, 口頭
- Sato, M., Honda, K., Baslot, D.I., Genovia, T. M., Pantallano, A. D. S., Uy, W. H., Nakamura, Y., Nakaoka, M., 2015年3月21日, Top down effects on the local abundance of two anemonefishes in a marine protected area at Laguindingan, the Philippines, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, ポスター
- Sato, M., Honda, K., Bernardo, L.P.C., Kurokochi, H., Bolisay, K. O., Nakamura, Y., Lian, C., Nadaoka, K., Fortes, M. D., Nakaoka, M., 2014年6月17日, Estimation of larval dispersal of two anemonefish species based on genetic analysis and larval dispersal model, 2nd National Conference/Workshop of CECAM, フィリピン・ケソン, ポスター
- Shao, H., Minami, K., Ohmura, T., Fujikawa, Y., Yotsukura, N., Nakaoka, M., Miyashita, K., 2014年11月18日-19日, Analysis accuracy of kelp forests thickness and spatial distribution by acoustic method, AFAS2014, 台湾・高雄, 口頭
- Sudo, K., Nakaoka, M., Jintsu-Uchifune, Y., Yamakita, T., Yamamoto, H., Shirayama, Y., 2014年11月7日, Quantitative evaluation of provisioning services from seagrass beds in Southeast Asian regions, The 11th International Seagrass Biology Workshop, 中国・三亜, ポスター
- Sugime, Y., Ogawa, K., Watanabe, D., Shimoji, H., Koshikawa, S., Miura, T., 2014年7月13日-18日, Presoldier Cuticle Contributes to the Morphogenesis in Termites, International Union for the Study of Social Insects (IUSSI 2014), オーストラリア・ケアンズ, 口頭
- Teranishi, T., Momota, K., Yorisue T., Bayne, C., Jaeger, J., Nakaoka, M., 2015年3月19日, The effect of seagrass morphological structure on predation rate of epifauna, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, ポスター
- Tomiyasu, M., Hamada, T., Hirose, T., Ogawa, M., Mitani, Y., Miyashita, K., 2014年10月16日, Swimming types selectivity of ribbonfish revealed by acceleration data-logger, The North Pacific Marine Science Organization (PICES) 2014 annual meeting, 韓国・麗水, ポスター
- Toyama, M., Asahi, K., Sakamoto, H., Koizumi, I., 2014年8月18日-24日, Do owls play a role as ecological engineer for insect communities in tree cavities?, 26th International Ornithological Congress, 東京, ポスター
- Uchida, K., Suzuki, K., Shimamoto, T., Yanagawa, H., Koizumi, I., 2015年3月18日-22日, Urbanization decreases seasonality in vigilance behavior: Flight responses of red squirrels to human disturbance, 日本生態学会第62回大会, 鹿児島, 口頭
- Ueno, H., Yasui K., 2014年12月15日-19日, Distribution and seasonal variation of halocline in the world ocean, 2014 AGU Fall Meeting, アメリカ・サンフランシスコ, ポスター
- Ueno, H., Yasui, K., 2014年10月16日-26日, Distribution and seasonal variation of halocline in the world ocean, North Pacific Marine Science Organization (PICES) 2014 Annual Meeting, 韓国・麗水, ポスター
- Utami, D., Sugawara, M., Miwa, K., Morikawa, M., 2014年9月9日-11日, The Effects of General Plant Growth-Promoting Compounds on the Growth of duckweed *Lemna minor*, 日本生物工学会大会2014年度大会, 札幌, ポスター
- Watanabe, M., Kojima, H., Fukui, M., 2014年7月28日, Characterization of a facultative anaerobic bacterium, representing novel class- or phylum-level taxon, International Union of Microbiological Societies Congresses 2014, カナダ・モントリオール, ポスター
- Watanabe, T., Kojima, H., Fukui, M., 2014年5月19日, Betaproteobacteria are major components of sulfur-oxidizing bacterial community in a stratified freshwater lake, Lake Mizugaki, Joint Aquatic Sciences Meeting 2014, アメリカ・ポートランド, ポスター
- Yamazaki, H., Yoshida, T., 2014年6月17日, The effect of scarification with leaving surface soil on

regeneration of *Betula Maximowicziana*, 9th IUFRO 1.05 Workshop of "uneven-aged silviculture", Future Concepts in Uneven-aged Silviculture for a Changing World, スイス・チューリッヒ, ポスター

Yanagawa, S., Fukuzawa, K., Shibata, H., 2014 年 9 月 9 日, Quantitative and morphological characteristics of fine roots in forests composed of different type of trees and *Sasa* dwarf bamboo in northern Japan, 6th International Symposium on Physiological Processes in Roots of Woody Plants, 名古屋, ポスター

Yorisue, T., Leopardas, V., Fortes, M. D., Uy, W. H., Go, G. A., Pantallano, A. D., Bolisay, K. O., Pacencia, Jr. F., Lopez, M.R., Lerriorato, J., Edralin, M., Watai, M., Honda, K., Nakaoka M., 2015 年 3 月 5 日, Seagrass community and benthic macrofaunal structures in Bolinao, northwestern Philippines: Implications for mariculture-induced pollution, Benthic Ecology Meeting 2015, カナダ・ケベックシティ, ポスター

Yotsukura, N., Maeda, T., Nakaoka, M., Kawai, T., 2014 年 9 月 21 日, Population genetic structure of *Saccharina japonica* in northern Japan, 7th Asian Pacific Phycological Forum, 中国・武漢, ポスター

Yuta, T., Nomi, D., Koizumi, I., 2014 年 8 月 18 日-24 日, Females insure against infertility of their mates: An empirical test of the fertility insurance hypothesis in a wild bird population, 26th International Ornithological Congress, 東京, 口頭

阿部博哉, 岸道郎, 2015 年 3 月 4 日-5 日, 亜寒帯汽水湖における生態系モデルの適用とその課題, 東大大海研共同利用研究集会「海洋生態系モデリングの最前線: 成果, 連携, 次世代への展開」, 柏, ポスター

阿部博哉, 門谷茂, 岸道郎, 2015 年 3 月 18 日-22 日, 生態系モデルを用いた統合的沿岸域管理手法の構築, 日本生態学会, 鹿児島, ポスター

阿部葉月, 吉田俊也, 2015 年 3 月 27 日, 北海道北部の天然生林における材の空洞の出現傾向, 第 126 回日本森林学会大会, 札幌, ポスター

阿部葉月, 吉田俊也, 奥田篤志, 2015 年 3 月 19 日, 北海道北部の森林域における自動撮影カメラを用いた哺乳類・鳥類の空間利用の把握, 第 62 回日本生態学会大会, 鹿児島, ポスター

安酸国起, 村上峻, 三輪京子, 森川正章, 2014 年 9 月 9 日-11 日, Flavobacteria 科細菌 *Elizabethkingia* sp. RL13212 株由来新規アゾ還元酵素の精製と特性解析, 日本生物工学会大会 2014 年度大会, 札幌, ポスター

安房田智司, 後藤智仁, 古屋康則, 武島弘彦, 山崎彩, 宗原弘幸, 2014 年 11 月 15 日, 佐渡が島産海産カジカ類の産卵場所としてのホヤ種・カイメン種選択, 日本魚類学会, 神奈川, 口頭

伊藤慶造, 高橋菜里, 服部薰, 後藤陽子, 中野渡拓也, 大島慶一郎, 三谷曜子, 宮下和士, 2014 年 10 月 10 日, トドの未成熟個体の夏期における移動と潜水行動, 第 10 回日本バイオロギング研究会シンポジウム, 函館, ポスター

井上貴央, 柴田英昭, 角皆潤, 中川書子, 福澤加里部, 山下洋平, 吉田俊也, 2015 年 3 月 28 日, 生の違いが表層土壤浸透水の溶存窒素動態に及ぼす影響, 第 126 回日本森林学会大会, 札幌, ポスター

磯部美優, 布目三夫, 鈴木仁, 2014 年 9 月 17 日, ハツカネズミ (*Mus musculus*) における 5S ribosomal DNA (5S rDNA) の進化動態, 日本遺伝学会第 86 回大会, 長浜, 口頭

稻田薰, 大久保隆, 上田宏, 2014 年 12 月 19 日, 海水中シロザケ親魚における GnRH アナログ投与による嗅覚応答への影響, 平成 26 年度日本水産学会北海道支部大会, 函館, 口頭

稻田薰, 大久保隆, 上田宏, 2015 年 3 月 28 日, 海水中シロザケ親魚における GnRH アナログ投与による嗅覚応答への影響, 平成 27 年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭

雨谷教弘, 工藤岳, 2015 年 3 月 18 日-22 日, ハイマツの光合成収率と伸長生長の環境応答, 日本生態学会大会, 鹿児島, ポスター

影本敬太, 菅原雅之, 尾島拓也, 三輪京子, 遠山忠, 森川正章, 2014 年 9 月 9 日-11 日, ウキクサ成長促進細菌 *Acinetobacter calcoaceticus* P23 の陸上植物への影響評価, 日本生物工学会大会 2014 年度大会, 札幌, ポスター

園木詩織, 盛田祐加, 遊佐貴志, 南憲吏, 千葉晋, 宮下和士, 2014 年 9 月 20 日, 音響計測手法を用いた北海道能取湖におけるアマモ場分布の季節変動の定量化, 平成 26 年度日本水産学会秋季大会, 福岡, 口頭

園木詩織, 盛田祐加, 遊佐貴志, 南憲吏, 千葉晋, 宮下和士, 2015 年 3 月 3 日, 音響計測手法を用いた北海道能取湖におけるアマモ場分布の季節変動の定量化, 平成 26 年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 函館, ポスター

加藤雄大, 漆畠亘, 三輪京子, 森川正章, 2014年9月9日-11日, 新規高度好熱菌 *Coprothermobacter* sp. PM9-2とメタン生成菌の共生に関する分子機構の解析, 日本生物工学会大会 2014年度大会, 札幌, ポスター

花崎香織里, 鈴木祐太郎, 木下豪太, 鈴木仁, 友澤森彦, 土屋公幸, 2014年9月4日-7日, 日本産アカネズミ属3種の自然史の解明, 日本哺乳類学会 2014年度大会, 京都, ポスター

丸岡侑太, 鵜沢孝夫, 宮下和士, 2015年3月3日, 新型魚体長魚群探知機の紹介, 平成26年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 函館, 口頭

岩原由佳, 宮下和士, 三谷曜子, 2014年11月30日, 北海道沿岸海域における小型鯨類3種の分布について, 2014年度勇魚会シンポジウム, 京都, 口頭

岩崎藍子, 深谷肇一, 野田隆史, 2015年3月19日, 放乱のインパクトの定量評価: 東北地方太平洋沖地震が岩礁潮間帯固着生物にもたらした影響, 第62回日本生態学会全国大会, 鹿児島, ポスター

岩崎藍子, 2015年3月19日, 東北地方太平洋沖地震における岩礁潮間帯固着生物への直後のインパクトとその後の変化, 第62回日本生態学会全国大会自由集会「東日本大震災の生態系影響評価と復興の展望2」, 鹿児島, 口頭

喜多千穂海, 南憲吏, 富安信, 宮下和士, 2015年3月3日, 岩手県山田湾におけるアカモクの空間的把握, 平成26年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 函館, ポスター

久保長晶, 長谷川雅俊, 小林憲一, 小平佳延, 丸岡侑太, 南憲吏, 津田裕一, 宮下和士, 2015年3月3日, 漁業用の魚群探知機を用いたカタクチイワシ (*Engraulis japonicus*) 仔魚の魚群量指標の標準化の検討, 平成26年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 函館, 口頭

久野香織, 佐野亮輔, 倉田哲也, 出村拓, 千葉美恵, 三輪京子, 2015年3月16日-18日, 低ホウ素耐性を示すシロイヌナズナナチュラルアクセッションの遺伝学的解析, 第56回日本植物生理学会年会, 東京, ポスター

宮腰靖之, 篠原陽, 2015年, 平成26年度の網走地区サケ・マス調査結果について, 平成25年度網走地区サケ・マス調査報告会, 網走, 口頭

宮腰靖之, 青山智哉, 篠原陽, 宮下和士, 2014年11月16日, 北海道オホーツク海沖で標識放流したサケの回遊行動, 2014年度水産海洋学会研究発表大会, 横浜, 口頭

金子賢介, 小林大毅, 鷺尾健司, 森川正章, 沖野龍文, 2015年3月28日, 紅藻ソゾ属3種のプロモペルオキシダーゼの活性評価, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭

金子賢介, 鷺尾健司, 小林大毅, 湯曉蓉, 梅澤大樹, 松田冬彦, 森川正章, 沖野龍文, 2014年10月15日-17日, *Laurencia* 属紅藻のプロモペルオキシダーゼ, 第56回天然有機化合物討論会, 高知, ポスター

金森由妃, 深谷肇一, 岩崎藍子, 野田隆史, 2014年10月10日-12日, 個体群成長率とプロセスの時空間変動性: 岩礁潮間帯の固着生物群集における推移行列モデルを用いた解析, 第30回個体群生態学会大会, つくば, ポスター

金森由妃, 深谷肇一, 岩崎藍子, 野田隆史, 2015年2月20日, 岩礁潮間帯における固着生物の群集プロセスと群集構造: 潮位による季節性の違い, 2014年度日本生態学会北海道地区会, 札幌, 口頭

金森由妃, 深谷肇一, 岩崎藍子, 野田隆史, 2015年3月19日, 岩礁潮間帯における固着生物の群集プロセスと群集構造: 潮位による季節性の違い, 第62回日本生態学会全国大会, 鹿児島, ポスター

熊谷七美, 大原雅, 若菜勇, 2015年3月19日, 北海道阿寒湖における球状マリモの大量打ち上げ現象を挟んだ集団構造の変化, 第62回日本生態学会, 鹿児島, ポスター

熊野貴宏, 荒木肇, 2015年3月29日, 根株栽培時のカリウム施用量がチコリ (*Cichorium intybus* L.) の生育と可食部の収量とミネラル含有率に与える影響, 平成27年度園芸学会春季大会, 千葉, ポスター

鍵谷進乃介, 内海俊介, 2014年10月11日, 共生する植物-バクテリアでみられる野外集団間による変異, 個体群生態学会, つくば, ポスター

鍵谷進乃介, 内海俊介, 2015年3月19日, 森林における昆虫群集の空間構造: 樹木の遺伝変異は重要か?, 日本生態学会, 鹿児島, ポスター

古川直大, 土田茂雄, 平間美信, 新居久也, 飯郷雅之, 上田宏, 2014年12月21日, シロザケ稚魚の母川記録に伴う脳-下垂体-甲状腺系の分子生物学的研究, 第8回サケ学研究会, 函館, 口頭

高宛渝, 富安信, 安部幸樹, 南憲吏, 宮下和士, 2015年3月3日, タチウオの音響学的研究②-制御法及び音響散乱モデルによるTS測定, 平成26年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 函館, ポスター

高津邦夫, 岸田治, 2014年10月11日-12日, サンショウウオの共食いがトップダウン効果に及ぼす影響は年変異する, 第30回個体群生態学会, つくば, ポスター

高津邦夫, 岸田治, 2015年3月21日, 共食いによるストイキオメトリーの二型化, 日本生態学会第62回全国大会, 鹿児島, 口頭

- 佐々木裕子, 松野孝平, 和賀久朋, 大額実咲, 山口篤, 上野洋路, 平譯享, 綿貫豊, 2014年12月2日-5日, チャクチ海における動物プランクトン密度の空間変化に影響を及ぼす海洋環境要因, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター
- 佐野稔, 坂東忠男, 板谷和彦, 邵花梅, 南憲吏, 宮下和士, 2015年3月30日, 宗谷岬周辺海域における海底景観の特徴～平成26年度に得られたプロジェクト成果と技術的課題～, 日本水産学会春季大会, 東京, ポスター
- 佐橋玄記, 森田健太郎, 2015年3月21日, 同所的に棲むヤマメとオショロコマの成熟サイズ:人為選択(ふ化放流)と自然選択(滙)の影響, 日本生態学会第62回全国大会, 鹿児島, ポスター
- 細川奈々枝, 渡辺恒大, 福澤加里部, 館野隆之輔, 柴田英昭, 2014年4月28日, 土壌の凍結融解が根リターンの変化を通して土壤の窒素動態におよぼす影響, 日本地球惑星科学連合大会2014年大会, 横浜, ポスター
- 三谷曜子, 阪口功喜, 小林万里, 中野江一郎, 2015年3月30日, ゼニガタアザラシ腸内容物のDNA分析による餌生物推定, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭
- 三澤桃, 欧巍, 山田敏也, 齊藤隆, 宇野裕之, 2015年3月18日-22日, エゾシカ個体群の遺伝的空間構造の境界は障壁によってつくられるのか、距離による隔離なのか?, 第62回日本生態学会, 鹿児島, ポスター
- 山口浩志, 後藤陽子, 宮下和士, 2014年9月21日, 北海道西部日本海海域におけるホッコクアカエビの資源変動, 日本水産学会秋季大会, 福岡, 口頭
- 山口浩志, 高嶋孝寛, 宮下和士, 2014年9月21日, ホッコクアカエビを対象とした資源保護区の効果, 日本水産学会秋季大会, 福岡, 口頭
- 山口彩, 岸田治, 2014年10月11日-12日, 大きなオタマがいるとき, 小さなオタマが捕食されやすいのはなぜか?, 第30回個体群生態学会, つくば, ポスター
- 山口彩, 岸田治, 2015年3月21日, 接触が食う-食われる関係を強める:大きなオタマがいると, 小さなオタマがたくさん食われる理由, 日本生態学会第62回全国大会, 鹿児島, ポスター
- 山崎彩, 花田祐一, 津田栄, 宗原弘幸, 2014年11月16日, 北太平洋および北極海に生息するカジカ科魚類の不凍タンパク質活性, 日本魚類学会, 神奈川, ポスター
- 山崎遙, 吉田俊也, 2015年3月19日, 表土が失われる土壤攪乱はウダイカンバの初期定着を妨げるか?, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, ポスター
- 山崎遙, 吉田俊也, 2015年3月27日, ウダイカンバの定着を目的とした更新補助作業の検討:北海道北部の天然生林における事例, 第126回日本森林学会大会, 札幌, 口頭
- 山川祐介, 菅原雅之, 三輪京子, 森川正章, 2015年3月26日-29日, 植物成長促進細菌のウキクサへの共付着とその効果, 日本農芸化学会2015年度岡山大会, 岡山, 口頭
- 山川祐介, 菅原雅之, 尾島拓也, 三輪京子, 森川正章, 2014年9月9日-11日, ウキクサに付着する能力の高い細菌の探索とその特性, 日本生物工学会大会2014年度大会, 札幌, ポスター
- 山田綾子, 堀本高矩, 石塚真由美, 池中良徳, 中山翔太, 三谷曜子, 宮下和士, 2015年3月30日, 日本海北部に来遊するキタオットセイの安定同位体比と利用海域との関係, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭
- 山田綾子, 2014年10月9日, キタオットセイにおける摂餌海域の利用履歴の推定, 第10回日本バイオロギング研究会 フィールド系海棲哺乳類研究 workshop, 函館, 口頭
- 山田敏也, 杉木学, 銭谷純平, 秋元佐紀, 石橋靖幸, 齊藤隆, 2015年3月18日-22日, エゾヤチネズミ個体群の遺伝的空間構造の年次変化—個体数変動パターンが異なる2個体群間の比較—, 第62回日本生態学会, 鹿児島, ポスター
- 山崎千登勢, 小泉逸郎, 2014年11月29日, 亂婚における雌の配偶者選択:ヤツメウナギ雄の造巣行動と雌の交配拒否に着目して, 第36回魚類系統研究会, 札幌, 口頭
- 山崎千登勢, 小泉逸郎, 2015年3月18日-22日, 亂婚における雌の配偶者選択:ヤツメウナギ雄の造巣行動と雌の交配拒否, 日本生態学会第62回大会, 鹿児島, ポスター
- 篠原義典, 山岸洋貴, 速水将人, 大原雅, 2015年3月19日, 着生位置が異なる2タイプの開放花をつけるイブキスミレの繁殖戦略, 第62回日本生態学会, 鹿児島, ポスター
- 篠原陽, 2014年, 北海道東部標津川におけるシロザケの河川進入を促す環境要因および河川遡上動態の解明, 標津町サケマス自然産卵調査協議会研修会, 標津, 口頭
- 篠原陽, 2015年, 網走近海におけるサクラマスの遊泳生態, 第31回網走市水産科学センターゼミナール, 網走, 口頭
- 篠原陽, 2015年1月24日, 北海道東部標津川におけるシロザケの河川進入を促す環境要因および河川遡上動態の解明, インカレねむろ・大学等研究プロジェクト2014研究発表大会, 別海, 口頭

篠原陽, 宮腰靖之, 青山智哉, 飯嶋亜内, 白川北斗, 宮下和士, 2014年10月10日, 海洋生活後期におけるサクラマスの長期・連続的な遊泳行動の初記録, 第10回日本バイオロギング研究会シンポジウム, 函館, ポスター

篠原陽, 宮腰靖之, 青山智哉, 飯嶋亜内, 白川北斗, 宮下和士, 2014年12月21日, サクラマスの海洋生活後期における遊泳行動の変移, 第8回サケ学研究会, 函館, 口頭

若林紘子, 齊藤隆, 2015年3月18日-22日, アカネズミとヒメネズミの配偶システム-マルチプルパタニティに着目して-, 第62回日本生態学会, 鹿児島, ポスター

宗原弘幸, 堀田海帆, 三宅翔太, 鈴木将太, 2014年12月19日, 半クローン生殖するアイナメ系雑種の起源と維持 -人為的環境改変との関わり?, 日本水産学会北海道支部会, 函館, 口頭

緒佐島瑛, 後藤寛貴, 三浦徹, 2015年3月18日-22日, パプアキンイロクワガタにおける雄特異的なカッター構造:形成過程と機能, 第62回日本生態学会全国大会, 鹿児島, ポスター

小野寺裕乃, 内海俊介, 2014年10月11日, ハムシの餌選好性はどの形質と遺伝的に相関するか, 個体群生態学会, つくば, ポスター

小野寺緑也, 秋元佑香, 島田卓哉, 齊藤隆, 2015年3月18日-22日, 同所的に生息する3種の野ネズミにおけるドングリ中のタンニンに対する耐性能力の比較, 第62回日本生態学会, 鹿児島, ポスター

小林加奈, 丹羽真清, 服部玄, 徳田尚美, 星野洋一郎, 2015年3月28日-29日, キイチゴ属野生種ウラジロエゾイチゴとラズベリー栽培品種との雑種個体の評価, 園芸学会 平成27年度春季大会, 千葉, ポスター

松本彩, Artem, S., 星野洋一郎, 2015年3月28日-29日, フローサイトメトリーとAFLPマーカーを用いたユーラシアのハスカップの系統解析, 園芸学会 平成27年度春季大会, 千葉, ポスター

照本昂之, 工藤勲, 宮園章, 品田晃良, 三好晃治, 2014年9月15日, オホーツク海北海道沿岸域における春季の基礎生産構造と沈降粒子フラックスの関係, 日本海洋学会, 長崎, 口頭

上野洋路, 男谷萌子, 大江光穂, 相田真希, 岸道郎, 帰山雅秀, 2014年11月14日-17日, 北太平洋におけるサケ属魚類成長因子の時空間変動, 2014年度水産海洋学会研究発表大会, 横浜, 口頭

新居久也, 中尾勝, 藤井真, 飯村幸代, 三坂尚行, 林田寿文, 高橋憲明, 島川良英, 田中智一朗, 上田宏, 2015年3月30日, 東北地方の高回帰性サクラマス創出とPITタグシステム導入による回帰率の検証, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭

水永優紀, 工藤岳, 2015年3月18日-22日, 高山植物群落の結実特性:開花タイミングと媒花タイプの関係, 日本生態学会大会, 鹿児島, ポスター

西條大輔, 阿部拓三, 宮下和士, 三谷曜子, 2014年10月10日, 摂餌回遊期におけるキタゾウアザラシ・メスの分布と海洋環境に関する研究, 第10回日本バイオロギング研究会シンポジウム, 函館, ポスター

西條大輔, 阿部拓三, 宮下和士, 三谷曜子, 2014年12月19日, 摂餌回遊期におけるキタゾウアザラシ・メスの分布と海洋環境に関する研究, 平成26年度日本水産学会北海道支部大会, 函館, 口頭

石井縁, 村瀬弘人, 福田美亮, 澤田浩一, 笹倉豊喜, 田村力, 坂東武治, 松岡耕二, 篠原陽, 中東明佳, 勝又信博, 宮下和士, 三谷曜子, 2015年3月30日, 北西太平洋におけるイワシクジラの潜水行動と餌生物環境との関係, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭

石井縁, 村瀬弘人, 福田美亮, 澤田浩一, 笹倉豊喜, 田村力, 坂東武治, 松岡耕二, 篠原陽, 中東明佳, 勝又信博, 宮下和士, 三谷曜子, 2015年3月3日, 水産音響機器によるイワシクジラの潜水行動と餌生物環境に関する研究, 平成26年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 函館, 口頭

石山宙夢, 上野洋路, 稲津將, 伊藤幸彦, 2014年9月14日-16日, 全球における海洋中規模渦の合併と分裂, 2014年度日本海洋学会秋季大会, 長崎, ポスター

折山徹郎, 坂上景子, 三輪京子, 森川正章, 2014年9月9日-11日, *Nitrosomonas europaea* のバイオフィルム形成に伴うアンモニア酸化活性の変化, 日本生物工学会大会2014年度大会, 札幌, ポスター

川本広基, 小杉知佳, 加藤敏朗, 田中厚子, 長里千香子, 本村泰三, 2015年3月22日, 環境DNA解析によるコンブ類の微視的配偶体世代の検出, 日本藻類学会第39回福岡大会, 福岡, ポスター

船川寛矢, 福間健, 三輪京子, 2014年9月24日-26日, ガラクトロン酸転移酵素10への変異は植物の成長に必要なホウ素量を低下させる, 新学術領域「植物細胞壁機能」第3回若手ワークショップ, 第8回細胞壁ネットワーク研究会, 熊本, 口頭

船川寛矢, 福間健, 三輪京子, 2015年3月16日-18日, ガラクトロン酸転移酵素の変異はシロイスナズナにおいてホウ素要求量を低下させる, 第56回日本植物生理学会年会, 東京, 口頭

相原いづみ, 三輪京子, 2014年9月9日-11日, 活性型ビタミンB6合成酵素の変異株の生育抑制は高濃度のホウ酸により回復する, 日本土壤肥料学会2014年度東京大会, 東京, ポスター

足立敏成, 橋岡香織, 工藤勲, 2014年9月15日, 陸奥湾における基礎生産に占める暗所炭素取り込みの定量化, 日本海洋学会, 長崎, 口頭

速水将人, 工藤純一, 細川一実, 木村耕, 大原雅, 2015年3月19日, オオバキスミレ種内における異なる繁殖様式の進化, 第62回日本生態学会, 鹿児島, ポスター

速水将人, 大原雅, 2014年12月22日, オオバキスミレにおける繁殖様式の種内変異と集団分化, 2014年度北海道植物学会, 札幌, 口頭

村野宏樹, 三浦徹, 2014年8月8日-9日, エンドウヒゲナガアブラムシの精子形成におけるO型精子の発生様式, 日本アブラムシ研究会第4回研究集会, 岡崎, 口頭

太田直紀, 上野洋路, 伊東素代, 菊地隆, 西野茂人, 渡邊英嗣, 溝端浩平, 2014年9月14日-16日, チャクチ海の熱バランス, 2014年度日本海洋学会秋季大会, 長崎, ポスター

大額実咲, 上野洋路, 伊東素代, 菊地隆, 平譯享, 西野茂人, 渡邊英嗣, 溝端浩平, 2014年12月2日-5日, チャクチ海における成層強度の時空間変動, 第5回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

大額実咲, 上野洋路, 伊東素代, 菊地隆, 平譯享, 西野茂人, 渡邊英嗣, 溝端浩平, 2014年9月14日-16日, チャクチ海における成層強度の時空間変動, 2014年度日本海洋学会秋季大会, 長崎, 口頭

大吉徹, 宗原弘幸, 2014年12月19日, キマダラヤセカジカの卵巣内精子競争における交尾のタイミングが父性決定に与える影響, 日本水産学会北海道支部会, 函館, 口頭

大久保隆, 古川直大, 平間美信, 上田宏, 2014年12月19日, 太平洋サケの母川記録期におけるニオイ受容体遺伝子の発現動態, 平成26年度日本水産学会北海道支部大会, 函館, 口頭

大原隆, 上野洋路, 谷平洋介, 細田滋毅, 2014年9月14日-16日, 水温逆転層が混合層熱収支に与える影響の経年変動解析, 2014年度日本海洋学会秋季大会, 長崎, 口頭

大江光穂, 上野洋路, 2015年3月22日-24日, 渦位フロントから見た北太平洋中高緯度における中層循環の熱輸送量の変動, 2015年度日本海洋学会春季大会, 東京, 口頭

大日向佑介, ブーンマクチャニタ, 三輪京子, 森川正章, 2014年9月9日-11日, *Geobacillus thermoleovorans* B23株の三連型アルカン酸化酵素に関する遺伝子クローニングと機能解析, 日本生物工学会大会2014年度大会, 札幌, ポスター

大平昌史, 岩崎藍子, 金森由妃, 平賀優大, 胡之陽, 深谷肇一, 野田隆史, 2015年3月19日, 北海道東部におけるキタアメリカフジツボのメタ個体群動態: アバンダンスー出現率関係と親量ー加入量関係, 第62回日本生態学会全国大会, 鹿児島, ポスター

中村慎吾, 山本雄三, 稲田薰, 阿達大輔, 佐藤信洋, 上田宏, 2014年12月21日, ヒメマスの嗅覚記憶に関するNMDA受容体に関する研究, 第8回サケ学研究会, 函館, 口頭

辻井浩希, 大槻真友子, 赤松友成, 松尾行雄, 甘糟和男, 喜多村稔, 菊地隆, 宮下和士, 三谷曜子, 2015年3月30日, 設置型水中録音装置を用いたチャクチ海南部におけるナガスクジラ(*Balaenoptera physalus*)の鳴音モニタリング, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭

天野創, 日浦勉, 2015年3月19日, 森林の物質循環に与えるシカとササの影響, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, ポスター

渡邊美穂, 小島久弥, 福井学, 2014年10月22日, 部分循環湖堆積物に由来する新規硫酸還元細菌Pf12B株の特徴付け, 環境微生物系合同学会, 浜松, ポスター

渡邊友浩, 小島久弥, 福井学, 2014年10月22日, 新目 *Sulfuricella*目に属する新たな淡水性硫黄酸化細菌の分離と特徴付け, 環境微生物系合同学会, 浜松, ポスター

渡邊友浩, 小島久弥, 福井学, 2014年9月11日, 淡水湖沼で優占する硫黄酸化細菌の特定とゲノム解析, 日本陸水学会第80回大会, つくば, 口頭

内田健太, 鈴木圭, 嶽本樹, 柳川久, 小泉逸郎, 2015年2月20日, 都市化が警戒心の季節性を減少させる: エゾリスでの逃避距離を用いた検証, H26年度日本生態学会北海道地区大会, 札幌, 口頭

内田健太, 嶽本樹, 鈴木圭, 柳川久, 小泉逸郎, 2014年9月5日, 都市のエゾリスは季節によって警戒心が変わらない? 逃避距離と逃避後行動による評価, 哺乳類学会2014年度大会, 京都, ポスター

南憲吏, 喜多千穂海, 富安信, 澤井雅幸, 白川北斗, 宮下和士, 2015年3月30日, 岩手県山田湾におけるアカモクの生育可能な海域の推定, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, ポスター

日浦勉, 天野創, 日野貴文, 2015年3月21日, 大型草食獣の採食圧による林床植性を介した冷温帯林の物質循環過程の変化, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, 口頭

乃美大佑, 油田照秋, 小泉逸郎, 2015年2月20日, 一シーズンに複数回繁殖を行うのはどのような個体か? 個体の質と繁殖への投資配分, 繁殖のコストの関係, H26年度日本生態学会北海道地区大会, 札幌, 口頭

乃美大佑, 油田照秋, 小泉逸郎, 2015年3月18日-22日, 一シーズンに複数回繁殖を行うのはどのような個体か? 個体の質と繁殖への投資配分, 繁殖のコストの関係, 日本生態学会第62回大会, 鹿児島, ポスター

白曼大翔, 葛西広海, 田中寛繁, 山村織生, 小林万里, 宮下和士, 三谷曜子, 2014年12月19日, ヒグの安定同位体比分析によるゼニガタアザラシの食性履歴の推定, 平成26年度日本水産学会北海道支部大会, 函館, 口頭

白曼大翔, 葛西広海, 田中寛繁, 山村織生, 小林万里, 堀本高矩, 宮下和士, 三谷曜子, 2015年3月30日, ヒグの安定同位体比を用いたゼニガタアザラシの食性履歴の推定, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, ポスター

白曼大翔, 2014年10月9日, ヒグの安定同位体比を用いた襟裳岬に生息するゼニガタアザラシの食性履歴, 第10回日本バイオロギング研究会 フィールド系海棲哺乳類研究 workshop, 函館, 口頭

百田和幸, 大島由貴, 宗原弘幸, 2014年12月19日, ヤギウオの産卵生態と初期形態変化, 日本水産学会北海道支部会, 函館, 口頭

富安信, 濱田貴史, 竹下文雄, 廣瀬太郎, 小河道生, 三谷曜子, 宮下和士, 2014年10月10日, タチウオ成魚の遊泳と姿勢角の関係, 第10回日本バイオロギング研究会シンポジウム, 函館, ポスター

富安信, 濱田貴史, 竹下文雄, 廣瀬太郎, 小河道生, 三谷曜子, 宮下和士, 2015年3月30日, バイオロギング手法を用いたタチウオの遊泳行動に関する研究, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, ポスター

富安信, 濱田貴史, 竹下文雄, 廣瀬太郎, 小河道生, 三谷曜子, 宮下和士, 2015年3月3日, タチウオの音響学的研究①・姿勢角と立ち泳ぎの関係-, 平成26年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 函館, 口頭

布目仁志, 橋本美佳子, 奥山英登志, 花形寛, 水上誠, 宮内明, 折笠善丈, 渡邊研太郎, 佐藤真美子, 吉田磨仁, 2014年7月18日, エイコサペンタエン酸合成酵素遺伝子のグラム陽性菌への導入と発現, 日本国化学会第51北海道支部例会, 札幌, ポスター

福井翔, Shannan, M-M., 小泉逸郎, 2015年2月20日, 外来カワマスと在来アメマスの種間交雑: 繁殖成功度に与える二次性徴の影響, H26年度日本生態学会北海道地区大会, 札幌, 口頭

福井翔, Shannan, M-M., 小泉逸郎, 2015年3月18日-22日, 外来カワマスと在来アメマスの種間交雫: 繁殖成功度に与える二次性徴の影響, 日本生態学会第62回大会, 鹿児島, 口頭

兵頭夏海, 吉田俊也, 2015年3月19日, 拙伐施業は鳥類の棲息に関わる林分構造の特性を維持するか?, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, 口頭

平賀優大, 岩崎藍子, 大平昌史, 金森由妃, 胡之陽, 相澤章仁, 奥田武弘, 深谷肇一, 仲岡雅裕, 山本智子, 野田隆史, 2015年3月19日, 岩礁潮間帯の固着生物群集における遷移の空間変異性, 第62回日本生態学会大会, 鹿児島, ポスター

片山誓花, 白曼大翔, 高石雅恵, 宮澤奈月, 岡崎雅子, 廣崎芳次, 片倉靖次, 宮下和士, 三谷曜子, 2015年3月30日, 保護されたゴマフアザラシ新生獣における放獣後の回遊追跡と生息地選択, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭

片平浩孝, 山崎千登勢, 福井翔, 小泉逸郎, 2014年11月29日, 湧水河川に出現するレアな魚類寄生性ヒルの季節的消長, 第36回魚類系統研究会, 札幌, 口頭

木ノ下菜々, 長里千香子, 本村泰三, 2015年3月22日, 褐藻シオミドロ配偶子における走化性について, 日本藻類学会第39回福岡大会, 福岡, 口頭

木下豪太, 布目三夫, Kryukov, A. P., Kartavtseva, I. V., Han, SH., 山田文雄, 鈴木仁, 2014年8月21日-24日, 北東アジア産ノウサギ属 (*Lepus*) の網状進化と毛色関連遺伝子の自然選択, 日本進化学会第16回大会, 高槻, ポスター

木下豪太, 布目三夫, Kryukov, A. P., Kartavtseva, I. V., Han, SH., 山田文雄, 鈴木仁, 2014年9月4日-7日, 北東アジア産ノウサギ属における第四紀の気候変動に伴う種分化機構, 日本哺乳類学会2014年度大会, 京都, 口頭

油田照秋, 乃美大佑, 小泉逸郎, 2015年3月18日-22日, 同所的カラ類4種の繁殖生態の比較, 日本生態学会第62回大会, 鹿児島, ポスター

梁川紗奈江, 福澤加里部, 柴田英昭, 2014年5月17日, 北海道北部の植生タイプの異なる森林におけるササ細根の量的・形態的特徴, 第40回根研究集会, 当別, ポスター

梁川紗奈江, 福澤加里部, 柴田英昭, 2015年3月27日, 北海道北部の林相が異なる森林における細根動態-林床植生の及ぼす影響, 第126回日本森林学会大会, 札幌, 口頭

林田寿文, 新居久也, 中尾勝哉, 渡邊和好, 宮崎俊行, 上田宏, 2015年3月30日, PITタグシステムによるサクラマス母川回帰確認手法の検討, 平成27年度日本水産学会春季大会, 東京, 口頭

林田寿文, 新居久也, 宮崎俊行, 渡邊和好, 平井康幸, 上田宏, 2014年9月19日, 美利河ダムの分水施設・魚道におけるサクラマススマルトの降下行動, 平成26年度日本水産学会秋季大会, 福岡,

鈴木将太, 荒井克俊, 宗原弘幸, 2014年12月19日, アイナメ属半クローン系統における三倍体の出現, 日本国水産学会北海道支部会, 函館, 口頭

廣口覚彦, 三輪京子, 2014年9月24日-26日, ホウ素欠乏条件における主根伸長抑制が緩和されたシロイヌナズナ変異株の解析～「植物の栄養欠乏に対する積極的な成長抑制」の仮説の検証～, 新学術領域「植物細胞壁機能」第3回若手ワークショップ, 第8回細胞壁ネットワーク研究会, 熊本, ポスター

齋藤類, 安田一郎, 小松幸生, 石山宙夢, 上野洋路, 大西広二, 2014年9月14日-16日, 伝播経路が異なるアリューション渦の鉛直的水理環境の比較, 2014年度日本海洋学会秋季大会, 長崎, 口頭

船津貴成, 松浦優, 村野宏樹, 三浦徹, 2014年8月8日-9日, エンドウヒゲナガアブラムシにおける表現型多型と共生細菌動態の関連, 日本アブラムシ研究会第4回研究集会, 岡崎, 口頭

邵花梅, 南憲史, 大村敏昭, 藤川義一, 四ツ倉典滋, 仲岡雅裕, 宮下和士, 2015年3月3日, 音響手法を用いたコンブ林の厚みと分布の精度解析, 平成26年度北海道音響資源調査研究情報交換会, 函館, ポスター

<平成25年度報告書以前の記載漏れ>

伊東義兼, 坂上景子, 松本光史, 森川正章, 2014年3月17日-19日, 耐熱性を有する新規アンモニア酸化細菌の単離ならびにその諸性質, 第48回日本水環境学会, 仙台, 口頭

環境物質科学専攻

Casalme, O. L., Sato, A., Ameda, Y., Umezawa, T., Matsuda, F., 2014年7月5日, Dolastatin 16 の合成研究, 第26回万有札幌シンポジウム, 札幌, ポスター

Endo, M., Karabiyik, B., Rokicka, P., Yoshiiri, K., Markowska-Szczupak, A., Wang, K., Ohtani, B., Kowalska, E., 2014年7月13日, Photocatalytic activity of noble metal modified titania against bacteria and fungi, 第54回オーロラセミナー, 栗山, ポスター

Endo, M., Karabiyik, B., Yoshiiri, K., Markowska-Szczupak, A., Wang, K., Ohtani, B., Kowalska, E., 2014年10月12日, Photocatalytic activity of noble metal-modified titania against bacteria and fungi, 2014年光化学討論会, 札幌, ポスター

Endo, M., Karabiyik, B., Yoshiiri, K., Kimura, Y., Rokicka, P., Markowska-Szczupak, A., Wang, K., Ohtani, B., Kowalska, E., 2014年12月12日, Visible light-driven inactivation of bacteria and fungi by noble metal-modified titania, 第21回シンポジウム「光触媒反応の最近の展開」, 東京, ポスター

Endo, M., Karabiyik, B., Yoshiiri, K., Kimura, Y., Mizobuchi, A., Wang, K., Ohtani, B., Kowalska, E., 2015年1月27日, The application of noble metal-modified titania for inactivation of bacteria and fungi, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

Ikeda, R., Ohtani, B., Kowalska, E., 2015年1月28日, Preparation and photocatalytic activity of metal-modified titania particles, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, ポスター

Kabiraz, D. C., Suherman, 森田金市, //口俊一, 2015年1月27日, Highly sensitive detection of clenbuterol by SPR with secondary antibody amplification, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

Kabiraz, D. C., Suherman, 森田金市, //口俊一, 2015年3月15日, Signal amplification for surface Plasmon resonance by using secondary antibody, 電気化学会第82回大会, 横浜, 口頭

Kimura, S., Takase, M., Ohtani, B., 2014年9月30日, Preparation, characterization and application of gold and platinum-metal colloids stabilized by chiral molecules, Synthesis and Applications of Functional Molecules and Materials Utilizing Biomolecules as a Motif, 札幌, ポスター

Kowalska, E., Karabiyik, B., Wei, Z., Endo, M., Wang, K., Rokicka, P., Markowska-Szczupak, A., Ohtani, B., 2014年7月10日, Environmental purification by plasmonic titania under solar radiation, The 4th International Conference on MEXT Project of Integrated Research on Chemical Synthesis (統合物質創製化学事業国際シンポジウム), 宇治, ポスター

Kowalska, E., Wei, Z., Karabiyik, B., Janczarek, M., Endo, M., Wang, K., Rokicka, P., Ohtani, B., Markowska-Szczupak, A., 2014年11月19日, Plasmonic photocatalysts for decontamination of chemical and biological pollutants, The 19th International Conference on Semiconductors Photocatalysis and Solar Energy Conversion (SPASEC-19), アメリカ・サンディエゴ, 口頭

Kowalska, E., Wei, Z., Karabiyik, B., Janczarek, M., Remita, H., Rosa, L., Juodkazis, S., Ohtani, B., 2014年11月6日, Structural and photocatalytic properties of plasmonic titania nanostructures, 10th International Symposium on Electrochemical Micro and Nanosystem Technologies (EMNT2014), 宜野湾, ポスター

- Kowalska, E., Wei, Z., Karabiyik, B., Ohtani, B., Markowska-Szczupak, A., Remita, H.*, 2014 年 6 月 27 日, Silver modified titania with enhanced photocatalytic and antiseptic properties under UV and visible light irradiation, 8th European Meeting on Solar Chemistry and Photocatalysis: Environmental Applications (SPEA8), ギリシア・テッサロニキ, ポスター
- Kowalska, E., Yoshiiri, K., Wei, Z., Zheng, S., Kastl, E., Rau, S., Ohtani, B., Remita, H.*, 2014 年 6 月 27 日, Hybrid photocatalysts composed of plasmonic titania and ruthenium complexes for oxidation of organic compounds, 8th European Meeting on Solar Chemistry and Photocatalysis: Environmental Applications (SPEA8), ギリシア・テッサロニキ, ポスター
- Mahardiani, L., 神谷裕一*, 2014 年 10 月 16 日, Increase in catalytic activity of cobalt oxide by repeated use for oxidative decomposition of ammonia with ozone in water, 第 44 回石油・石油化学討論会, 旭川, 口頭
- Matsui, K., Kobayashi, K., Takase, M., Ohtani, B.*, 2014 年 9 月 30 日, Influence of crystal facets of decahedral-shaped anatase titania particles on their optical and physical properties and photocatalytic activities, Synthesis and Applications of Functional Molecules and Materials Utilizing Biomolecules as a Motif, 札幌, ポスター
- Nakagawa, S., Kubo, K., Noro, S., Akutagawa, T., Nakamura, T.*, 2014 年 10 月 24 日, Substituent effect on molecular motions in supramolecular crystals of (Anilinium Derivatives)(Dibenzo[18]crown-6)[Ni(dmit)₂], Core-to-Core/Leverhulme Trust Joint Workshop, Otaru 2014 "Organic Electronics of Highly-Correlated Molecular Systems", 小樽, ポスター
- Nitta, A., Takase, M., Ohtani, B.*, 2014 年 12 月 11 日, Reversed double-beam photoacoustic spectroscopic study on the density of electron traps in titania photocatalyst particles, The 2nd International Symposium on Ambitious Leaders Program Fostering Future Leaders to Open New Frontiers in Material Science, 札幌, ポスター
- Nitta, A., Takase, M., Ohtani, B.*, 2014 年 11 月 19 日, Analysis on the energy-resolved distribution of electron traps in titania photocatalysts by reversed double-beam photoacoustic spectroscopy, The 19th International Conference on Semiconductors Photocatalysis and Solar Energy Conversion (SPASEC-19), アメリカ・サンディエゴ, ポスター
- Ohshima, Y., Kubo, K., Noro, S., Akutagawa, T., Nakamura, T.*, 2014 年 7 月 1 日, Proton transfer and dielectric properties of 4-Aminopyridinium/crown ether supramolecular crystals, International Conference of Synthetic Metals (ICSM2014), フィンランド・トゥルク, 口頭
- Ohshima, Y., Kubo, K., Noro, S., Akutagawa, T., Nakamura, T.*, 2014 年 10 月 24 日, Structure and Physical Properties of (Fluoroadamantylammonium)(Dicyclohexano[18]crown-6) Supramolecular Cation in [Ni(dmit)₂] Crystal, Core-to-Core/Leverhulme Trust Joint Workshop, Otaru 2014 "Organic Electronics of Highly-Correlated Molecular Systems", 小樽, 口頭
- Ohshima, Y., Kubo, K., Noro, S., Akutagawa, T., Nakamura, T.*, 2014 年 12 月 16 日, Structure and dielectric properties of supramolecular rotators composed of trans-syn-trans-Dicyclohexano[18]crown-6 and alkyl and aryl ammonium derivatives, The 15th Ries-Hokudai International Symposium 2014 年電子研国際シンポジウム"響", 札幌, ポスター
- Ohtani, B., Takase, M., Nitta, A.*, 2014 年 7 月 28 日, Electron traps in metal oxide particulate photocatalysts as a possible key for understanding and explaining their photocatalytic activities, The 20th International Conference on Photochemical Energy Conversion and Storage (IPS-20), ドイツ・ベルリン, 口頭
- Ohtani, B., Nitta, A., Takase, M.*, 2014 年 11 月 26 日, Energy-resolved measurement of electron traps in metal oxide particulate photocatalysts: reversed double-beam photoacoustic spectroscopy, 人工光合成国際会議 2014 (2014 International Conference on Artificial Photosynthesis= ICARP2014), 淡路, ポスター
- Ohtani, B., Nitta, A., Takase, M.*, 2015 年 3 月 20 日, Energy distribution of electron traps: A possible key parameter governing photocatalytic activity of metal oxide particles, Workshop: Nanomaterials for Energy and Environment, フランス・パリ, 口頭
- Ohtani, B., Takase, M., Nitta, A.*, 2014 年 11 月 18 日, Electron traps in metal oxide particulate photocatalysts as a key parameter governing their photocatalytic activities, The 19th International Conference on Semiconductors Photocatalysis and Solar Energy Conversion (SPASEC-19), アメリカ・サンディエゴ, 口頭
- Ohtani, B., Yang, Z., Janczarek, M., Takase, M., Kowalska, E.*, 2014 年 5 月 13 日, Influence of morphology of faceted anatase titania particles on their photocatalytic activity, 225th Meeting of the Electrochemical Society, アメリカ・オーランド, 口頭

- Ordonez, C., 七分勇勝, 小西克明, 2015年1月27日・28日, Synthesis and properties of a novel gold cluster with a redox-active ligand, 化学系学協会北海道支部2015年研究発表会, 札幌, ポスター
- Ordonez, C., 七分勇勝, 小西克明, 2015年3月26日・29日, Novel structurally defined gold cluster protected by redox-active ligands, 日本化学会第95春季年会, 船橋, ポスター
- Sakamoto, Y., Goda, M., Hirokawa, J., 2014年9月22日・26日, Kinetic study of bromine release from heterogeneous reactions of gaseous ozone with aqueous bromide solution, 13th Symposium of the International Commission on Atmospheric Chemistry and Global Pollution (iCACGP)/13th Science Conference of the International Global Atmosphere Chemistry (IGAC), ブラジル・ナタール, ポスター
- Sakamoto, Y., Yajima, R., Inomata, S., Hirokawa, J., 2014年9月22日・26日, Study of secondary organic aerosol formation from ozonolysis of unsaturated hydrocarbons, 13th Symposium of the International Commission on Atmospheric Chemistry and Global Pollution (iCACGP)/13th Science Conference of the International Global Atmosphere Chemistry (IGAC), ブラジル・ナタール, ポスター
- Shichibu, Y., Zhang, M., Konishi, K., 2014年9月7日・12日, Non-spherical gold clusters with the lowest-energy intense absorptions: strong correlation between geometric and electronic structures, International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters (ISSPIC-17), 福岡, ポスター
- Sugiuchi, M., Kobayashi, N., Shichibu, Y., Konishi, K., 2014年9月7日・12日, Solid-state absorption properties and crystal structures of di-alkynylated octanuclear gold clusters, International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters (ISSPIC-17), 福岡, ポスター
- Suherman, 森田金市, //口俊一, 2014年7月12日, Surface plasmon resonance immunosensor using highly ordered alkanethiol monolayer, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭
- Suherman, 森田金市, //口俊一, 2014年9月27日, Surface plasmon resonance immunosensor using functionalized alkanethiol, 2014年電気化学秋季大会, 札幌, 口頭
- Takase, M., Kimura, S., Ohtani, B., 2014年5月13日, Preparation, characterization and application of noble-metal colloids stabilized by chiral molecules, 225th Meeting of the Electrochemical Society, アメリカ・オーランド, 口頭
- Takase, M., Kimura, S., Ohtani, B., 2014年7月10日, Preparation, characterization and application of gold and platinum-metal colloids stabilized by chiral molecules, The 4th International Conference on MEXT Project of Integrated Research on Chemical Synthesis (統合物質創製化学事業国際シンポジウム), 宇治, ポスター
- Takase, M., Kobayashi, K., Matsui, K., Kimura, S., Ohnuma, A., Ohtani, B., 2014年11月3日, Influence of crystal facets on the physical/optical properties and the photocatalytic activity of decahedral-shaped anatase titania particles, The 7th International Symposium on Surface Science (ISSS-7), 松江, ポスター
- Takase, M., Kobayashi, K., Matsui, K., Ohtani, B., 2014年11月19日, Influence of crystal facets of decahedral-shaped anatase titania particles on their physical properties and photocatalytic activities, The 19th International Conference on Semiconductors Photocatalysis and Solar Energy Conversion (SPASEC-19), アメリカ・サンディエゴ, ポスター
- Takase, M., Matsui, K., Yang, Z., Ohtani, B., 2014年7月10日, Influence of crystal facets of decahedral-shaped anatase titania particles on their optical and physical properties and photocatalytic activities, The 4th International Conference on MEXT Project of Integrated Research on Chemical Synthesis (統合物質創製化学事業国際シンポジウム), 宇治, ポスター
- Takase, M., Matsui, K., Kobayashi, K., Ohtani, B., 2014年12月10日, Influence of crystal facets of decahedral-shaped anatase titania particles on their physical/optical properties and photocatalytic activities, 第24回日本MRS年次大会「エコ・エネルギーを切り拓く先端材料研究」, 横浜, 口頭
- Wang, K., Kowalska, E., Ohtani, B., 2014年6月4日, Study on photocatalytic activity of anatase-rutile titania particles isolated from commercial evonik P25, The Seventh Tokyo Conference on Advanced Catalytic Science and Technology (TOCAT7 Kyoto2014), 京都, ポスター
- Wang, K., Kowalska, E., Ohtani, B., 2014年6月28日, Study on photocatalytic activity of polymorphic forms isolated from commercial titania P25, 第30回ライラックセミナー・第20回若手研究者交流会, 小樽, ポスター

- Wang, K., Kowalska, E., Ohtani, B., 2014年7月13日, Study on photocatalytic activity of anatase and rutile particles isolated from commercial titania P25, 第54回オーロラセミナー, 栗山, ポスター
- Wang, K., Kowalska, E., Ohtani, B., 2014年9月30日, Study on photocatalytic activity of anatase-rutile titania particles by isolation of each component, Synthesis and Applications of Functional Molecules and Materials Utilizing Biomolecules as a Motif, 札幌, ポスター
- Wang, K., Kowalska, E., Ohtani, B., 2014年10月12日, Study on photocatalytic activities of anatase and rutile titania particles isolated from a commercial P25 photocatalyst, 2014年光化学討論会, 札幌, ポスター
- Wang, K., Kowalska, E., Ohtani, B., 2015年1月28日, Platinum amount-dependent photocatalytic activity of titania samples prepared from Evonik P25, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
- Wang, K., Kowalska, E., Ohtani, B., 2015年3月26日, Influence of platinum-loading amount on photocatalytic activities of titania particles prepared from evonik P25, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭
- Watanabe, D., Kubo, K., Hoshino, N., Akutagawa, T., Noro, S., Nakamura, T., 2014年7月2日, Crystal structure and dielectric properties of (4-Aminopyridinium+) (trans-anti-trans-Dicyclohexano[18]crown-6) [Ni(dmit)₂]⁻, International Conference of Synthetic Metals (ICSM2014), フィンランド・トゥルク, ポスター
- Wei, Z., Janczarek, M., Jonathan V., Hynd R., Ohtani, B., Kowalska, E., 2014年7月10日, Titania photocatalysts modified with noble metals on exposed facets for decomposition of organic compounds under visible light, The 4th International Conference on MEXT Project of Integrated Research on Chemical Synthesis(統合物質創製化学事業国際シンポジウム), 宇治, ポスター
- Wei, Z., Janczarek, M., Kowalska, E., Ohtani, B., 2014年7月13日, Photocatalytic activity of metal modified polyhedral anatase titania under UV and visible light irradiation, 第54回オーロラセミナー, 栗山, ポスター
- Wei, Z., Janczarek, M., Verrett, J., Remita, H., Ohtani, B., Kowalska, E., 2014年10月12日, Titania photocatalysts modified with noble metals on exposed {001} and {101} facets for decomposition of organic compounds, 2014年光化学討論会, 札幌, ポスター
- Wei, Z., Kowalska, E., Ohtani, B., 2014年9月30日, Influence of particle morphology on photocatalytic activity of octahedral anatase titania particles, Synthesis and Applications of Functional Molecules and Materials Utilizing Biomolecules as a Motif, 札幌, ポスター
- Xiong, J., Endo, D., Kubo, K., Noro, S., Nakamura, T., 2014年10月10日, Designing ferroelectric materials by modulating polyoxometallates and supramolecular cations, 10th IUPAC International Conference on Novel Materials and their Synthesis (NMS-X), 中国・鄭州, ポスター
- Xiong, J., Endo, D., Kubo, K., Noro, S., Nakamura, T., 2014年10月24日, Designing ferroelectric materials by modulating polyoxometallates and supramolecular cations, Core-to-Core/Leverhulme Trust Joint Workshop, Otaru 2014 "Organic Electronics of Highly-Correlated Molecular Systems", 小樽, ポスター
- Xiong, J., Endo, D., Kubo, K., Noro, S., Nakamura, T., 2014年12月16日, Designing ferroelectric materials by modulating polyoxometallates and supramolecular cations, The 15th Ries-Hokudai International Symposium 2014年電子研国際シンポジウム"響", 札幌, ポスター
- Xiong, J., Endo, D., Kubo, K., Noro, S., Nakamura, T., 2014年7月8日, Mixed-valence [S₂Mo₁₈O₆₂]ⁿ⁻(n = 4, 5, 6) and [Ln(Mo₈O₂₆)₂]⁵⁻(Ln = Gd, Tb, Dy, Ho, Er), as magnetic counter anions for supramolecular rotators., The 14th International Conference on molecule-Based Magnets (ICMM2014), ロシア・サンクトペテルブルグ, ポスター
- Yaguchi, M., Osawa, M., 2014年8月31日-9月5日, Effect of pH on the electrocatalytic oxidation of formic acid/formate on Pd electrode studied by cyclic voltammetry and surface-enhanced infrared spectroscopy, 65th Annual Meeting of International Electrochemistry, スイス・ローザンヌ, ポスター
- Yamada, A., Kubo, K., Hoshino, N., Akutagawa, T., Noro, S., Nakamura, T., 2014年10月24日, Structure and dielectric properties of the crystals composed of supramolecular cations having multi hydrogen bonding sites, Core-to-Core/Leverhulme Trust Joint Workshop, Otaru 2014 "Organic Electronics of Highly-Correlated Molecular Systems", 小樽, ポスター

- Yamada, A., Kubo, K., Hoshino, N., Akutagawa, T., Noro, S., Nakamura, T., 2014年7月1日, Dielectric properties of [Ni(dmit)₂]⁻ crystals with (Aminopyridinium derivatives) (Dicyclohexano[18]crown-6) supramolecular cations, International Conference of Synthetic Metals (ICSM2014), フィンランド・トゥルク, ポスター
- Yoshiiri, K., Kastl, E., Rau, S., Ohtani, B., Kowalska, E., 2014年6月28日, Photocatalytic activity of hybrid photocatalysts composed of plasmonic titania and ruthenium complexes under UV and/or visible light irradiation, 第30回ライラックセミナー・第20回若手研究者交流会, 小樽, ポスター
- Yoshiiri, K., Kastl, E., Rau, S., Ohtani, B., Kowalska, E., 2014年7月13日, Photocatalytic activity of hybrid photocatalysts composed of plasmonic titania and ruthenium complexes under UV and/or visible light irradiation, 第54回オーロラセミナー, 栗山, ポスター
- Yoshiiri, K., Kastl, E., Rau, S., Ohtani, B., Kowalska, E., 2014年10月12日, UV and/or visible light-induced photocatalysis by plasmonic titania modified with ruthenium complexes, 2014年光化学討論会, 札幌, ポスター
- Yoshiiri, K., Ohtani, B., Kowalska, E., 2015年1月28日, Interactions between plasmonic nanoparticles and ruthenium complexes, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
- Yoshiiri, K., Ohtani, B., Kowalska, E., 2015年3月17日, UV and visible light-induced photocatalysis by plasmonic nanoparticle and metal complex-loaded titania, 電気化学会第82回大会, 横浜, 口頭
- Yoshitake, M., Kubo, K., Nishihara, S., Inoue, K., Akutagawa, T., Noro, S., Nakamura, T., 2014年10月24日, Crystal structure and physical properties of [MnCr(oxalate)₃]⁻ complexes with supramolecular cations, Core-to-Core/Leverhulme Trust Joint Workshop, Otaru 2014 "Organic Electronics of Highly-Correlated Molecular Systems", 小樽, ポスター
- Yoshitake, M., Kubo, K., Nishihara, S., Inoue, K., Akutagawa, T., Noro, S., Nakamura, T., 2014年12月16日, Crystal structure and physical properties of [MnCr(oxalate)₃]⁻ salts with supramolecular cations, The 15th Ries-Hokudai International Symposium 2014年電子研国際シンポジウム"響", 札幌, ポスター
- Yoshitake, M., Kubo, K., Nishihara, S., Inoue, K., Akutagawa, T., Noro, S., Nakamura, T., 2014年7月1日, Magnetic properties of a [MnCr(oxalate)₃]⁻ salt with chiral supramolecular cation, International Conference of Synthetic Metals (ICSM2014), フィンランド・トゥルク, ポスター
- Zhang, M., Kamei, Y., Shichibu, Y., Konishi, K., 2014年6月13日-14日, A novel heptanuclear [core+exo]-type gold cluster with a single exo gold atom, The 3rd Frontier Chemistry Center International Symposium, 札幌, ポスター
- Zhang, M., Kamei, Y., Shichibu, Y., Konishi, K., 2014年7月21日-25日, A novel heptanuclear [core+exo]-type gold cluster with a single exo gold atom, 41st International Conference on Coordination Chemistry (ICCC-41), シンガポール, ポスター
- Zhang, M., Shichibu, Y., Konishi, K., 2014年7月18日, A novel heptanuclear gold cluster with a [core+one] structure, The First International Workshop in a Hokkaido Branch of Japan Coordination Chemistry, 札幌, 口頭
- Zhang, M., Shichibu, Y., Konishi, K., 2014年9月7日-12日, Synthesis of a novel [core+exo]-type heptanuclear gold cluster, International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters (ISSPIC-17), 福岡, ポスター
- 安田佳一郎, 平山純, 神谷裕一, 2014年11月29日, 担持金属酸化物触媒による酸素共存下での水中亜硝酸イオンの選択還元分解, 第45回中部化学関係学協会支部連合秋季大会, 春日井, 口頭
- 伊藤翼, 磯村洵子, 高橋真, 嶋津克明, 八木一三, 2014年11月6日-8日, 機能性官能基によるシクロデキストリン混合单分子層の包接特性制御, 第34回表面科学学術講演会, 松江, ポスター
- 伊藤翼, 磯村洵子, 高橋真, 嶋津克明, 八木一三, 2014年9月27日-28日, 機能性官能基によるシクロデキストリン混合单分子層の包接特性制御, 2014年電気化学会秋季大会, 札幌, 口頭
- 伊藤翼, 磯村洵子, 高橋真, 八木一三, 嶋津克明, 2014年6月28日-29日, 機能性官能基によるシクロデキストリン混合单分子層の包接特性制御, 第30回ライラックセミナー・第20回若手研究者交流会, 小樽, ポスター
- 伊藤翼, 磯村洵子, 嶋津克明, 八木一三, 2015年3月15日-17日, シクロデキストリン单分子層修飾電極におけるフェロセンの保持とその電気化学特性, 電気化学会第82回大会, 横浜, 口頭
- 黄越キン, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年7月18日, 酸化チタン(IV)微粒子の磨碎・焼成による結晶構造変化の光触媒活性におよぼす影響, 第33回光がかかる触媒化学シンポジウム, 東京, ポスター

黄越キン, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年9月27日, 酸化チタン(IV)微粒子の磨碎—焼成による結晶構造の変化と光触媒活性におよぼす影響, 2014年電気化学秋季大会, 札幌, 口頭

岸和樹, 櫻井祥平, 吉川弘晃, 羽深昭, 佐藤久, 山田幸司, 2014年5月24日, 容易にアザクラウン部位が組みかえることができる蛍光変色型ボロンジピロメテンイオンセンサーの開発, 日本分析化学会第74回分析化学討論会, 船橋, ポスター

岩崎光紘, 小林直貴, 杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2014年10月11日-13日, ピリジル基を導入したサブナノ金クラスターの合成とプロトン応答性の評価, 2014年光化学討論会, 札幌, ポスター

岩崎光紘, 小林直貴, 杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2014年11月14日, ピリジル基を導入したAu₈クラスターの光化学特性と応答機能, 2014年度錯体化学若手の会北海道支部第3回勉強会, 札幌, ポスター

岩崎光紘, 小林直貴, 杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2014年8月29日-30日, ピリジル基を有するサブナノ金クラスターのプロトン化に対する光学的応答, 2014年度北海道高分子若手研究会, 札幌, ポスター

岩崎光紘, 小林直貴, 杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2014年9月18日-20日, ピリジル基を導入したサブナノ金クラスターの光化学的応答性の評価, 錯体化学会第64回討論会, 東京, ポスター

岩崎光紘, 小林直貴, 杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2015年1月27日-28日, ピリジル基を導入したチオラート修飾Au₈クラスターの光化学的な応答, 化学系学協会北海道支部2015年研究発表会, 札幌, ポスター

岩崎光紘, 小林直貴, 杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2015年3月26日-29日, 有機機能団で修飾したサブナノ金クラスターの光化学的な応答性, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭

吉竹理, 久保和也, 西原禎文, 井上克也, 芥川智行, 野呂真一郎, 中村貴義, 2014年7月12日, キラル超分子カチオンを導入した[MnCr(oxalate)₃]-結晶の磁気挙動, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

吉竹理, 久保和也, 西原禎文, 井上克也, 芥川智行, 野呂真一郎, 中村貴義, 2015年1月28日, 有機アンモニウム/クラウンエーテル誘導体超分子カチオンが誘起する[MnCr(oxalate)₃]-キラル結晶の磁気挙動, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

吉田圭佑, 七分勇勝, 小西克明, 2015年1月27日-28日, 金属-金属間相互作用を駆動力とするティアラ型環状ホストの包接機能, 化学系学協会北海道支部2015年研究発表会, 札幌, 口頭

吉田圭佑, 七分勇勝, 小西克明, 2015年3月26日-29日, 金属部位を配位サイトとする環状金属チオラートホストクラスター, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭

吉田圭佑, 濑田敬太, 七分勇勝, 小西克明, 2014年11月14日, ティアラ型環状金属チオラートクラスターのホスト-ゲスト特性, 2014年度錯体化学若手の会北海道支部第3回勉強会, 札幌, ポスター

吉田圭佑, 濑田敬太, 七分勇勝, 小西克明, 2014年7月12日, ティアラ型環状金属チオラートクラスターの銀イオン認識挙動, 日本化学会北海道支部2014夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

吉田圭佑, 濑田敬太, 七分勇勝, 小西克明, 2014年8月29日-30日, ティアラ型環状金属チオラートクラスターの銀イオン認識挙動, 2014年度北海道高分子若手研究会, 札幌, ポスター

吉田圭佑, 濑田敬太, 七分勇勝, 小西克明, 2014年9月18日-20日, 金属チオラート骨格を有するティアラ型環状クラスターのホストゲスト特性, 錯体化学会第64回討論会, 東京, ポスター

吉田俊, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2014年7月12日, Vinigrolの合成研究, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

久保和也, 劉尊奇, 山田晃弘, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2014年11月26日, 結晶内分子ローター/プロトン移動共存系超分子結晶開発, 附置研究所間アライアンス第二回若手研究会, 吹田, ポスター

久保和也, 劉尊奇, 山田晃弘, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2014年9月24日, 2,6-ジアミノピリジンおよび2-アミノピリミジンとクラウンエーテル誘導体からなる超分子カチオン結晶の誘電応答, 第8回分子科学討論会, 東広島, ポスター

高橋真, 嶋津克明, 八木一三, 2014年9月27日-28日, シクロデキストリン混合单分子層を分子鑄型として用いた機能性分子の構造評価, 2014年電気化学秋季大会, 札幌, 口頭

高瀬舞, 小林健太, 松井計樹, 大谷文章, 2015年3月24日, 十面体形状アナースチタニアの光触媒活性と表面修飾選択性に対する露出結晶面の影響, 第115回触媒討論会, 武藏野, ポスター

高瀬舞, 木村駿介, 魚谷明日香, コワルスカエバ, 大谷文章, 2014年12月19日, キラル分子で修飾した貴金属コロイドの調製と応用, 第5回統合物質シンポジウム「物質創製研究の新しい展望」, 名古屋, ポスター

高瀬舞, 木村駿介, 大谷文章, 2014年9月25日, キラル分子修飾貴金属コロイドの調製と応用, 第114回触媒討論会, 東広島, 口頭

合田元清, 坂本陽介, 廣川淳, 2014年10月27日-29日, オゾン-臭化物イオンの気相-液相不均一反応による臭素分子生成(2) -二相系化学拡散モデルとの比較-, 第20回大気化学討論会, 府中, 口頭
今敬太, 加藤優, 八木一三, 2015年1月27日-28日, 新規コバルト錯体のシクロデキストリンへの包接と電気化学特性, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
坂本陽介, 矢嶋亮次, 猪俣敏, 廣川淳, 2014年10月27日-29日, イソプレンのオゾン酸化を通じた二次粒子生成への水蒸気効果, 第20回大気化学討論会, 府中, 口頭
山本洋平, 平山純, 神谷裕一, 2015年1月27日, 水中硝酸イオン光還元分解に対するSn-Pd/SrTiO₃:Rhの性能支配因子, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
七分勇勝, 張明皓, 小西克明, 2015年3月26日-29日, 有機配位金クラスターのコア形状制御による電子構造変化と光吸収特性, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭
七分勇勝, 張明皓, 小西克明, 2014年10月11日-13日, 非球状型Auクラスター群の幾何構造と光化学特性, 2014年光化学討論会, 札幌, 口頭
七分勇勝, 張明皓, 小西克明, 2014年9月21日-24日, コア形状制御された新奇金クラスター群の幾何・電子構造における特異性と系統性, 第8回分子科学討論会, 東広島, 口頭
柴田昌幸, 梅澤大樹, 松田冬彦, 2015年3月28日, エポキシド開環反応に対する分子内塩素の隣接基効果, 日本化学会第95年会, 船橋, 口頭
室谷岳志, 加藤優, 八木一三, 2015年1月27日-28日, Fe/Cu複合活性中心を有する酸素還元電極触媒への試み, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
小柳津暢久, 加藤優, 嶋津克明, 八木一三, 2015年3月15日-17日, 自己組織化法により金電極表面に構築した多核銅錯体の酸素還元活性, 電気化学会第82回大会, 横浜, 口頭
小柳津暢久, 嶋津克明, 八木一三, 2014年6月28日-29日, Au電極表面におけるCu複核錯体の構築とその電極触媒活性, 第30回ライラックセミナー・第20回若手研究者交流会, 小樽, ポスター
小柳津暢久, 嶋津克明, 八木一三, 2014年9月27日-28日, Au基板表面上に固定したCu複核錯体における酸素還元反応, 2014年電気化学会秋季大会, 札幌, 口頭
小林健太, 松井計樹, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年12月19日, 十面体形状アナース型酸化チタンの気相合成と特性・光触媒活性の評価, 第5回統合物質シンポジウム「物質創製研究の新しい展望」, 名古屋, ポスター
小林健太, 松井計樹, 木村駿介, 高瀬舞, 大谷文章, 2015年1月28日, 十面体形状アナース型酸化チタン(IV)の異なる結晶面への選択的表面修飾, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, ポスター
松井計樹, 小林健太, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年10月12日, 気相合成十面体形状アナース型酸化チタン(IV)の光触媒活性におよぼす露出結晶面の影響, 2014年光化学討論会, 札幌, ポスター
松井計樹, 小林健太, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年6月28日, 十面体形状アナース型酸化チタンの光触媒活性におよぼす粒子形状の影響, 第30回ライラックセミナー・第20回若手研究者交流会, 小樽, ポスター
新田明央, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年10月13日, 逆二重励起光音響分光法による酸化チタン(IV)光触媒中の電子トラップ密度のエネルギー分解測定, 2014年光化学討論会, 札幌, 口頭
新田明央, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年12月19日, 光音響分光法測定にもとづく光触媒粒子中の電子トラップ密度のエネルギー分布の解析, 第5回統合物質シンポジウム「物質創製研究の新しい展望」, 名古屋, ポスター
新田明央, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年6月28日, 逆二重励起光音響分光法による酸化チタン光触媒中の電子トラップ密度の解析, 第30回ライラックセミナー・第20回若手研究者交流会, 小樽, ポスター
新田明央, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年7月14日, 酸化チタン(IV)光触媒粒子の電子トラップ密度解析のための新規測定法の開発, 第54回オーロラセミナー, 栗山, 口頭
新田明央, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年9月17日, 逆二重励起光音響分光法による酸化チタン(IV)粉末中の電子トラップ密度のエネルギー分布の評価, 第75回応用物理学会秋季学術講演会, 札幌, 口頭
新田明央, 高瀬舞, 大谷文章, 2015年3月24日, 逆二重励起光音響分光法による光触媒粉末中の電子トラップ密度の評価, 第115回触媒討論会, 武藏野, ポスター
新田明央, 高瀬舞, 大谷文章, 2015年3月27日, 逆二重励起光音響分光法による粉末光触媒中の電子トラップ密度のエネルギー分解測定, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭
神谷裕一, Mahardjani, L., 2015年3月23日, 水中NH₄⁺の酸化分解反応への酸化コバルト触媒の反復使用による活性向上効果, 第115回触媒討論会, 東京, ポスター
神谷裕一, 宮城裕一, 2014年5月27日, TiO₂およびAl₂O₃に加持したH₄SiW₁₂O₄₀の酸性質, 石油学会第63回研究発表会, 東京, 口頭

杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2015年1月26日, サブナノ金クラスターの固相での分子間相互作用と光機能特性, 第49回高分子学会北海道支部冬季研究発表会, 札幌, ポスター

杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2015年3月26日-29日, 固相中での配列に依存したサブナノAu8クラスターの光化学特性, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭

杉内瑞穂, 小林直貴, 亀井優太朗, 七分勇勝, 小西克明, 2014年5月22日-24日, 特異な結晶構造を有するサブナノAu8クラスターの固相発光応答, ナノ学会第12回大会, 宇治, ポスター

杉内瑞穂, 小林直貴, 亀井優太朗, 七分勇勝, 小西克明, 2014年7月12日, サブナノAuクラスターの溶媒蒸気にに対する固相発光応答, 日本化学会北海道支部2014夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

杉内瑞穂, 小林直貴, 七分勇勝, 小西克明, 2014年10月11日-13日, 固相でのサブナノ金クラスターの配列変化と発光応答, 2014年光化学討論会, 札幌, ポスター

杉内瑞穂, 小林直貴, 七分勇勝, 小西克明, 2014年8月29日-30日, 特異な結晶構造を有するサブナノAu8クラスターの固相発光応答, 2014年度北海道高分子若手研究会, 札幌, ポスター

杉内瑞穂, 小林直貴, 七分勇勝, 小西克明, 2014年9月18日-20日, 高い結晶対称性を有するサブナノ金クラスターの固相発光挙動, 錯体化学会第64回討論会, 東京, ポスター

川口俊一, Suherman, 森田金市, 2015年3月9日, Detection of Clenbuterol by Using Localized Surface Plasmon Resonance, PITTCOM 2015, アメリカ・ニューオーリンズ, 口頭

泉館広隆, 杉内瑞穂, 七分勇勝, 小西克明, 2015年3月26日-29日, PEG修飾された双二十面体Au₂₅クラスターの合成と特性, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭

船本侑希, 伊藤隆一, 太田信廣, 飯森俊文, 2015年3月26日-29日, 高分子薄膜中に分散したイオン液体の電場変調吸収スペクトル測定”, 日本化学会春季年会, 船橋

大越謙児, Awasthi, K., 萬関一広, 三浦偉俊, 井上由紀子, 太田信廣, 2015年3月26日-29日, 色素増感太陽電池の光電変換効率と増感色素蛍光特性の電場効果, 日本化学会春季年会, 船橋

大越謙児, Chiang, HC., Awasthi, K., 太田信廣, 2014年10月11日-13日, 光誘起電子移動反応系における偏光電場発光スペクトルの測定, 2014年光化学討論会, 札幌

大谷文章, 高瀬舞, 新田明央, 2014年7月8日, 光触媒活性支配因子としての電子トラップ密度の解析, 第14回光触媒研究討論会, 東京, 口頭

大谷文章, 新田明央, 高瀬舞, 2014年12月16日, 光触媒活性支配因子としての電子トラップ密度のエネルギー分布測定, 京都大学エネルギー科学研究科石原・奥村グループセミナー, 京都, 口頭

大谷文章, 新田明央, 高瀬舞, 2014年12月19日, 高活性金属酸化物光触媒微粒子の開発—電子トラップのエネルギー分布の評価と制御, 第5回統合物質シンポジウム「物質創製研究の新しい展望」, 名古屋, 口頭

大谷文章, 新田明央, 高瀬舞, 2014年12月6日, 二重励起光音響分光法による酸化チタン粒子中の電子トラップ密度の解析, 表面・界面スペクトロスコピー2014, 京都, 口頭

大谷文章, 新田明央, 高瀬舞, 2014年7月18日, 光触媒活性支配因子としての電子トラップの密度分布解析, 第33回光がかかる触媒化学シンポジウム, 東京, 口頭

大島雄, 久保和也, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2014年7月12日, 4-Aminopyridinium/crown ether超分子結晶における水素結合と誘電性, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

竹内脩悟, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年12月16日, 酸化チタン(IV)光触媒酸素生成反応における波長・光強度依存性にもとづく機構解析, 第33回固体・表面光化学討論会, 京都, 口頭

竹内脩悟, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年6月28日, 酸化チタン(IV)系光触媒酸素生成反応の波長・強度依存性の解析, 第30回ライラックセミナー・第20回若手研究者交流会, 小樽, ポスター

竹内脩悟, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年7月13日, 酸化チタン(IV)系光触媒酸素生成反応における波長・強度依存性解析, 第54回オーロラセミナー, 栗山, ポスター

竹内脩悟, 高瀬舞, 大谷文章, 2014年9月27日, 酸化チタン(IV)系光触媒酸素生成反応における波長・强度依存性の解析, 2014年電気化学秋季大会, 札幌, 口頭

竹内脩悟, 高瀬舞, 大谷文章, 2015年1月27日, 酸化チタン(IV)系光触媒酸素生成反応の波長・光強度依存性にもとづく機構解析, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

竹内脩悟, 高瀬舞, 大谷文章, 2015年3月17日, 光触媒酸素生成反応の光強度依存性にもとづく不均一系光触媒反応機構の解析, 電気化学会第82回大会, 横浜, 口頭

中川翔太, 久保和也, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2014年7月12日, 結晶性分子ローターの置換基交換による誘電応答の変化, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

中川翔太, 久保和也, 野呂真一郎, 芥川智行, 中村貴義, 2014年9月24日, アニリニウム誘導体/ジベンゾ[18]クラウン-6超分子ローター構造を有する混晶の合成と物性評価, 第8回分子科学討論会, 東広島, ポスター

張明皓, 岩佐豪, 小野ゆり子, 武次徹也, 大曲駿, 中西貴之, 長谷川靖哉, 七分勇勝, 小西克明, 2015 年 3 月 26 日-29 日, わずかな構造相違を鋭敏に反映する異方性 Au6 クラスターの発光特性, 日本化学会第 95 春季年会, 船橋, 口頭
張明皓, 亀井優太朗, 七分勇勝, 小西克明, 2014 年 7 月 12 日, 疎水相互作用に駆動される金クラスターの会合挙動とそれに伴う光応答性, 日本化学会北海道支部 2014 夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭
張明皓, 七分勇勝, 小西克明, 2014 年 10 月 11 日-13 日, 六核金クラスターが示す特異なフォトクロミック挙動, 2014 年光化学討論会, 札幌, ポスター
張明皓, 七分勇勝, 小西克明, 2014 年 11 月 14 日, 水系媒体中での金クラスターの特異な会合挙動, 2014 年度錯体化学若手の会北海道支部第 3 回勉強会, 札幌, ポスター
張明皓, 七分勇勝, 小西克明, 2014 年 5 月 28 日-30 日, 水系媒体中でのサブナノ金クラスター種の特異な会合挙動, 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋, ポスター
張明皓, 七分勇勝, 小西克明, 2014 年 8 月 29 日-30 日, 疎水相互作用に駆動される金クラスターの特異な会合挙動, 2014 年度北海道高分子若手研究会, 札幌, ポスター
張明皓, 七分勇勝, 小西克明, 2014 年 9 月 18 日-20 日, サブナノ金クラスターの特異な会合挙動, 錯体化学会第 64 回討論会, 東京, 口頭
張明皓, 七分勇勝, 小西克明, 2015 年 1 月 26 日, 異方構造を有する金クラスターの特異な会合挙動, 第 49 回高分子学会北海道支部冬季研究発表会, 札幌, 口頭
波田野智章, 中田耕, 鳴津克明, 八木一三, 2015 年 3 月 15 日-17 日, 表面増強赤外分光法による Nafion 被覆 Pt 表面の構造評価, 電気化学会第 82 回大会, 横浜, 口頭
八木一三, 小柳津暢久, 2014 年 9 月 3 日-5 日, 金電極表面における複核銅錯体構築とその酸素還元活性, 第 65 回コロイドおよび界面科学討論会, 東京, 口頭
八木一三, 波田野智章, 猪熊喜芳, 2014 年 11 月 6 日-8 日, 表面増強振動分光法を用いた電極触媒反応の in situ 計測, 第 34 回表面科学学術講演会, 松江, 口頭
飯森俊文, 生沼要, 太田信廣, 2014 年 9 月 21 日-24 日, 時間分解電気伝導度測定による磁性有機導体 λ -(BETS)₂FeCl₄ の光励起ダイナミクスの研究, 2014 年分子科学討論会, 東広島
武藤謙佳, 加藤優, 八木一三, 2015 年 1 月 27 日-28 日, 多核銅錯体を組み込んだカーボン触媒における酸素還元反応, 化学系学協会北海道支部 2015 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭
福永直人, 七分勇勝, 小西克明, 2014 年 5 月 28 日-30 日, ポリエチレングリコール修飾無機ナノクラスターの合成とその光学的性質, 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋, ポスター
福永直人, 七分勇勝, 小西克明, 2015 年 1 月 26 日, PEG 修飾半導体性クラスターの PEG 鎮長に依存した光学的性質, 第 49 回高分子学会北海道支部冬季研究発表会, 札幌, 口頭
福西康平, Mahardiniani, L., 神谷裕一, 2014 年 9 月 27 日, 金属酸化物触媒による水中アニリンのオゾン酸化分解, 第 114 回触媒討論会, 東広島, 口頭
平山純, 富田修, 神谷裕一, 阿部竜, 2015 年 3 月 23 日, 酸化タンゲステン光触媒によるメタン部分酸化反応, 第 115 回触媒討論会, 東京, ポスター
保田修平, 菅野充, 長谷川俊雄, 大谷内健, 神谷裕一, 2014 年 9 月 27 日, 12-モリブドリン酸触媒上でのメタクロレイン選択性反応における水蒸気の添加効果, 第 114 回触媒討論会, 東広島, 口頭
堀晴菜, 高瀬舞, 大谷文章, 2014 年 12 月 16 日, タンゲステン酸ビスマス光触媒の活性におよぼす形状・サイズの影響の速度論的解析, 第 33 回固体・表面光化学討論会, 京都, 口頭
堀晴菜, 高瀬舞, 大谷文章, 2014 年 6 月 28 日, 形状とサイズを変化させたタンゲステン酸ビスマスの光触媒活性の光強度依存性解析, 第 30 回ライラックセミナー・第 20 回若手研究者交流会, 小樽, ポスター
堀晴菜, 高瀬舞, 大谷文章, 2015 年 3 月 27 日, 粒径が異なるタンゲステン酸ビスマスの光触媒活性の光強度依存性にもとづく機構の解析, 日本化学会第 95 春季年会, 船橋, 口頭
本林健太, 南和也, 内田権一, 西直哉, 作花哲夫, 大澤雅俊, 2015 年 3 月 15 日, イオン液体 | 電極界面の構造とその電位応答: 溶媒和 Li イオンの影響, 電気化学会第 82 回大会, 横浜, 口頭
木村駿介, 魚谷明日香, 高瀬舞, 大谷文章, 2014 年 10 月 12 日, キラル分子で修飾した貴金属微粒子の調製, 特性評価と応用, 2014 年光化学討論会, 札幌, 口頭
木村駿介, 魚谷明日香, 高瀬舞, 大谷文章, 2014 年 7 月 13 日, キラル分子で修飾した貴金属微粒子触媒の特性評価と反応への応用, 第 54 回オーロラセミナー, 栗山, ポスター
木村駿介, 魚谷明日香, 高瀬舞, 大谷文章, 2014 年 9 月 5 日, キラル分子で安定化させた貴金属微粒子触媒の調製および特性評価と応用, 第 65 回コロイドおよび界面化学討論会, 東京, ポスター
木村駿介, 高瀬舞, 大谷文章, 2014 年 7 月 12 日, キラル分子で安定化させた貴金属コロイドの調製と応用, 日本化学会北海道支部 2014 年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

木村駿介, 高瀬舞, 大谷文章, 2015年1月28日, キラル分子修飾貴金属コロイドの調製, 光学特性評価と反応への応用, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, ポスター

野島淳, 丸山司羽佐, 神谷裕一, 2015年1月27日, 地下水浄化のための担持ニッケル触媒による水中硝酸イオン還元分解, 化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

矢口桃, 大澤雅俊, 2015年3月15日-17日, 金電極表面におけるギ酸酸化反応のpH依存性, 電気化学会第82回大会, 横浜, 口頭

矢嶋亮次, 坂本陽介, 猪俣敏, 廣川淳, 2014年10月27日-29日, シクロヘキセンの気相オゾン分解からの粒子生成に対するラジカル捕捉剤の効果, 第20回大気化学討論会, 府中, 口頭

櫻井祥平, 岸和樹, 山田幸司, 2014年5月24日, チオフェンを母骨格とした蛍光ソルバトクロミック色素における置換基の位置および数の効果, 日本分析化学会第74回分析化学討論会, 船橋, ポスター

櫻井祥平, 山田幸司, 2015年3月28日, チオフェンとピリジン環を有する蛍光ソルバトクロミック色素の構造と光物性, 日本化学会第95春季年会, 船橋, 口頭

増田大海, 梅澤大樹, 松田冬彥, 2014年7月12日, Hachijojimallene Aの合成研究, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

宮野奈津美, 梅澤大樹, 松田冬彥, 2014年7月12日, ニヨウ化サマリウムを用いた分子間Barbier型反応, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

宮野奈津美, 梅澤大樹, 松田冬彥, 2015年3月28日, SmI₂を用いた分子間Barbier型カップリング反応, 日本化学会第95年会, 船橋, 口頭

村山駿, 梅澤大樹, 松田冬彥, 2014年7月12日, ニヨウ化サマリウムによる中員環閉環反応, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会, 苫小牧, 口頭

1 2-4 受賞

環境起学専攻

Islam, Md. S., 2014年11月5日, Excellent award for poster contest

Liu, J., 2014年9月26日, Outstanding student oral award of 2014 Asia Global Land Project Conference, "Study on the changes of the vegetation cover by satellite imageries in the Alai valley, Kyrgyzstan"

千場康博, 山中康裕, 2015年3月23日, 2015年度日本海洋学会 奨励論文賞

金子賢介, 2014年, 第56回天然有機化合物討論会奨励賞, ポスター賞 "Laurnecia 属紅藻のプロモペルオキシダーゼ"

地球圏科学専攻

榎原大貴, 2014年9月22日, 日本雪氷学会 雪氷研究大会 学生優秀発表賞 ポスター発表部門 優秀発表賞, 学会大会における若手対象の優秀発表賞

北山あさみ, 2014年3月24日, 第12回北海道大学地球化学優秀修士論文賞, 北海道大学の博士課程に進学する学生の中で, 地球化学に関連する修士論文を対象としたもの

対馬あかね, 2014年7月10日, 社団法人日本雪氷学会・日本雪工学会主催 雪氷研究大会 優秀発表賞

生物圏科学専攻

Hirayama, K., Takagi, K., Ide, R., Okada, K., Samesima, R., Oguma, H., 2014年8月22日, The best poster paper award, 若手研究者対象のポスター賞

Koizumi, I., Kanazawa, Y., Tanaka, Y., 2014年6月10日, 2014年日本動物学会論文賞 (Zoological Science Award), "The fishermen were right: experimental evidence for tributary refuge hypothesis during floods"

Yamamoto, Y., Shibata, H., Ueda, H., 2014年9月12日, 日本動物学会2014年度論文賞, "Olfactory homing of chum salmon to stable compositions of amino acids in natal stream water" Zoological Science, 30: 607-612 (2013)

伊藤美菜子, 2015年3月21日, 日本生態学会第62回大会 英語口頭発表賞

井上貴央, 2013年3月27日, 第124回日本森林学会盛岡大会, 学生ポスター賞, "森林土壤における窒素動態の空間的不均質性の形成要因の解明: リターと植生構造に着目して"

岩波秀晃, 2014年10月04日, 2012年度日本水文学会奨励論文賞

鍵谷進乃介, 内海俊介, 2015年3月21日, 日本生態学会ポスター発表優秀賞, 動物群集部門
高嶋孝寛, 2015年3月18日, 水産研究本部論文賞, 投稿論文「耳石断面観察によるホッケ道北群の年齢
査定法と年齢・サイズ関係」(日本水産学会誌 第79巻第3号 383-393頁)の受賞
細川奈々枝, 2014年4月28日, 日本地球惑星科学連合大会2014年大会, 生物地球化学セッション最優秀
ポスター賞, “土壤の凍結融解が根リターの変化を通して土壤の窒素動態におよぼす影響”
三澤桃, 欧巍, 山田敏也, 齊藤隆, 宇野裕之, 2015年3月19日, 第62回日本生態学会(優秀ポスター賞)
山崎遙, 吉田俊也, 2015年3月19日, 第62回日本生態学会大会ポスター賞 最優秀賞(群落・遷移・更
新), “表土が失われる土壤搅乱はウダイカンバの初期定着を妨げるか?”
篠原陽, 2015年1月24日, インカレねむろ・大学等研究プロジェクト2014研究発表大会 大地みらい信
用金庫賞(優秀賞), インカレねむろ・大学等研究プロジェクト2014研究発表大会口頭発表での
受賞
小野寺裕乃, 内海俊介, 2015年3月21日, 日本生態学会ポスター発表最優秀賞, 動物個体群・生活史部門
小野寺緑也, 秋元佑香, 島田卓哉, 齊藤隆, 2015年3月19日, 第62回日本生態学会(優秀ポスター賞)
小野寺緑也, 秋元佑香, 島田卓哉, 齊藤隆, 2015年2月20日, 日本生態学会北海道地区会若手研究奨励
賞
石山宙夢, 上野洋路, 稻津将, 伊藤幸彦, 2014年9月15日, 2014年度日本海洋学会秋季大会 若手ベスト
ポスター賞, 発表タイトル: 全球における海洋中規模渦の合併と分裂
渡邊友浩, 2014年9月13日, 優秀発表賞, 日本陸水学会つくば大会において口頭発表者の中で2名の發
表者が優秀発表者として選ばれた
内田健太, 鈴木圭, 鳩本樹, 柳川久, 小泉逸郎, 2015年2月20日, 2015年日本生態学会北海道地区大会,
若手研究奨励賞, “都市化が警戒心の季節性を減少させる: エゾリスでの逃避距離を用いた検証”
白曼大翔, 2014年12月20日, 日本水産学会 北海道支部大会 学生最優秀賞, 日本水産学会 北海道支部
大会での口頭発表「ヒゲの安定同位体比を用いた襟裳岬に生息するゼニガタアザラシの食性履歴」
の受賞
白曼大翔, 葛西広海, 田中寛繁, 山村織生, 小林万里, 宮下和士, 三谷曜子, 2014年12月19日, 平成26
年度日本水産学会北海道支部大会 最優秀学生講演賞, “ヒゲの安定同位体比分析によるゼニガタア
ザラシの食性履歴の推定”
廣口覚彦, 2014年9月26日, 新学術領域「植物細胞壁機能」第3回若手ワークショップ・第8回細胞壁
ネットワーク研究会優秀ポスター発表賞, 学会ポスター発表での優秀発表賞

環境物質科学専攻

松井計樹, 2014年9月20日, 第30回ライラックセミナー・第20回若手研究者交流会 優秀ポスター賞, 学
会/セミナーにおける発表に対する賞
杉内瑞穂, 2014年10月12日, 優秀学生発表賞(ポスター), 2014年光化学討論会
杉内瑞穂, 2014年5月23日, 若手優秀ポスター発表賞, ナノ学会第12回大会
杉内瑞穂, 2014年7月13日, 優秀講演賞, 日本化学会北海道支部2014年夏季研究発表会
杉内瑞穂, 2014年8月30日, 優秀ポスター賞, 2014年度北海道高分子若手研究会
大島雄, 2014年7月12日, 平成26年度「日本化学会北海道支部優秀講演賞」
中川翔太, 2014年7月12日, 平成26年度「日本化学会北海道支部優秀講演賞」
張明喆, 2014年5月30日, 優秀ポスター賞, 第63回高分子学会年次大会
木村駿介, 2014年12月14日, 第54回オーロラセミナー 優秀ポスター賞, 学会/セミナーにおける発表に
に対する賞
木村駿介, 2014年6月24日, 第65回コロイドおよび界面化学討論会 ポスター賞, 学会/セミナーにおけ
る発表に対する賞

1 3 修了後の進路

1 3-1 博士後期課程修了者

平成26年度修了者（平成27年5月1日現在）

就職先別統計

学術研究 5, 教育・学習支援 4, 製造業 2, その他 3, 計 14

主な進路

環境起学専攻

八戸高等専門学校, イスラム・インドネシア大学, Department of Agricultural Chemistry, Patuakhali Science & Technology University, 総合地球環境学研究所

地球圏科学専攻

Institute of Geography and Geoecology, Mongolian Academy of Science, Yangtze University, 立命館慶祥高等学校, 富士通エフ・アイ・ピー, 国立極地研究所

生物圏化学専攻

高研, アマゾン社

環境物質科学専攻

ガジャ・マダ大学, 大塚化学, ワールドインテック

1 3-2 修士（博士前期）課程修了者 平成26年度（平成27年5月1日現在）

就職先別統計

博士後期課程進学（他大学院を含む） 28, 農業・林業 6, 漁業 1, 建設業 2, 製造業 27, 電気・ガス・熱・水道 2, 情報通信 8, 運輸・郵便 2, 卸売・小売 3, 金融・保険 1, 学術研究 10, 生活関連サービス 2, 教育・学習支援 5, その他サービス 6, 公務員 11, その他 4, 計 118

主な進路

環境起学専攻

北海道庁, 北海道開発局, ホクレン農業協同組合連合会, 味の素冷凍食品, 大塚製薬, サントリー, 稚内北星学園大学, ドーコン, サタケ, セイコーマート, 東洋冷蔵, スペースタイム, アクティブアンドカンパニー, 同和ホールディングス

地球圏科学専攻

気象庁, 日本郵政, 野村総合研究所, 新潟県庁, 日本製紙, 富士通エフサス, 富士通エフ・アイ・ピー, 伊藤園, 埼玉県立高等学校, 全日本空輸, 西松屋チェーン, サンヨーコンサルタント, SCSK, パシフィックコンサルタンツ, レジェンドアプリケーションズ, ハイドロシステム開発, 埼玉県内の高等学校, 明治コンサルタント

生物圏科学専攻

北海道庁, 三井住友銀行, 神奈川県庁, 和歌山県庁, 札幌市役所（造園職）, 日本製紙木材, 山崎製パン, キューピー, P&G サロンプロフェッショナル, クボタシステム開発, TriReme Medical&Monterey Bay Aquarium, 北海道技術コンサルタント, アサンテ, 西原環境, ササクラ, ソフトコム, 安城学園高校, Centre for Climate Risk and Opportunity Management, 日本海洋掘削, 稲畑産業, ニチモウ, よしもと興業

環境物質科学専攻

ホクレン農業組合連合会, 三共油化工業, 花王, 札幌市生涯学習振興財団, 社会保険診療報酬支払基金, 日本甜菜製糖, 北海道コカ・コーラボトリング, 王子コンテナー, トヨタ自動車, アイックス, ラムリサーチ, MCフードスペシャリティーズ, 日本環境クリア, ピップ, ナード研究所, 生晃栄養薬品, イーエス総合研究所, 特種東海製紙, LIXIL, 豊田合成, 北日本港湾コンサルタント, 三浦工業, 錦城護謨, ジャスコエンジニアリング, NOK, JCU, アスパーク, ダイナックス, 北海道曹達, ムラカミ, アウトソーシングテクノロジー

V 補 遺

1 4 規程

北海道大学大学院環境科学院規程

平成17年4月1日
海大達第49号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人北海道大学組織規則（平成16年海大達第31号）第27条の3第4項の規定に基づき、環境科学院（以下「本学院」という。）の教育課程等に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第1条の2 本学院は、自然科学に基づき、地球規模の環境問題の解明と解決を目指す教育研究を行うとともに、これらの課題に取り組む研究者及び高度専門職業人の養成を目的とする。

第1章の2 専攻及び課程

(専攻)

第1条の3 本学院に、次の専攻を置く。

環境起学専攻

地球圏科学専攻

生物圏科学専攻

環境物質科学専攻

(課程)

第2条 本学院の課程は、博士課程とする。

第2章 入学、再入学、転学、所属変更及び転専攻

(入学)

第3条 本学院に入学することのできる者は、北海道大学大学院通則（昭和29年海大達第3号。以下「通則」という。）第4条第4項に規定する修士課程（以下「修士課程」という。）にあっては、通則第10条第1項、通則第4条第4項に規定する博士後期課程（以下「博士後期課程」という。）にあっては、通則第10条第2項に該当する者で、本学院の行う選考に合格した者とする。

(再入学、転学、所属変更及び転専攻)

第4条 通則第13条各号又は第13条の2第1号に該当する者が本学院に再入学、転学又は所属の変更を願い出した場合及び通則第13条の2第2号に該当する者が転専攻を願い出した場合は、選考の上これを許可することがある。

第3章 授業科目、修了要件、履修方法及び試験

(授業科目及び単位)

第5条 各専攻の授業科目及び単位は、別表のとおりとする。

2 前項に規定する授業科目のほか、必要がある場合においては、教授会の議を経て、臨時の授業科目を設けることができる。

(単位数の計算の基準)

第5条の2 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

(課程の修了要件)

第6条 修士課程の修了要件は、大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士課程の目的に応じ、本学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に關しては、優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 本学院において教育上有益と認めるときは、他の専攻、研究科、他の学院若しくは教育部の専攻又は学部の授業科目を指定して履修させ、修士課程の単位とすることができます。

3 本学院において教育上有益と認めるときは、北海道大学大学院理工系専門基礎科目規程（平成22年海大達第60号）に定める授業科目（以下この項及び次条において「理工系専門基礎科目」という。）のうち、別表

に掲げる授業科目以外の理工系専門基礎科目を指定して履修させ、修士課程の単位とすることができます。

4 本学院において教育上有益と認めるときは、北海道大学大学院共通授業科目規程（平成12年海大達第24号）に定める授業科目（次条において「共通授業科目」という。）を指定して履修させ、修士課程の単位とすることができます。

第7条 博士課程の修了要件は、大学院に5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、修士課程において30単位以上、博士後期課程において10単位以上をそれぞれ修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に關しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

2 前条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件については、前項中「5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは「修士課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは「3年（修士課程における在学期間を含む。）」と読み替えて、前項の規定を適用する。

3 前2項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程の後期3年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に關しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

4 本学院において教育上有益と認めるときは、理工系専門基礎科目のうち、別表に掲げる授業科目以外の理工系専門基礎科目を指定して履修させ、第1項の規定により修得すべき単位とすることができます。

5 本学院において教育上有益と認めるときは、共通授業科目を指定して履修させ、第1項の規定により修得すべき単位とすることができます。

（長期履修）

第8条 本学院において、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、教授会の議を経て、その計画的な履修（以下「長期履修」という。）を認めることができる。

2 長期履修に関し通則第4条の2に定めるもののほか、本学院において必要な事項は、教授会の議を経て、学院長が別に定める。

（他大学の大学院等における履修等）

第9条 本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学生が他の大学の大学院の授業科目を履修し、又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（次条において「国際連合大学」という。）において学修することを認めることができる。

2 前項の規定により学生が履修した授業科目について修得した単位又は学修の成果については、修士課程及び博士後期課程を通して10単位を超えない範囲において、教授会の議を経て第6条第1項又は第7条の規定により修得すべき単位の一部とみなすことができる。

3 本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学生が他の大学の大学院若しくは研究所等又は外国の大学の大学院若しくは研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

（入学前の既修得単位の認定）

第10条 本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、新たに本学院に入学した学生が、本学院に入学する前に本学若しくは他の大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として履修した授業科目について修得した単位を含む。）又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学において学修した成果を、本学院に入学した後の本学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、本学大学院において修得した単位以外のものについては、修士課程及び博士後期課程を通して10単位を超えない範囲において、第6条第1項又は第7条の規定により修得すべき単位の一部とすることができます。

(履修方法)

第11条 授業科目の履修方法の細目については、教授会の議を経て、学院長が定める。

(試験)

第12条 各授業科目の試験（以下「科目試験」という。）は、当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。

ただし、やむを得ない事由があるときは、教授会の議を経て、臨時に実施することができる。

(成績の評価)

第13条 科目試験の成績は、秀、優、良、可及び不可の5種とし、秀、優、良及び可を合格とする。

(学位論文の提出期日)

第14条 修士課程及び博士課程の学位論文は、本学院の定める期日までに提出しなければならない。

第4章 課程修了の認定

(課程修了の認定)

第15条 修士課程及び博士課程の修了は、当該課程の修了要件を満たした者について、教授会の議を経て認定する。

第5章 特別聴講学生、特別研究学生、委託生及び外国人留学生

(特別聴講学生)

第16条 本学院において特定の授業科目を履修し、単位を修得しようとする他の大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生があるときは、教授会の議を経て、特別聴講学生としてこれを許可することができる。

2 特別聴講学生は、学期又は学年ごとに許可する。

3 特別聴講学生に係る試験及び成績の評価については、第12条及び第13条の規定を準用する。

(特別研究学生)

第17条 本学院において研究指導を受けようとする他の大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生があるときは、教授会の議を経て、特別研究学生としてこれを許可することができる。

(委託生)

第18条 通則第43条及び第44条の規定による委託生の入学については、教授会の議を経て、許可することができる。

(外国人留学生)

第19条 通則第47条の規定による外国人留学生の入学については、教授会の議を経て、許可することができる。

附 則

1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。

2 北海道大学大学院通則の一部を改正する規則（平成17年海大達第45号）附則第2項に規定する地球環境科学研究科の地圏環境科学専攻、生態環境科学専攻、物質環境科学専攻又は大気海洋圏環境科学専攻に在学する者（以下「地球環境科学研究科在学者」という。）に係る教育課程の実施及び課程修了の認定は、同附則第4項の規定に基づき環境科学院が行うものとし、当該地球環境科学研究科在学者に係る教育課程、課程修了の要件その他教育に関し必要な事項は、環境科学院において別に定める。

3 北海道大学大学院地球環境科学研究科規程（平成5年海大達第15号）は、廃止する。

附 則（平成18年4月1日海大達第95号）

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年4月1日海大達第140号）

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 平成19年3月31日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成19年12月26日海大達第285号）

この規程は、平成19年12月26日から施行する。

附 則（平成20年4月1日海大達第83号）

1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

2 平成20年3月31日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成22年4月1日海大達第95号）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月1日海大達第121号）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

環境起学専攻

授業科目	単位	備考
修士課程 (必修科目)		修士課程の修了要件 必修科目12単位を含み、合計30 単位以上を修得すること。
環境起学論文講読 I	4	
環境起学特別研究 I (選択科目)	8	
環境科学基礎論	2	
地球環境科学総論	2	
地球温暖化総論	2	
環境修復学総論	2	
オゾン層破壊・紫外線影響評価総論	2	
生態系機能学総論	2	
水循環学総論	2	
共生システム創成学総論	2	
地球温暖化メカニズム特論	2	
地球温暖化物質科学特論	2	
地球温暖化生態学特論	2	
成層圏オゾン変動特論	2	
対流圏広域汚染特論	2	
保全生態学特論	2	
環境保全学特論	2	
水資源物理学特論	2	
流域環境学特論	2	
環境修復学特論	2	
環境修復研究法特論	2	
野外環境学特論	2	
生物資源環境学特論	2	
環境解析学特論	2	
国際コミュニケーション法特論	2	
地球温暖化対策特別講義	2	
環境国際関係論特別講義	2	
環境社会学特別講義	2	
環境解析法演習	4	
国際コミュニケーション法演習	4	
環境保全教育法演習	4	
統合環境観測法実習	4	
統合環境調査法実習	4	
環境保全教育法実習	4	
統合環境分析法実習	4	
博士後期課程 (必修科目)		
環境起学論文講読 II	4	
環境起学特別研究 II	8	

地球圏科学専攻

授業科目	単位	備考
修士課程 (必修科目)		修士課程の修了要件 必修科目12単位を含み、合計30 単位以上を修得すること。
地球圏科学論文講読 I	4	
地球圏科学特別研究 I (選択科目)	8	
古環境学基礎論	2	
地球雪氷学基礎論	2	
大気海洋物理学基礎論	2	
大気海洋化学基礎論	2	
第四紀環境変動特論	2	
山岳環境科学特論	2	
陸域環境統合システム特論	2	
陸圏物質循環学特論	2	
古気候変動学特論	2	
大気圏化学特論	2	
化学海洋学特論	2	
海洋堆積学特論	2	
環境分析化学特論	2	
生物地球科学特論	2	
氷河・氷床学特論	2	
雪氷水文学特論	2	
寒冷圏気象・気候学特論	2	
応用雪氷学特論	2	
大気環境科学特論	2	
極域海洋学特論	2	
大気力学特論	2	
海洋力学特論	2	
気候変動特論	2	
気候モデリング特論	2	
地球流体力学特論	2	
大気海洋解析法特論	2	
惑星系物質科学特論	2	
雪氷物性学特論	2	
宇宙雪氷学特論	2	
遠隔情報学特論	2	
地球圏科学特別講義 I	2	
地球圏科学特別講義 II	2	
地球圏科学特別講義 III	2	
地球圏科学特別講義 IV	2	
地球圏科学演習 I	4	
地球圏科学演習 II	4	
地球圏科学実習 I	4	
地球圏科学実習 II	4	
地球雪氷学実習	4	
博士後期課程 (必修科目)		
地球圏科学論文講読 II	4	
地球圏科学特別研究 II	8	

生物圏科学専攻

授業科目	単位	備考
修士課程 (必修科目)		修士課程の修了要件 必修科目12単位を含み、合計30 単位以上を修得すること。
生物圏科学論文講読 I	4	
生物圏科学特別研究 I (選択科目)	8	
多様性生物学基礎論	2	
生態学基礎論	2	
分子生物学基礎論	2	
海洋生物環境学基礎論	2	
フィールド科学基礎論	2	
生物生産学基礎論	2	
多様性生物学特論 I	2	
多様性生物学特論 II	2	
生態遺伝学特論 I	2	
生態遺伝学特論 II	2	
環境分子生物学特論 I	2	
環境分子生物学特論 II	2	
植物生態学特論 I	2	
植物生態学特論 II	2	
動物生態学特論 I	2	
動物生態学特論 II	2	
海洋生物圏環境科学特論 I	2	
海洋生物圏環境科学特論 II	2	
水圏科学特論 I	2	
水圏科学特論 II	2	
森林圏科学特論 I	2	
森林圏科学特論 II	2	
森林圏科学特論 III	2	
森林圏科学特論 IV	2	
耕地圏科学特論 I	2	
耕地圏科学特論 II	2	
生物圏科学特別講義 I	2	
生物圏科学特別講義 II	2	
生物圏科学実習 I	4	
生物圏科学実習 II	4	
博士後期課程 (必修科目)		
生物圏科学論文講読 II	4	
生物圏科学特別研究 II	8	

環境物質科学専攻

授業科目	単位	備考
修士課程 (必修科目)		修士課程の修了要件 必修科目18単位、選択必修科目から8単位以上を含み、合計30単位以上を修得すること。ただし、環境物質科学実習Ⅰ及び環境物質科学実習Ⅱの単位は、修了に必要な単位数に算入することができない。
環境物質科学論文講読Ⅰ	4	
環境物質科学特別研究Ⅰ	8	
環境物質科学基礎論Ⅰ	2	
環境物質科学基礎論Ⅱ	2	
環境物質科学基礎論Ⅲ (選択必修科目)	2	
分子環境学特論Ⅰ	2	
資源分子化学特論	2	
化学物質影響学特論	2	
環境生態化学特論	2	
環境触媒学特論	2	
分子機能材料特論	2	
ナノ構造制御化学特論	2	
光分子化学特論	2	
電子材料科学特論	2	
光触媒化学特論	2	
表面機能科学特論	2	
反応制御化学特論 (選択科目)	2	
分子環境学特論Ⅱ	2	
分子環境学特論Ⅲ	2	
環境物質科学特別講義Ⅰ	2	
環境物質科学特別講義Ⅱ	2	
環境物質科学実習Ⅰ	4	
環境物質科学実習Ⅱ	4	
博士後期課程 (必修科目)		
環境物質科学論文講読Ⅱ	4	
環境物質科学特別研究Ⅱ	8	

15 予算

年度	(単位：千円)
	運営費交付金
平成26年度	9, 134

16 安全管理

実施項目	防災訓練
実施日	6月23日
実施内容：実際の避難経路を利用した避難訓練の実施、化学薬品吸着剤の取り扱い、排風機の取り扱い、AEDの使用方法、防火・防災に関するスライド上映	
実施項目	安全教育
実施時期	4月～5月
実施内容：「安全の手引き」、「安全の手引き DVD版」、「化学薬品の取扱いについて」、「安全マニュアル 環境科学院」を活用して安全教育を各研究室等単位で実施	
実施項目	職場巡視
実施時期	10月～11月
実施内容：各研究室・実験室等における労働災害等を未然に防止するため、また省エネルギーの意識高揚を目的に、全ての実験室・居室等を対象に実施	

17 協定

国際交流：部局間交流協定

	国名	機関名	締結日	備考
1	アメリカ合衆国	イリノイ大学大学院シカゴ校 UIC Graduate College, The University of Illinois at Chicago	平成5年7月14日	
2	インドネシア共和国	パランカラヤ大学 University of Palangka Raya	平成7年3月16日 (更新：平成15年11月21日)	※
3	英国（UK）	ノッティンガム大学 University of Nottingham	平成8年2月9日 (廃止：平成14年2月6日)	
4	ネパール連邦民主共和国	トリブバン大学科学技術研究科 Tribhuvan University	平成9年10月17日 (更新：平成17年1月20日)	※
5	中華人民共和国	蘭州大学資源環境学院 School of Earth and Environmental Sciences, Lanzhou University	平成9年11月17日	※
6	マレーシア連邦	マレーシアサバ大学科学技術研究科 School of Science and Technology, Universiti Malaysia Sabah	平成10年1月16日 (廃止：平成15年1月15日)	
7	中華民国（台湾）	国立成功大学 National Cheng Kung University	平成22年9月2日	※
8	ドイツ連邦民主共和国	GEOMAR ヘルムホルツ キール海洋研究センター Helmholtz Centre for Ocean Research Kiel	平成24年5月31日	
9	中華民国（台湾）	国立東華大学 College of Environmental Studies, National Dong Hwa University	平成24年6月25日	
10	アメリカ合衆国	ユタ大学大学院・ナノ研究所 Graduate School/ Nano Institute of Utah, University of Utah	平成25年1月22日	
11	マレーシア連邦	マレーシアサバ大学 热帯生物保全研究所 Institute for Tropical Biology and Conservation, Universiti Malaysia Sabah	平成26年2月5日	
12	マレーシア連邦	マレーシア大学テレンガヌ校海洋科学・環境科学部 School of Marine Science and Environment, Universiti Malaysia Terengganu	平成26年9月19日	
13	ノルウェー王国	オスロ大学地球科学科 Department of Geosciences, University of Oslo	平成27年2月5日	

※ 後日大学間交流締結

国際交流：大学間交流協定

	国名	機関名	締結日	備考
1	大韓民国	ソウル大学校 Seoul National University	平成9年10月1日 (更新：平成14年10月1日， 平成19年10月1日)	
2	大韓民国	釜慶大学校 Pukyong National University	平成12年10月25日 (更新：平成17年10月25日， 平成22年10月25日)	
3	フィンランド共和国	オウル大学 University of Oulu	平成13年12月11日	
4	アメリカ合衆国	ハワイ大学マノア校 University of Hawaii at Manoa	平成15年6月30日	
5	中華人民共和国	南開大学 Nankai University	平成18年5月11日 (更新：平成23年5月11日)	
6	インドネシア共和国	パランカラヤ大学 University of Palangka Raya	平成18年8月26日 (更新：平成23年8月26日)	※
7	スイス連邦	スイス連邦工科大学 Swiss Federal Institute of Technology Zurich (ETH)	平成19年6月13日 (更新：平成23年6月13日)	※
8	ロシア連邦	極東連邦大学 Far Eastern Federal University	平成19年11月12日	
9	オーストラリア連邦	タスマニア大学 University of Tasmania	平成21年1月9日	
10	ロシア連邦	ロシア科学アカデミー極東支部 Far Eastern Branch of Russian Academy of Sciences	平成21年7月23日	

	国名	機関名	締結日	備考
11	ドイツ連邦民主共和国	ブレーメン大学 Universität Bremen	平成22年2月11日	
12	中華人民共和国	蘭州大学 Lanzhou University	平成22年4月9日	
13	ネパール連邦民主共和国	トリブバン大学 Tribhuvan University	平成22年10月24日	※
14	中華人民共和国	東南大学 Southeast University	平成22年10月29日	※
15	中華人民共和国	廈門大学 Xiamen University	平成22年11月25日	
16	中華人民共和国	中国海洋大学 Ocean University of China	平成23年2月3日	
17	中華人民共和国	西北農林科技大学 Northwest A&F University	平成23年10月13日	
18	中華民国（台湾）	国立中興大学 National Chung Hsing University	平成24年3月14日	
19	ロシア連邦	北東連邦大学 North-Eastern Federal University	平成24年4月2日	
20	大韓民国	成均館大学校 Sungkyunkwan University	平成24年12月27日	
21	中華民国（台湾）	国立成功大学 National Cheng Kung University	平成25年1月23日	
22	インドネシア共和国	バンドン工科大学 Institut Teknologi Bandung	平成26年3月20日	
23	フィリピン共和国	フィリピン大学 The University of The Philippines	平成26年7月16日	

※：責任部局として参画

